

# 市立横手病院年報

平成 27 年 度

市 立 横 手 病 院

# 平成27年度年報発刊に当たり

市立横手病院院長 丹 羽 誠

東日本大震災から4年が経過し、平成28年診療報酬改定の前年度の年報である。

## 1) 地域医療構想への対応

地域医療構想の概要と共に、地域住民の受診動態が示され、他の医療圏の住民が多く横手医療圏で受診していることが明らかとなった。当院の実情もそのとおりであり、現在の二次医療圏を超えた連携共同が行われていたことを確認するだけに留まった印象である。

病床機能に関しては、国の計算式によれば、当院の十数人が高度急性期に相当し、そのための高度急性期病床が不足している。地域では、急性期病床は過多、慢性期病床は全くの不足とされた。無論現実的ではなく、あくまでの試算であるが、2025年に急性期病床はさらに過多であるとされている。将来を見据えての様子見の状態である。

## 2) 収支改善の取り組み

平成26年度は経常損益で1億5000万円の赤字となり、大きな危機感をもって27年度収支改善に取り組んだ。その結果、平成27年度はわずかであったが黒字決算となった。かつて平成4年度の赤字に際しては、院内の収支改善委員会の活躍が大きく、その後の経営に大きな貢献をした歴史があった。その前例を参考に、収支改善委員会を立ち上げ、病院挙げての取り組みを行ったもので、課題の整理と対処を開始できた。

## 3) 診療・病棟体制について

呼吸器内科常勤医師不在のまま、週二日の外来を応援医師により維持し、入院は内科系外科系問わずの協力で担当することが続いた。懸案の糖尿病内科は、28年度から常勤医師派遣が決まり、大きな進展を見ることができた。

平成26年10月3C病棟に『地域包括ケア病棟』を導入し、他の4病棟で7対1急性期病棟を運営する形態となった。このマネージメントは大変であるが、医局にはよく協力をしていた。けた。

これが収支改善の大きな要素となった。

## 4) 総括して

前年度末の病院機能評価更新の後、人間ドック健診施設機能評価を受審、認定を受けるなど、日々の忙しい業務に加えての仕事をスタッフは良く耐えて前向きに取り組んでいただけた。厳しい状況でも一人一人が、そして組織として取り組んだ平成27年度であったと言える。

## 基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

## 基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

# 市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

## 1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

## 2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

## 3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

## 4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

## 5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

## 6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

# 患者様の権利と責務

## (患者さんの権利)

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利があります。
2. プライバシーを尊重される権利があります。
3. 診断・治療・経過について十分な説明を受ける権利があります。
4. 治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
5. 他の医師・医療機関の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
6. 診療内容や療養環境の不满などを申し出る権利があります。

## (患者さんの責務)

7. 自分の健康に関する情報を正確に伝える責務があります。
8. 自分の病気や治療について十分理解するよう努める責務があります。
9. 同意した方針による検査や治療に積極的に取り組む責務があります。
10. 快適な環境で医療を受けられるよう、病院の規則や病院職員の指示を守る責務があります。
11. 社会的なマナーを守り、他の患者さんに迷惑をかけないようにする責務があります。

# 目 次

巻頭言	1	呼吸器内科	53
基本理念・基本方針	2	心療内科	54
市立横手病院の倫理綱領	3	外科	55
患者様の権利と責務	4	整形外科	59
目 次	5	小児科	62
沿 革		産婦人科	65
沿 革	9	眼科	66
病院の概要		泌尿器科	67
開設者	17	放射線科	68
名 称	17	麻酔科	69
所在地	17	救急センター	70
開設年月日	17	薬剤科	72
事業管理者	17	臨床検査科	73
病床数	17	食養科	77
診療科目	17	リハビリテーション科	79
看護師配置基準	17	診療放射線科	82
医療機関の指定等	17	ME室	85
病院施設の概要	18	臨床研修部門	
病院統計		初期臨床研修室	88
収支決算	21	看護部門	
財務統計	23	看護科	89
患者統計	24	2 A病棟	91
手術統計	35	3 A病棟	93
検査統計	36	3 B病棟	94
診療放射線科統計	37	3 C病棟	96
食養科統計	38	4 C病棟	97
院内がん登録統計	39	外来部門	98
部門報告		手術室	99
診療部門		中央材料室・洗濯室	101
内 科	45	人工透析室	102
老年科	45	訪問看護センター	104
血液・腎臓内科	46	健診部門	
神経内科	47	健康管理センター	106
脳神経内科	48	医療安全部門	
消化器内科	49	医療安全管理室	109
循環器内科	51	感染対策室	114

医療情報部門	
医療情報管理室	116
地域医療連携室	117
医師事務支援部門	
医師事務支援室	119
事務部門	
事務局	120
総務課	121
医事課	126
<b>委員会活動</b>	
各種委員会名簿	129
医療安全管理対策委員会	131
医療事故対策委員会	133
院内感染対策委員会	134
栄養管理委員会	135
NST委員会	136
褥瘡対策委員会	137
緩和ケアチーム委員会	138
救急センター運営委員会	139
手術室運営委員会	140
糖尿病委員会	141
輸血療法委員会	142
臨床検査適正化委員会	144
化学療法委員会	145
退院支援委員会	146
倫理委員会	147
図書委員会	148
治験委員会	150
臨床研修管理委員会	151
診療材料検討委員会	154
病床運営委員会	155
医療情報管理委員会	156
電子カルテ委員会	157
DPC委員会	158
クリニカルパス委員会	159
業務改善委員会	160
地域交流推進委員会	161
病院機能評価準備委員会	164
薬事委員会	166
衛生委員会	168
患者サービス向上委員会	170
病院教育委員会	171
広報委員会	172
個人情報保護推進委員会	173
診療録開示審査会	174
年報編集委員会	175
医療ガス安全管理委員会	176
医療廃棄物管理委員会	177
防災対策委員会	178
省エネ推進委員会	179
看護科の委員会	
教育委員会	180
看護研究委員会	181
看護必要度・記録委員会	183
看護計画委員会	184
固定チームナーシング委員会	185
師長会	186
師長主任会	187
副主任会	189
看護補助者会	191
<b>学術研究業績</b>	
医局勉強会	195
学術発表	196
<b>職員等互助会</b>	
職員等互助会	199
<b>同好会活動</b>	
野球部	203
バレーボール部	204
卓球部	205
<b>編集後記</b>	

# 沿 革





# 沿革

明治14年	私立横手病院創立
17年	公立平鹿病院と改称
21年3月	県が公立病院設置規則公布
22年7月31日	廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける
12月15日	公立横手病院として開院、総坪数78坪、初代院長中村良益氏就任
24年11月	大町下丁に新築工事着手
25年1月30日	竣工開院
33年4月1日	平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置
昭和27年2月7日	醍醐診療所開設、初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）
11月15日	保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）
28年9月21日	栄診療所開設、初代所長和賀卓爾氏就任（専任）
9月30日	横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）
34年7月3日	厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手、大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設
35年3月31日	醍醐診療所廃止
7月31日	改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）
9月6日	竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）
36年2月1日	地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用
4月1日	国民健康保険制度施行
7月7日	伝染病棟移転改築工事竣工、横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称
7月7日	結核病棟改築竣工（総工費300万円）
38年10月1日	健康保険法による基準寝具承認、3病棟160床
39年6月30日	救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）
40年7月15日	集中豪雨による横手川氾濫、午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診、復旧費150万円
41年1月1日	地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）
43年3月25日	温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手
7月30日	同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）
8月1日	リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可
45年12月15日	准看護学院創立20周年記念式典、第20期までの卒業生358名
48年4月1日	横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称
5月14日	医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）
56年10月1日	基準看護一般病棟160床特二類承認、承認番号（看）第20号
57年12月15日	看護職員に対する勸奨（希望）退職制度の適用
59年7月31日	第1病棟（47床）、伝染病棟（10床）閉鎖、解体
8月1日	病院開設許可事項変更許可（指令医一299） 一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
8月30日	病棟改築工事起工式
60年10月20日	新病棟竣工（着工59.8.24）

62年3月31日 附属准看護学院閉校（昭和27年11月開校以来34期592名卒業）  
 7月7日 CT導入（設置許可指令医－684）  
 63年4月1日 健康管理センター発足  
 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催  
 9月16日 開設100周年記念式典  
 12月1日 基準寝具承認指令保－1531 194床 承認番号（寝第7号）  
 平成2年7月24日 皆川浄司院長急逝  
 9月1日 江本彰二院長就任  
 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立  
 平成3年1月1日 基準看護（特2類看護）辞退  
 1月9日 病院開設許可事項変更許可（指令医－1801）  
 一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260  
 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工（250床）  
 4月1日 基準看護（特2類看護）承認（看第61号）指令保2363  
 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝  
 平成4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設  
 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令  
 4月4～5日 新しい診療棟移転  
 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始  
 7月1日 泌尿器科外来診療開設  
 7月3日 人工透析開設（10床）  
 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン  
 7月31日 第2期改築工事竣工（着工3.2.1、完成4.7.31）  
 8月1日 看護4単位制に入る（250床 実施開始）  
 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式  
 10月1日 新カルテ（A4版）に変更  
 11月7～8日 第1回病院祭  
 12月1日 特3類看護（2病棟、3B病棟）117床承認される（承認番号（看）第25号）  
 重症者の収容基準承認される（承認番号（重収）第18号）  
 個室4床 201・218・367・420号室  
 2人部屋6床 350・321・422号室  
 平成5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号（夜看）第21号）  
 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認  
 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる  
 8月1日 入院時医学管理料承認される  
 9月24日 健康管理センター棟着工  
 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される  
 平成6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）  
 6月1日 完全週休2日制実施  
 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始  
 9月8日 経営コンサルティングの実施  
 平成7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認  
 6月30日 江本院長退任

- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任
- 8月5日 基本理念策定  
「安心できる良質な医療の提供」  
「心ふれあう人間味豊かな対応」
- 基本方針策定  
「地域医療への貢献」  
「患者サービスの充実」  
「健全な病院経営」
- 運営方針策定  
「急性期医療の充実」  
「生活習慣病の予防」  
「検診業務の拡大」
- 平成8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審
- 6月3日 眼科外来診療開設 (週1回月曜日午後)
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認
- 7月5日 更年期外来開設
- 12月5日 心療科外来診療開設 (週1回)
- 12月11日 MR I棟着工
- 平成9年3月19日 MR I棟竣工
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任
- 4月21日 食堂を開設
- 4月28日 MR I装置稼働
- 9月27日 横手病院温故会 (OB会) 設立
- 平成10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任
- 4月13日 診療材料管理システム稼働
- 平成11年4月1日 院外処方実施 (7月から全面実施)
- 4月1日 第2種感染症指定医療機関 (4床)
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始
- 10月30日 横手病院110周年記念式典
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床  
検体検査管理加算取得 (算定4月1日)
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱
- 7月1日 新財務会計システム稼働
- 7月26日 新基本理念策定  
地域の人々に信頼される病院を目指します。  
安心できる良質な医療の提供  
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定  
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。

地域医療・保健に貢献します。

健全な病院経営に努めます。

- 平成15年 2月13日 自動再来受付機稼働開始  
3月31日 正宗名誉院長退任  
4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任  
4月30日 マスタープラン策定部会答申提出  
6月20日 「患者様の権利と責務」策定  
8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）  
9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定  
10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年 1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）  
1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）  
3月1日 公立横手病院広報第1号発行  
3月25日～27日 病院機能評価受審  
5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰  
6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長  
7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）  
7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート  
8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生  
11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年 2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催  
2月10日 病院機能評価窓口相談  
5月9日 新CT使用開始  
5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける  
6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習  
6月23日 長野県東御市議会が当院を視察  
7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察  
8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察  
9月23日 閉市式 市民会館  
10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年 4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察  
8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年 3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始  
5月15日 福島県桑折町議会 病院視察  
6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習  
10月1日 電子カルテ稼働
- 平成20年 6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習  
11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 平成21年 2月1日 増改築工事開始  
3月6日 病院増築安全祈願祭  
4月1日 D P C 対象病院に認定  
5月1日 麻酔科開設  
10月5日 新手術室使用開始

- 11月16日 新産科病棟使用開始
- 平成22年 3月11日～13日 日本病院機能評価機構 病院機能評価受審
- 3月31日 長山正四郎院長退任
- 4月1日 丹羽誠院長就任
- 4月15日 新館増築（C棟）完成
- 5月1日 3C、4C病棟稼働
- 5月6日 新館オープンセレモニー、C棟外来診療開始
- 5月16日 市医師会による日曜休日診療開始（第1・3・5日曜）
- 8月6日 日本病院機能評価機構の認定（Ver6.0）を受ける
- 9月1日 2A、3A病棟稼働
- 12月1日 3B病棟稼働（一般病床225床体制へ）
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査
- 平成23年 3月11日 14：46東日本大震災発生 停電（復旧12日14：16）、断水等  
（復旧12日16：10）の状況下での診療対応
- 4月1日 新感染症病床稼働（4床）
- 4月7日 23：32大震災余震発生 停電（復旧8日9：40）、断水等  
（復旧8日17：30）の状況下で診療対応
- 5月12日～16日 釜石市災害医療応援派遣  
（医師・看護師・PT等3人1チーム、延15人派遣）
- 5月31日 増改築工事竣工
- 6月1日 一般病棟入院基本料（7：1）承認
- 7月30日 増改築工事竣工式
- 9月1日 クレジットカード払い開始
- 平成24年 3月31日 長山正四郎先生 横手市病院事業管理者を退任
- 4月1日 丹羽誠院長 横手市病院事業管理者に就任  
長山正四郎先生 顧問に就任
- 6月1日 感染対策室を設置（医療安全管理室より分離）
- 平成25年 4月24日 眼科にて白内障の手術開始（週1回）
- 平成26年 4月5日 地域包括ケア病棟の認定に向けた病棟再編（亜急性期病床を3C病棟に移動）
- 8月1日 在宅療養後方支援病院に認定
- 10月1日 地域包括ケア病棟に3C病棟が認定
- 平成27年 3月18日～19日 日本病院機能評価機構 病院機能評価（3rdG：Ver.1.0）受審

## 平成27年度の主な出来事

- 平成27年 4月1日 辞令交付式
- 4月1日～4日、7日～11日 新規採用職員研修
- 4月24日 病院歓送迎会（シャイニーパレス）
- 5月11日～22日 救急救命士就業前教育病院実習
- 5月18日～5月22日 秋田大学医学部6年次臨床配属
- 6月1日～12日 救急救命士就業前教育病院実習
- 6月1日～7月17日 救急救命士気管挿管病院実習
- 6月5日～7月11日 助産科実習（県立衛生看護学院助産科）

6月26日 防災訓練（上期）  
 7月6日～7日、8日～9日、13日～14日、15日～16日 秋田大学医学部3年次研修  
 7月19日 レジナビフェア2015in東京（東京ビックサイト）  
 7月30日 ふれあい看護体験  
 8月7日 日本病院機能評価機構 病院機能評価（3rdG：Ver.1.0）認定  
 8月9日 職員採用試験  
 8月15日 盆踊り  
 8月20日 医療安全合同研修会（市役所 南庁舎講堂）  
 8月23日 職員採用試験  
 9月12日、17日 研修旅行（仙北市）  
 9月25日～27日 研修旅行（札幌市）  
 9月28日～10月9日 秋田大学医学部5年次地域医療実習  
 10月2日～11月19日 救急救命士再教育病院実習  
 10月3日 市政施行10周年記念式典  
 10月4日 病院祭  
 10月6日・13日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習  
 10月7日、10日 研修旅行（仙台市）、17日（盛岡市）  
 10月22日 防災訓練（下期）  
 10月28日～29日、10月31日～11月1日 研修旅行（横浜・鎌倉）  
 11月1日 初期臨床研修室を設置  
 11月4日 地域医療連携セミナー  
 11月6日 第17回コメディカル研究発表会  
 11月8日 市民と集う看護フォーラム  
 11月10日・17日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習  
 11月19日 東北厚生局臨床研修病院実地調査  
 11月29日 第23回秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）  
 12月2日 接遇・個人情報保護研修会  
 12月3日 県南自治体病院事務長・総看護師長会議（横手市）  
 12月6日 職員採用試験  
 12月11日 感染対策研修会  
 12月15日 医療監視  
 12月18日 大忘年会（ラ・ポート）  
 12月23日 第22回白衣のクリスマスコンサート  
 平成28年1月4日 年始式  
 1月15日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）  
 2月2日 救急症例検討会  
 2月14日 病院かまくら  
 2月15日 保険診療に関する研修会  
 3月6日 レジナビ福岡  
 3月11日 人間ドック機能評価訪問審査  
 3月18日 病院送別会（シャイニーパレス）  
 3月25日・31日 退職者辞令交付式

## 病院の概要





## 病院の概要

開設者	横手市長 高 橋 大
名 称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所 在 地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	丹 羽 誠
病 床 数	一般病床225床（2 A病棟39床、3 A病棟49床、3 B病棟44床、3 C病棟47床、 4 C病棟46床）、感染症病床4床 計229床
診療科目	内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、外科、 整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、 麻酔科
看護師配置基準	7 : 1

### 医療機関の指定等

指 定

救急告示病院  
保険医療機関  
労災保険指定医療病院  
労災保険二次健康診断指定医療機関  
指定自立支援医療機関（更正医療）  
指定自立支援医療機関（育成医療）  
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関  
精神保健指定医の配置されている医療機関  
生活保護法指定医療機関  
母子保護法による指定養育医療機関  
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関  
原爆被爆者健康診断委託医療機関  
第二種感染症指定医療機関  
臨床研修病院指定施設  
肝疾患診療専門医療機関  
難病指定医療機関  
D P C 対象病院  
指定小児慢性特定疾病医療機関

## 認 定

財団法人日本医療機能評価機構認定  
 日本内科学会認定医制度教育関連病院  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本消化器病学会専門医制度認定施設  
 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設  
 日本アレルギー学会教育施設  
 日本外科学会外科専門医制度関連施設  
 日本整形外科学会専門医制度研修施設  
 日本がん治療認定医機構認定研修施設  
 日本麻酔科学会認定病院  
 日本緩和医療学会認定研修施設  
 日本ペインクリニック学会専門医認定指定研修施設  
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設  
 母体保護法指定医師研修機関（県医師会）  
 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設  
 日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設  
 医療被ばく低減認定施設  
 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

## 病院施設の概要

敷地面積	8,172.16㎡
建築面積	4,793.60㎡

	構造	延面積(㎡)	完成年月日
本館（A棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	5,130.66	昭和60年8月24日
新館（B棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	6,389.99	平成4年7月31日
本館（C棟）	鉄筋コンクリート造、地上4階、塔屋1階	4,524.95	平成22年4月15日
計		16,045.60	

# 病院統計



# 収支決算

## 貸借対照表

単位：円

	平成26年度	平成27年度
固定資産	4,532,935,480	4,257,411,744
有形固定資産	4,531,907,900	4,256,384,164
土地	387,443,919	410,344,269
建物	3,274,310,668	3,106,127,096
構築物	19,795,426	16,158,177
器械及び備品	841,852,773	717,707,087
車両	8,505,114	6,047,535
無形固定資産	1,027,580	1,027,580
電話加入権	1,027,580	1,027,580
流動資産	2,457,446,227	2,539,763,931
現金預金	1,484,271,347	1,565,659,706
未収金	928,512,738	937,569,819
貯蔵品	44,662,142	36,534,406
資産合計	6,990,381,707	6,797,175,675
固定負債	3,431,676,470	3,190,826,653
企業債	2,775,449,470	2,534,599,653
引当金	656,227,000	656,227,000
流動負債	742,939,488	686,570,739
企業債	393,788,000	306,950,000
未払金	191,890,601	212,128,682
預り金	26,946,887	26,664,057
引当金	130,314,000	140,828,000
繰延収益	5,211,590	4,369,084
長期前受金	5,211,590	4,369,084
負債合計	4,179,827,548	3,881,766,476
資本金	3,636,683,153	2,895,717,159
剰余金	△ 826,128,994	19,692,040
利益剰余金	△ 826,128,994	19,692,040
減債積立金	18,400,000	18,400,000
当年度未処分利益剰余金	△ 844,528,994	1,292,040
資本合計	2,810,554,159	2,915,409,199
負債資本合計	6,990,381,707	6,797,175,675

## 収益的収支決算（税抜き）

単位：円

科 目	平成26年度	平成27年度
病院事業収益	5,103,924,370	5,407,970,856
医業収益	4,766,465,789	5,063,229,012
入院収益	2,933,858,457	3,055,746,485
外来収益	1,573,556,068	1,742,559,523
その他医業	259,051,264	264,923,004
医業外収益	337,428,066	344,558,274
受取利息及び配当金	625,795	641,387
国県補助金	8,614,244	7,752,244
他会計補助金	5,861,100	5,861,100
他会計負担金	294,866,000	308,242,000
長期前受金戻入	432,410	832,518
その他医業外収益	27,028,517	21,229,025
特別利益	30,515	183,570
病院事業費用	6,031,549,674	5,406,678,816
医業費用	5,193,442,597	5,352,268,426
給与費	2,929,294,594	2,981,858,255
材料費	1,241,925,039	1,413,514,534
経費	604,852,964	563,282,707
減価償却費	395,374,993	369,506,376
資産減耗費	3,782,044	4,489,643
研究研修費	18,163,763	19,483,511
重量税	49,200	133,400
医業外費用	63,713,738	53,684,528
支払利息及び企業債取扱諸費	56,996,353	52,684,528
雑損失	6,717,385	1,000,000
特別損失	774,393,339	725,862
当年度純利益	△ 927,625,304	1,292,040
前年度繰越利益剰余金	83,096,310	△ 844,528,994
資本金の減少による欠損填補		844,528,994
当年度未処分利益剰余金	△ 844,528,994	1,292,040
未処分利益剰余金の処分		

## 資本的収入決算

単位：円

資本的収入	221,632,000	169,663,000
他会計出資金	100,770,000	103,563,000
企業債	118,000,000	66,100,000
国県補助金	2,862,000	
固定資産売却代金		
資本的支出	548,496,721	491,960,100
建設改良費	163,778,038	98,172,283
企業債償還金	384,718,683	393,787,817
差引収支不足額	△ 326,864,721	△ 322,297,100
補てん財源	326,864,721	322,297,100
過年度分損益勘定留保資金	326,864,721	322,297,100

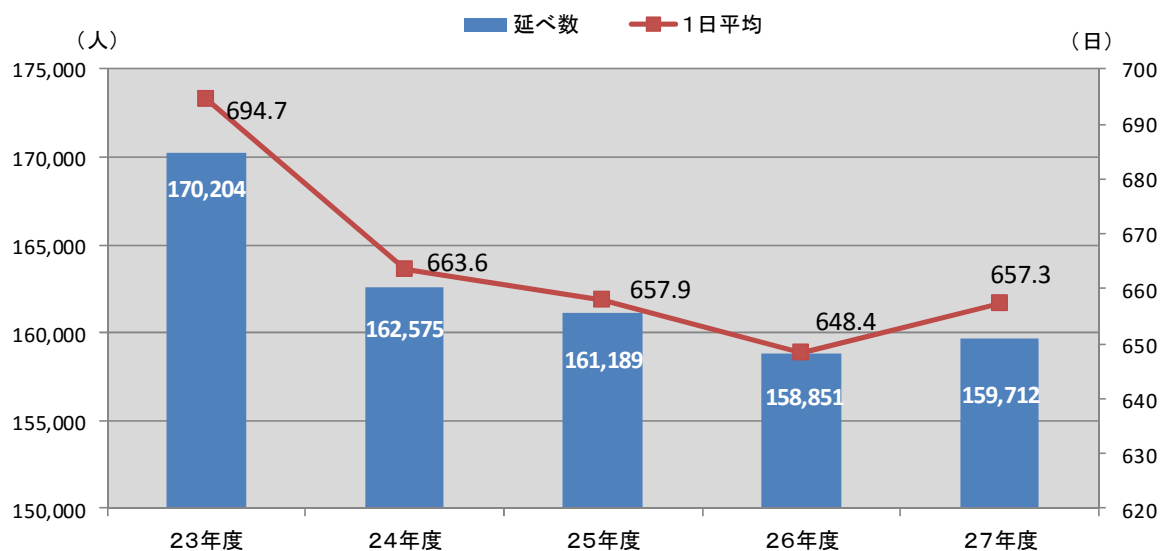
## 財務統計

区 分	算 式	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
経常収支比率(%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	103.5	99.4	98.5	97.1	100.0
医業収支比率(%)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	100.7	96.5	95.3	92.8	96.1
職員給与費 対医業収益比率(%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	49.1	51.7	51.0	53.3	50.6
材料費 対医業収益比率(%)	$\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	22.9	22.8	24.6	25.7	27.4
うち薬品費比率(%)	$\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	13.6	12.7	12.8	13.2	15.1
減価償却費 対医業収益比率(%)	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.1	8.8	8.6	8.2	7.2
委託料 対医業収益比率(%)	$\frac{\text{委託料}}{\text{医業収益}} \times 100$	4.7	5.1	5.1	5.3	4.8
他会計繰入金 対医業収益比率(%)	$\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{医業収益}} \times 100$	6.0	6.4	6.0	6.1	6.0
病床利用率(%)	$\frac{\text{年間延べ入院患者数}}{\text{年間延べ病床数}} \times 100$	82.6	78.1	77.6	76.0	78.1
入院診療単価(円)	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延べ入院患者数}}$	42,566	43,651	45,264	46,214	47,535
外来診療単価(円)	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延べ外来患者数}}$	9,085	9,205	9,344	9,906	10,911
累積欠損金比率(%)	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$				17.5	



# 患者統計

## 外来患者延数



### 外来患者延数(科別)

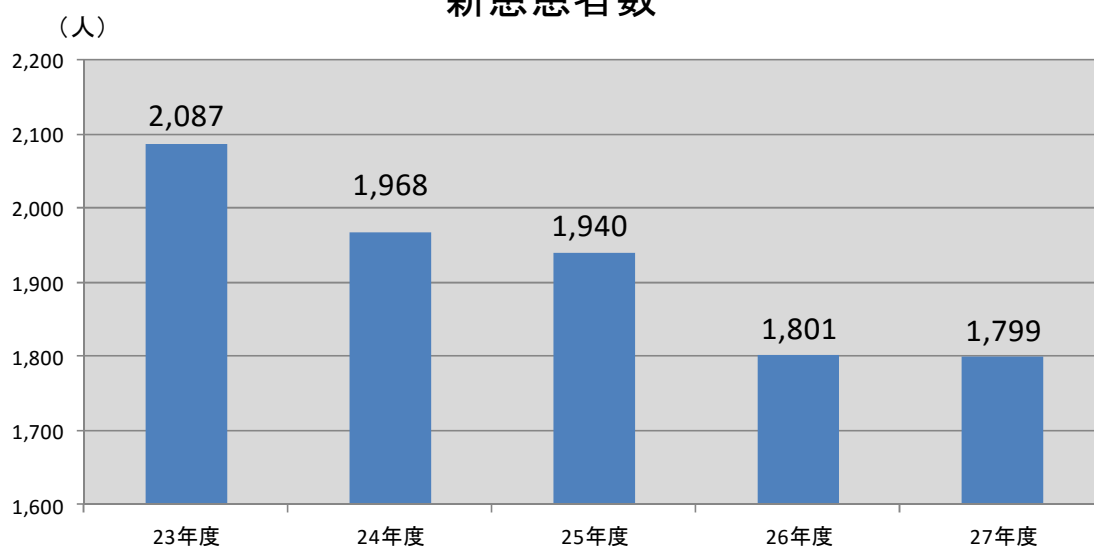
(単位:人)

科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	39,860	37,936	38,073	34,575	34,127
心療内科	1,486	1,143	893	921	822
呼吸器内科	4,801	5,082	2,467	1,843	1,721
消化器内科	21,284	20,333	21,982	26,434	28,358
循環器内科	11,199	10,868	11,277	10,680	11,180
外 科	16,662	16,008	14,590	15,065	15,781
整形外科	24,977	24,718	25,065	23,726	23,021
産婦人科	8,175	7,444	7,342	7,104	7,693
小 児 科	23,792	21,458	19,498	17,483	16,788
泌尿器科	14,437	14,030	15,568	16,227	15,150
眼 科	2,095	2,125	2,710	2,866	3,056
放射線科	684	726	762	806	868
麻酔科(ペインクリニック)	752	704	959	1,121	1,147
計	170,204	162,575	161,186	158,851	159,712

※訪問看護センターは、内科に含む

※人工透析は、泌尿器科に含む

## 新患者数



### 新患者数(科別)

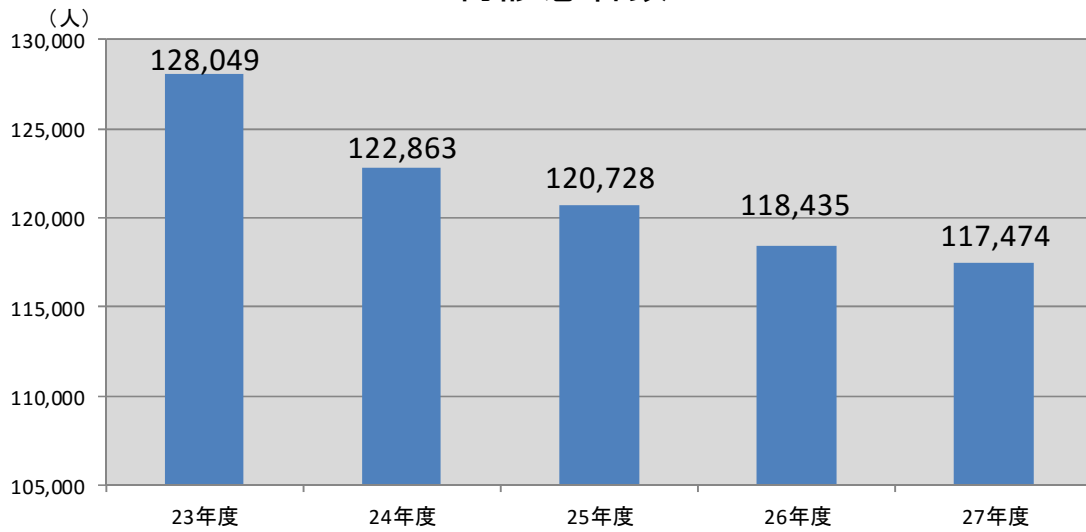
(単位:人)

科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	852	808	803	582	588
心療内科	3	0	1	7	3
呼吸器内科	6	7	3	1	0
消化器内科	112	102	130	276	255
循環器内科	8	8	4	4	4
外 科	180	150	103	106	108
整形外科	379	398	446	397	410
産婦人科	108	92	61	51	67
小 児 科	344	312	270	279	272
泌尿器科	64	63	77	61	59
眼 科	7	11	19	16	20
放射線科	19	16	14	14	8
麻酔科(ペインクリニック)	5	1	9	7	5
計	2,087	1,968	1,940	1,801	1,799

※訪問看護センターは、内科に含む

※人工透析は、泌尿器科に含む

## 再診患者数



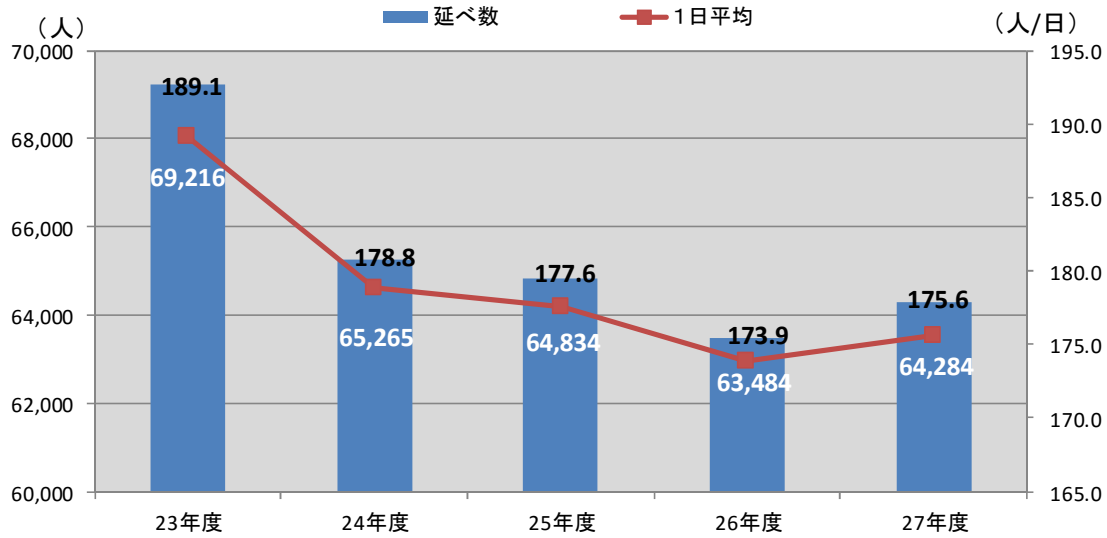
### 再診患者数(科別)

(単位:人)

科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	27,383	25,827	25,793	24,399	23,235
心療内科	1,300	1,023	777	755	685
呼吸器内科	4,000	4,322	2,120	1,542	1,421
消化器内科	17,331	16,620	17,586	20,168	21,392
循環器内科	9,024	8,821	8,884	8,499	8,844
外 科	13,118	12,459	10,965	11,318	11,787
整形外科	20,239	20,044	20,233	19,145	18,366
婦人科	5,564	5,287	5,116	5,017	5,424
小 児 科	15,020	13,432	12,244	10,000	9,272
泌尿器科	12,628	12,495	13,765	14,044	13,210
眼 科	1,723	1,805	2,323	2,487	2,680
放射線科	82	109	97	111	143
麻酔科(ペインクリニック)	637	619	825	950	1,015
計	128,049	122,863	120,728	118,435	117,474

※訪問看護センターは、内科に含む

## 入院患者延数



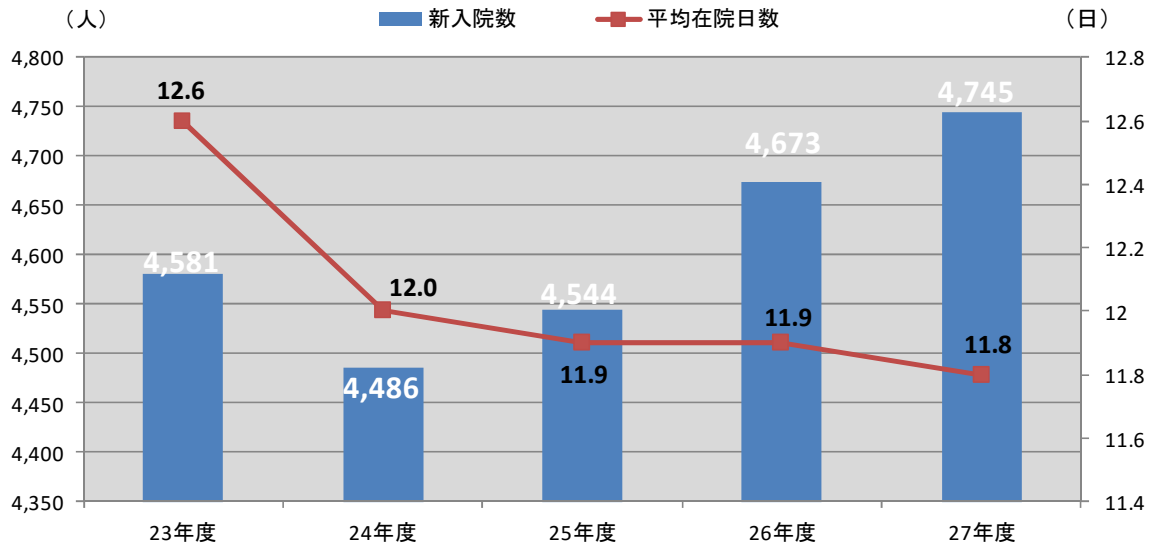
入院患者延数(科別)

(単位:人)

科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	2,520	2,577	2,754	3,747	2,231
呼吸器内科	4,839	5,609			
消化器内科	25,897	23,316	26,692	25,217	28,359
循環器内科	5,496	6,503	6,196	5,938	6,683
外 科	10,849	9,638	10,819	9,753	9,234
整形外科	10,117	9,191	10,093	9,473	10,167
産婦人科	4,506	3,593	3,639	4,146	3,592
小 児 科	2,533	2,743	1,793	1,446	1,747
泌尿器科	2,350	1,991	2,534	3,495	2,062
眼 科			176	188	148
麻酔科(ペインクリニック)	109	104	138	81	61
計	69,216	65,265	64,834	63,484	64,284

※H25 より眼科入院治療開始

## 平均在院日数と新入院患者数

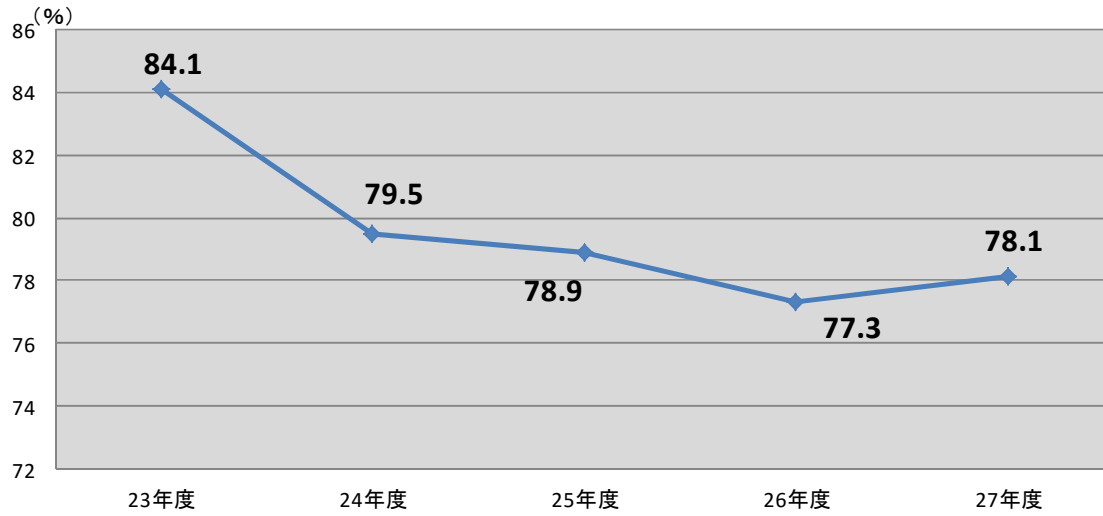


診療科別平均在院日数(科別)

(単位:日)

科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	36.6	35.6	40.1	27.2	30.7
呼吸器内科	18.5	17.2			
消化器内科	15.4	14.6	14.6	12.7	12.9
循環器内科	24.2	27.3	22.4	24.6	24.5
外科	11.9	11.5	11.5	10.7	10.1
整形外科	25.7	23.6	21.8	22.9	23.0
産婦人科	7.5	6.9	7.1	7.3	7.1
小児科	3.8	3.5	3.7	3.4	3.4
泌尿器科	11.3	11.9	9.9	11.4	10.6
眼科			1.0	1.0	1.0
麻酔科(ペインクリニック)	7.4	3.9	3.5	2.2	1.8
平均	14.1	13.6	13.3	12.6	12.5

## 平均病床利用率



### 病床利用率(病棟別)

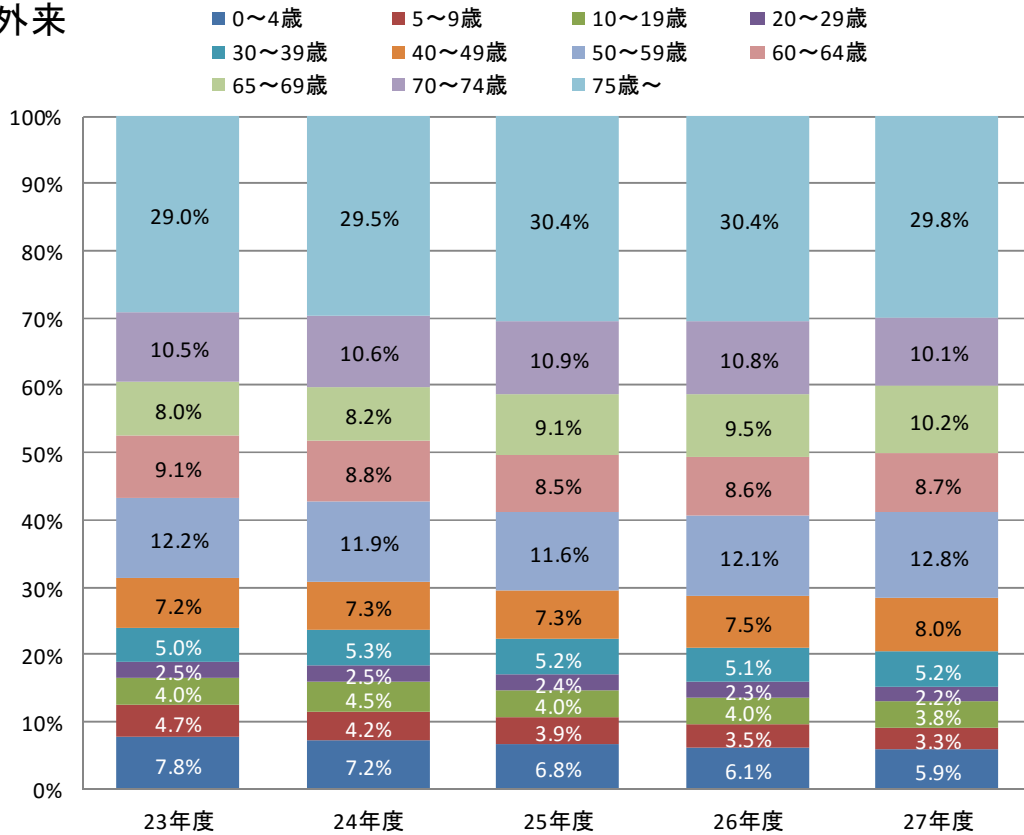
(単位: %)

病棟	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
2 A	82.2	76.2	71.4	76.5	74.4
3 A	88.8	86.6	83.2	78.2	78.0
3 B	87.7	81.3	84.3	85.3	80.4
4 C	78.1	72.5	70.5	77.5	78.3
3 C	83.2	79.8	84.0	71.9	78.9
平均	84.1	79.5	78.9	77.3	78.1

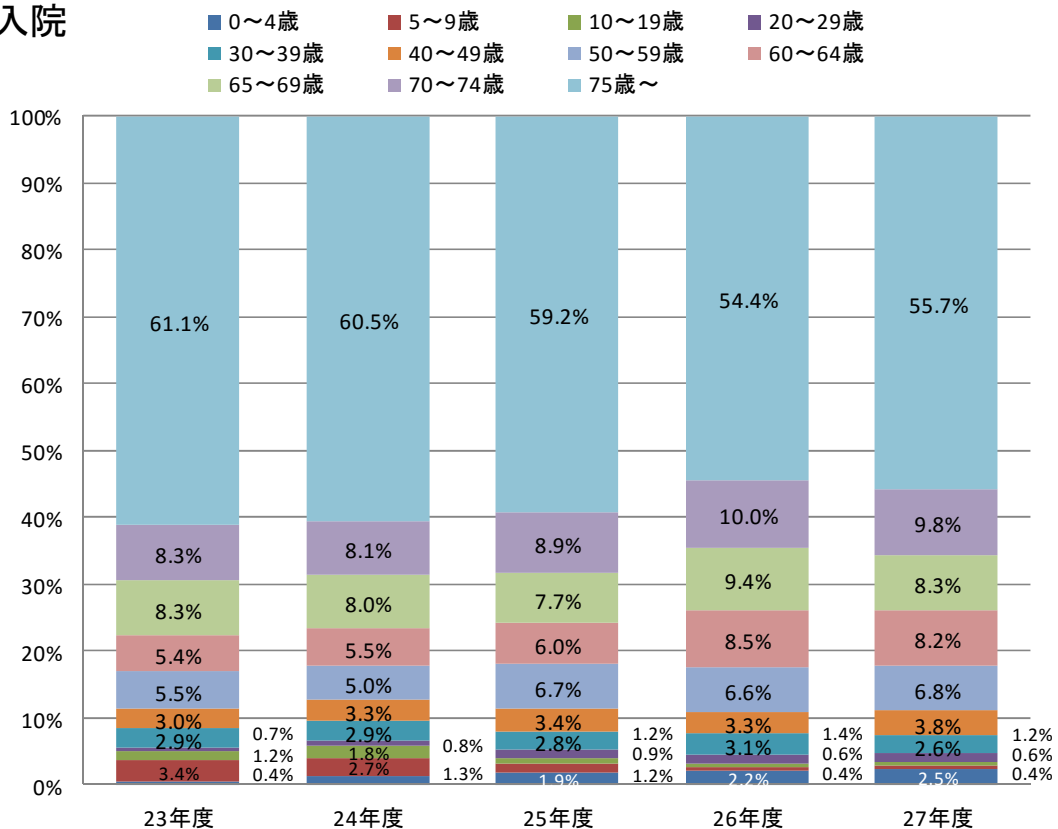
※3C 病棟は、H26.10 より地域包括ケア病棟

## 外来・入院年齢別構成比

### 外来

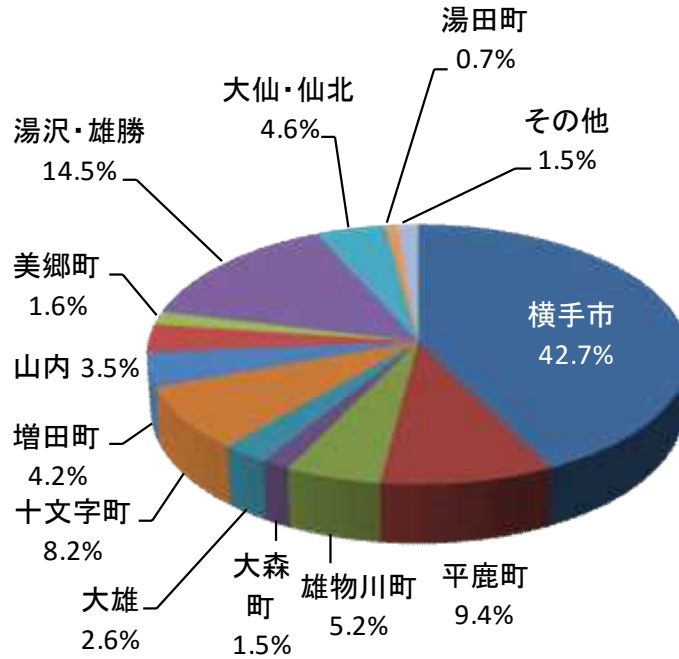


### 入院

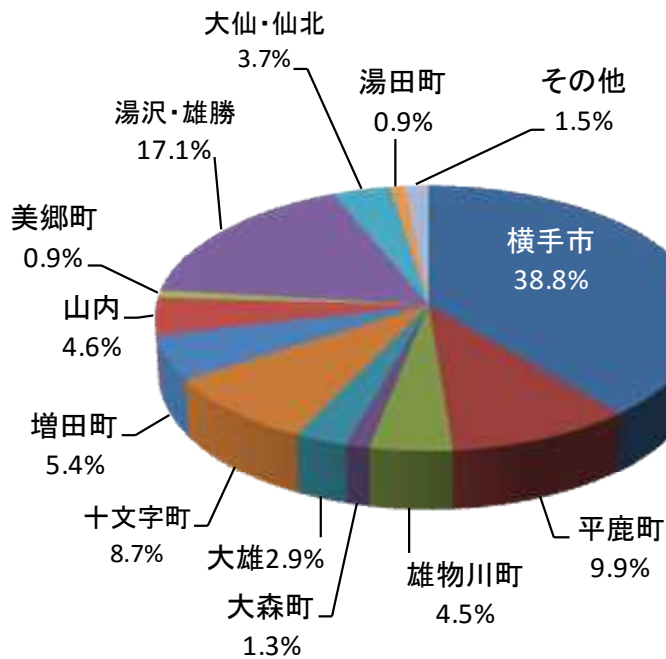


## 外来・入院地域別構成比

### 外来

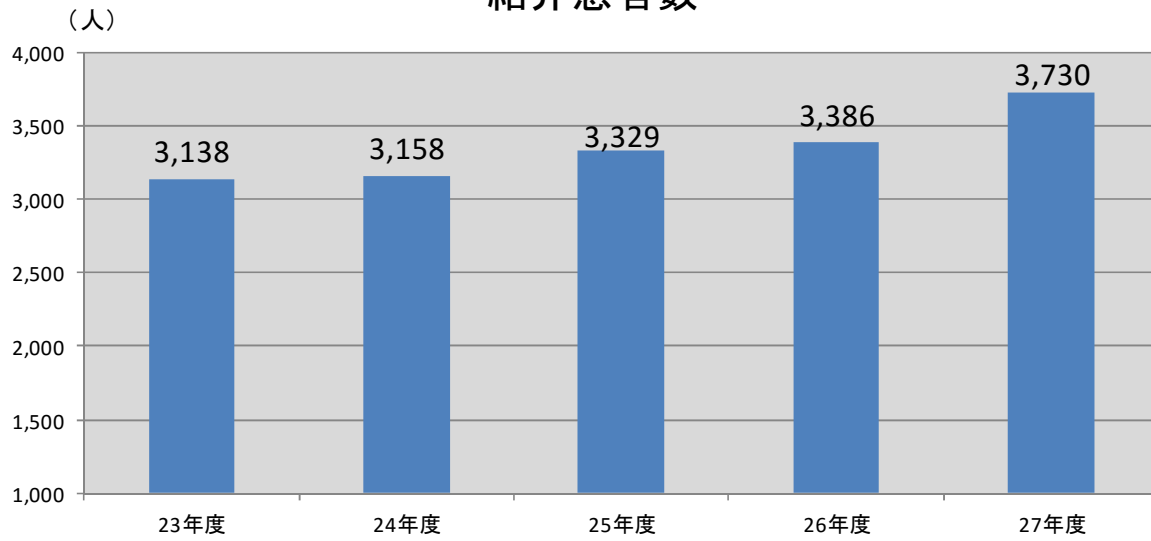


### 入院





## 紹介患者数



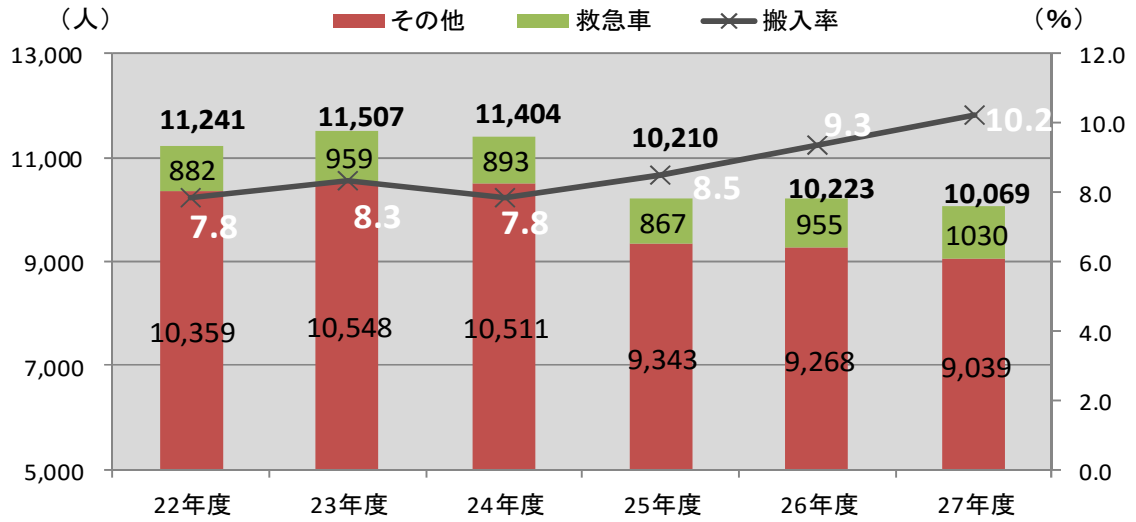
### 紹介患者数(科別)

(単位:人)

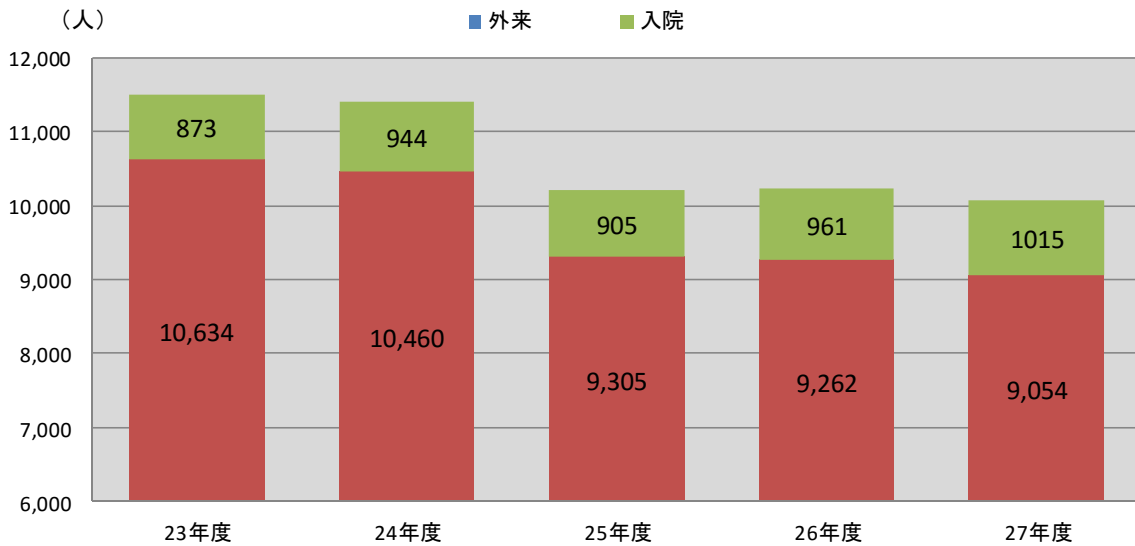
科	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	147	172	177	219	200
心療内科	6	3	1	6	8
呼吸器内科	78	88	5	14	9
消化器内科	893	785	897	927	1,111
循環器内科	143	188	284	200	207
外 科	173	151	131	160	177
整形外科	421	394	492	447	505
産婦人科	215	208	197	216	230
小 児 科	270	302	223	239	221
泌尿器科	97	119	126	115	130
眼 科	56	57	88	67	57
放射線科	624	678	690	754	858
麻酔科(ペインクリニック)	15	13	18	22	17
計	3,138	3,158	3,329	3,386	3,730

## 救急患者統計

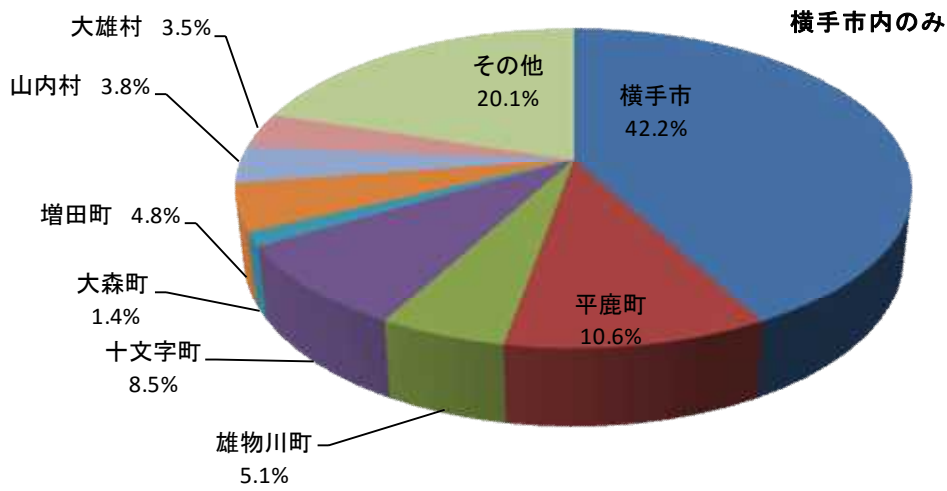
### 緊急患者数と搬入率



### 救急患者の推移

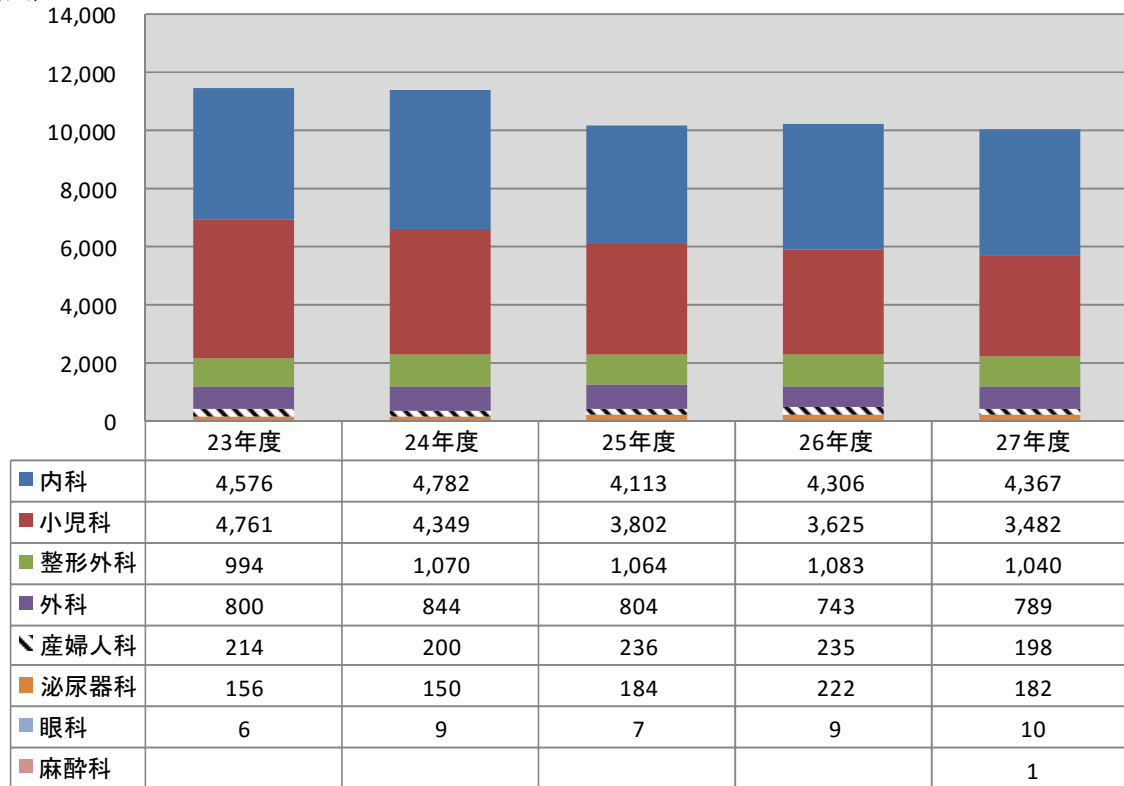


## 地域別患者構成



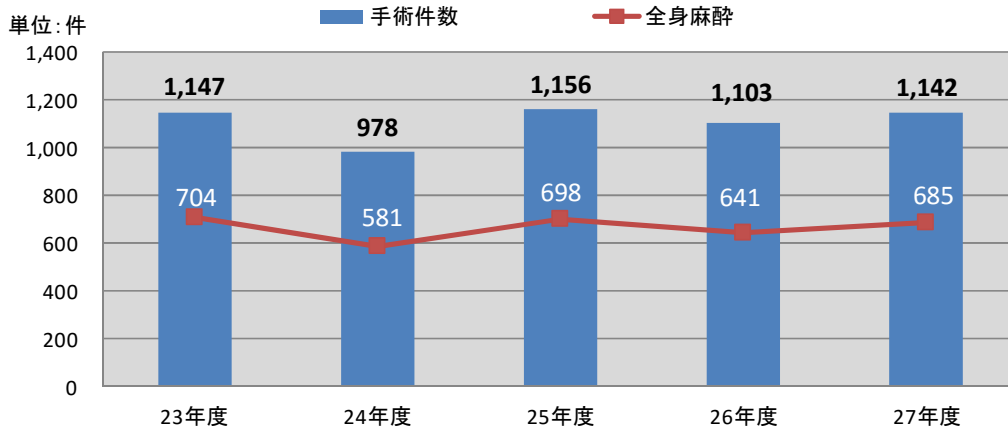
## 診療科別緊急患者数

(人)

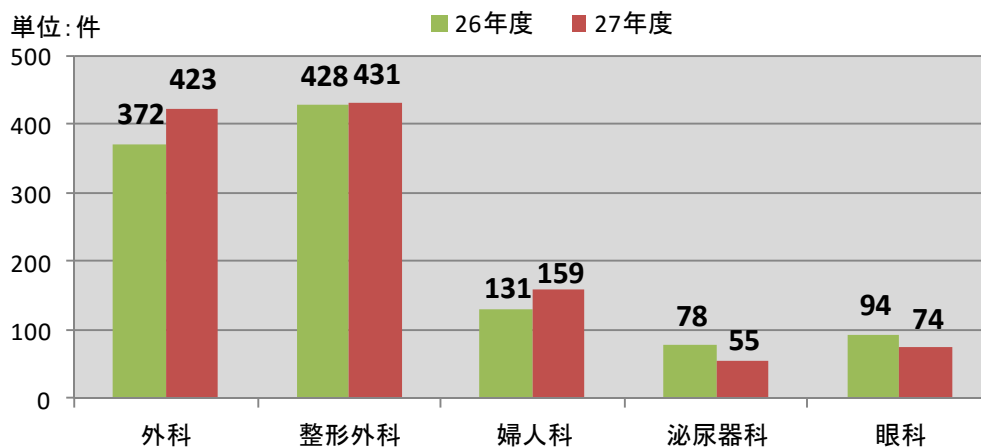


# 手術統計

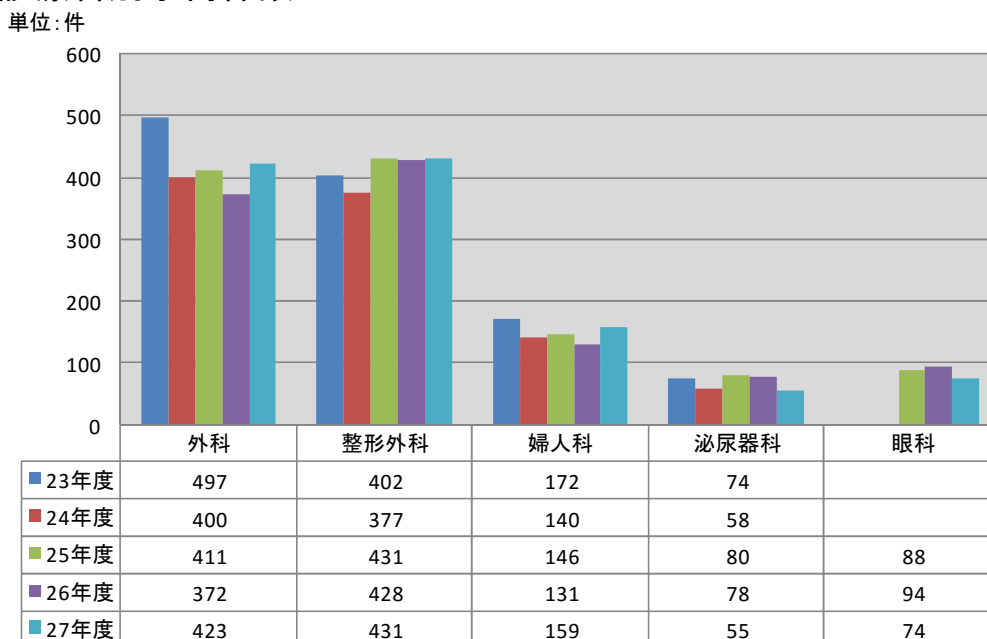
## 手術件数



## 診療科別手術



## 診療科別手術件数

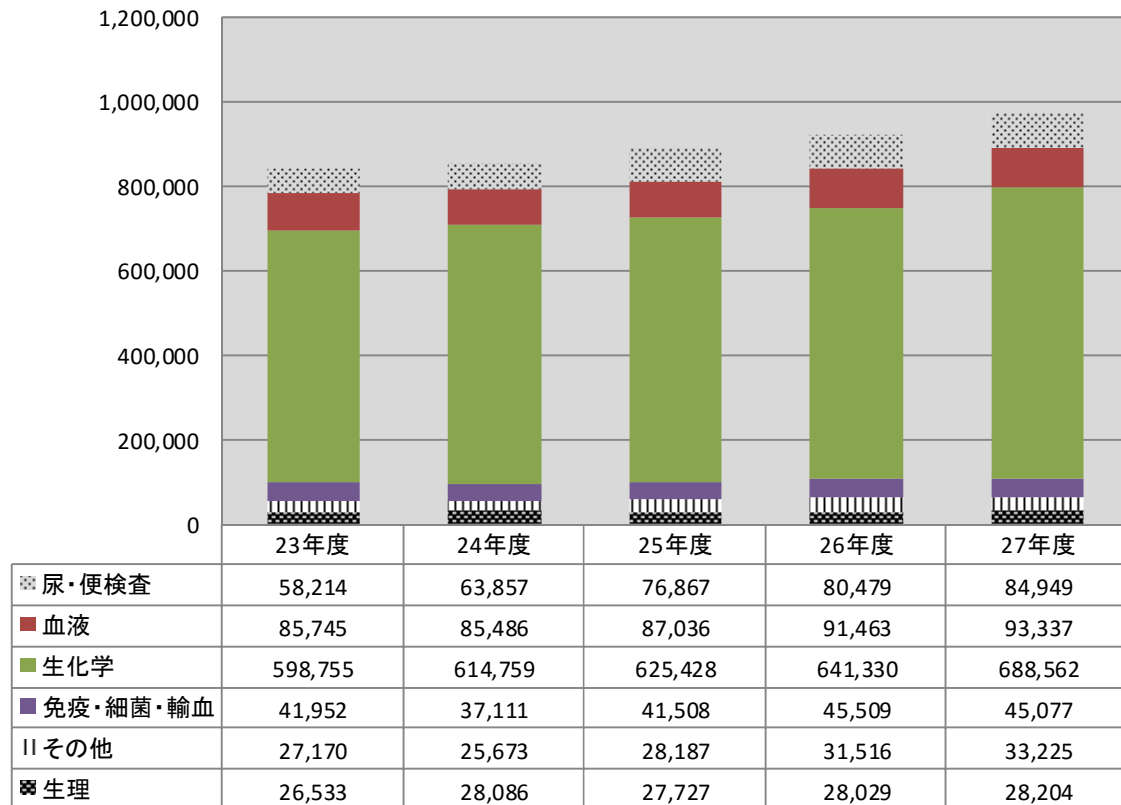


# 検査統計

## 検体検査件数推移

単位：件

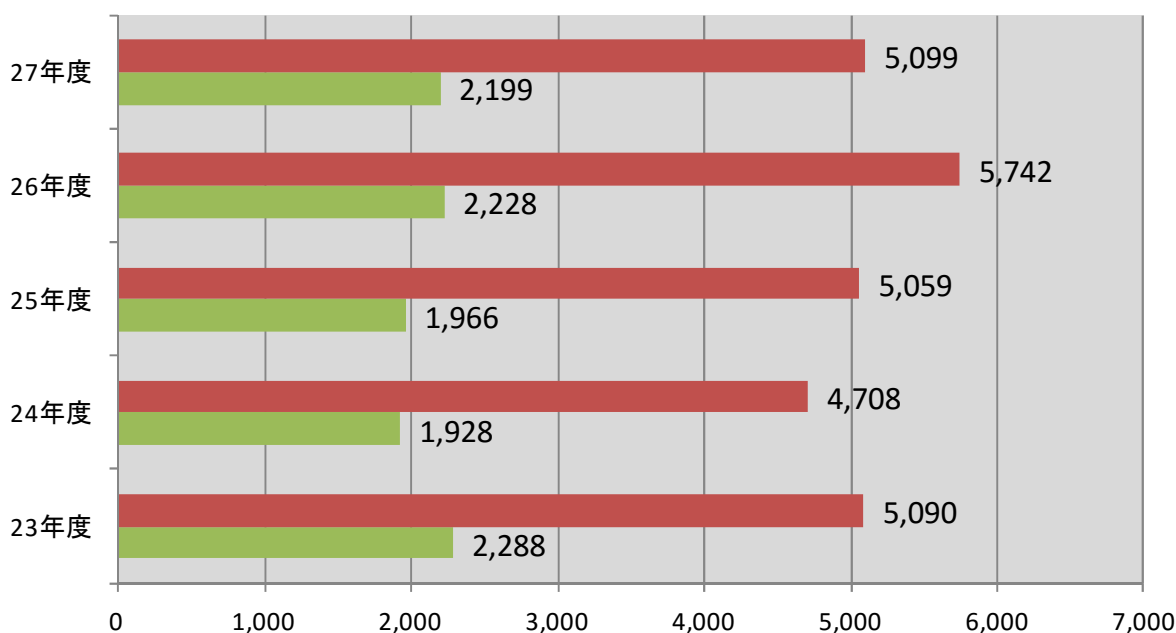
※その他は、乳幼児採血、血ガス、外注検査含む



## 病理組織診・細胞診検査件数推移

■ 細胞診検査 ■ 病理組織診検査

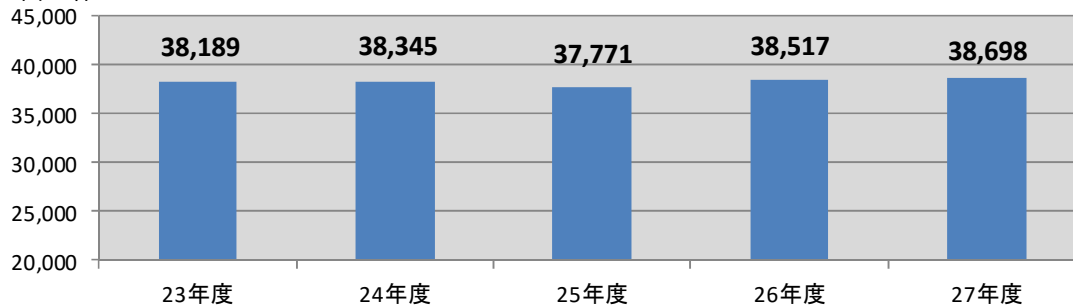
単位：件



# 診療放射線科統計

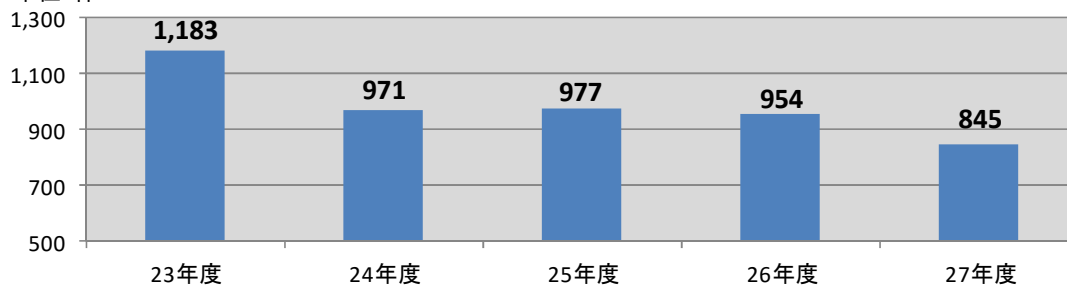
## 一般撮影

単位: 件



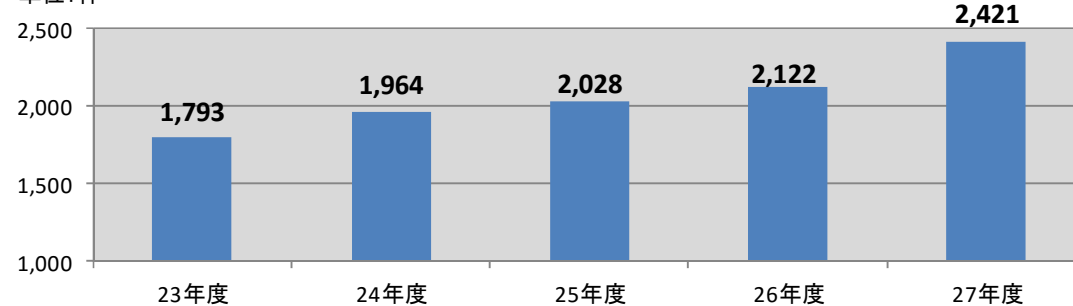
## 造影・透視検査

単位: 件



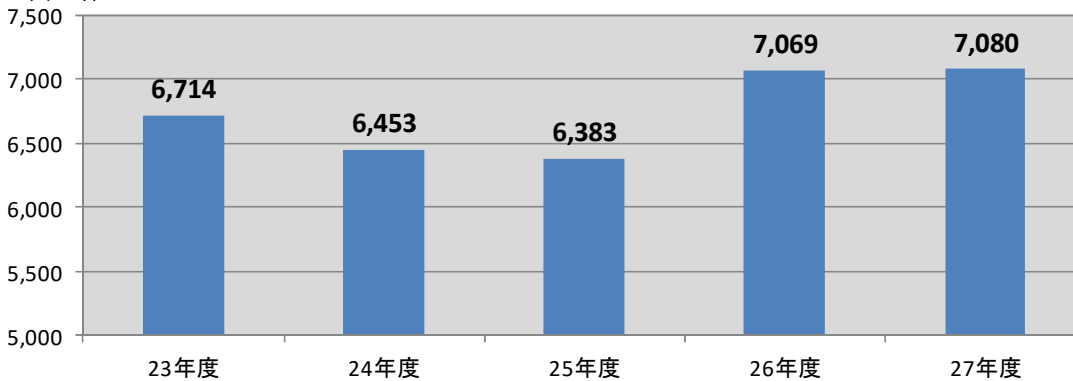
## M R I

単位: 件



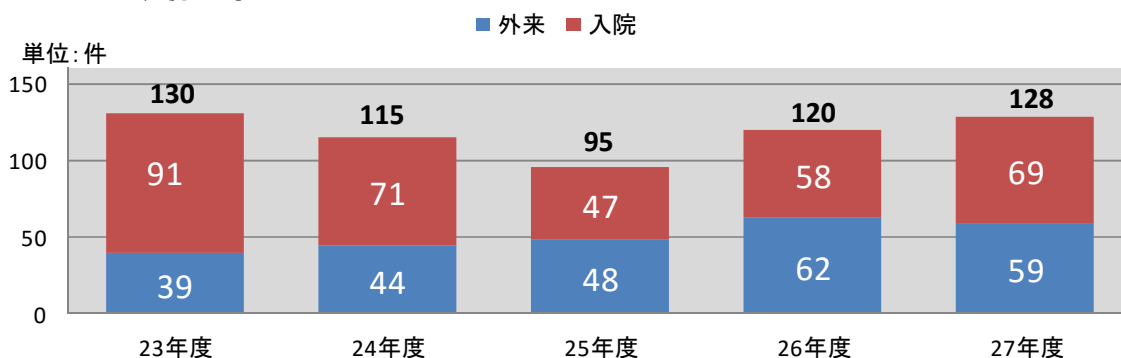
## C T

単位: 件

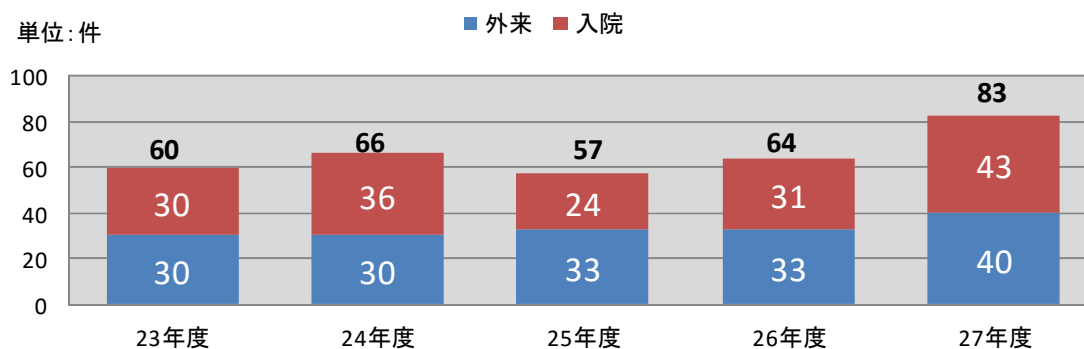


# 食養科統計

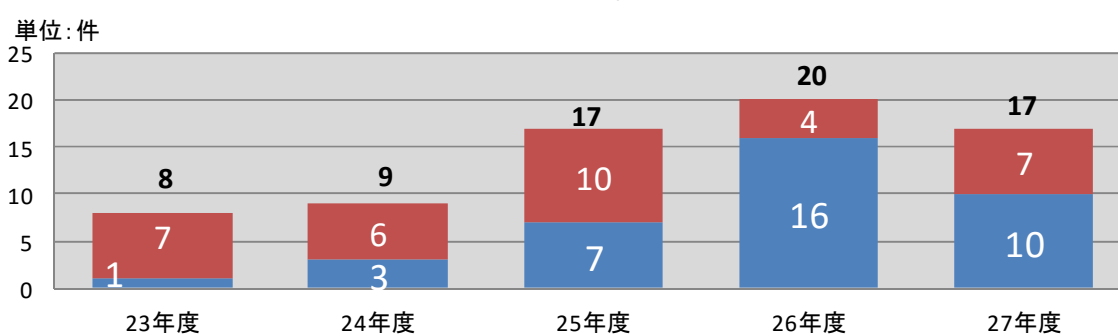
## 個別栄養指導



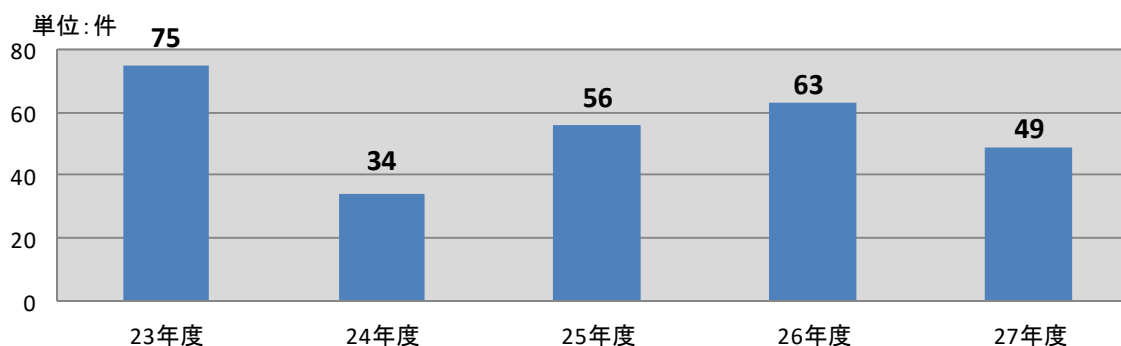
## 糖尿病栄養指導



## 慢性腎不全栄養指導

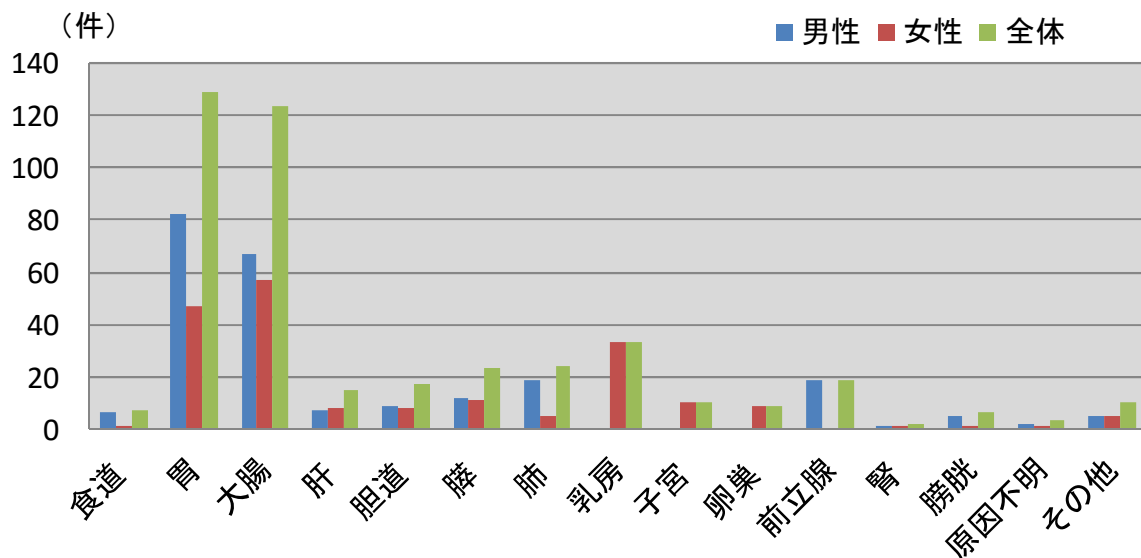


## 集団栄養指導



# 院内がん登録統計

## 登録部位別件数



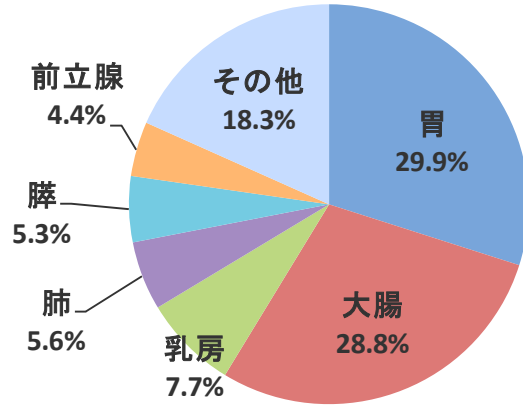
## 部位別患者数

(単位:件)

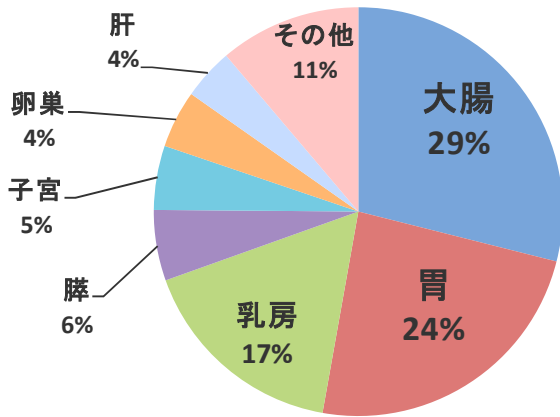
部位	男性	女性	全体
食道	6	1	7
胃	82	47	129
大腸	67	57	124
肝	7	8	15
胆道	9	8	17
膵	12	11	23
肺	19	5	24
乳房	0	33	33
子宮	0	10	10
卵巣	0	9	9
前立腺	19	0	19
腎	1	1	2
膀胱	5	1	6
原因不明	2	1	3
その他	5	5	10
登録数	234	197	431



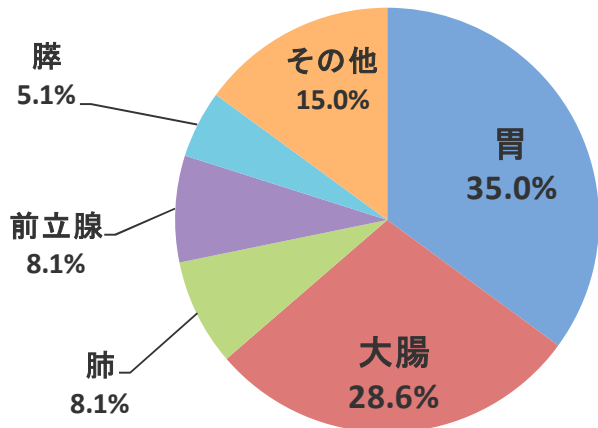
### 部位別割合 全体



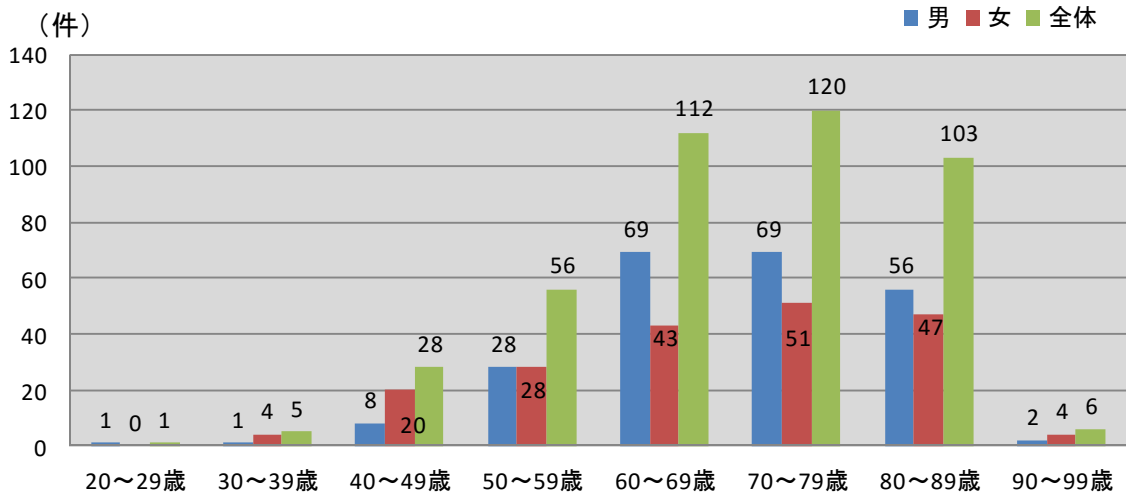
### 部位別割合 女性



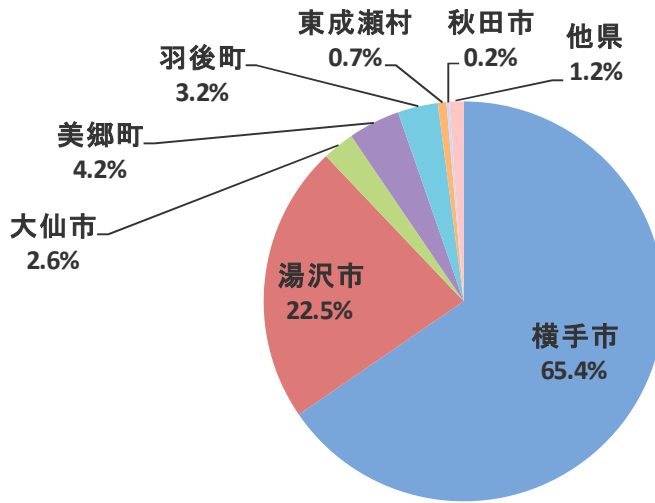
### 部位別割合 男性



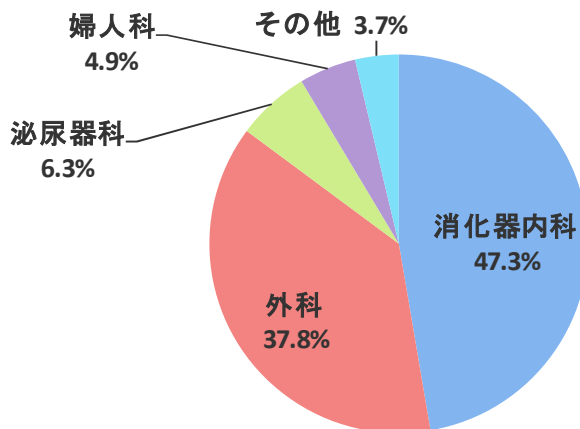
### 年齢階級別登録数



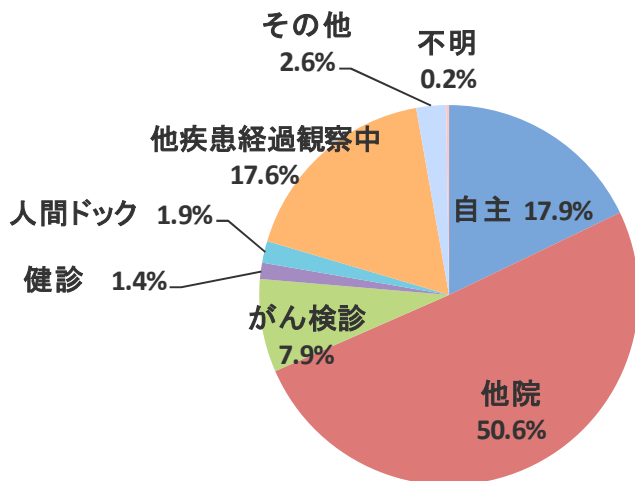
### 診断時住所割合



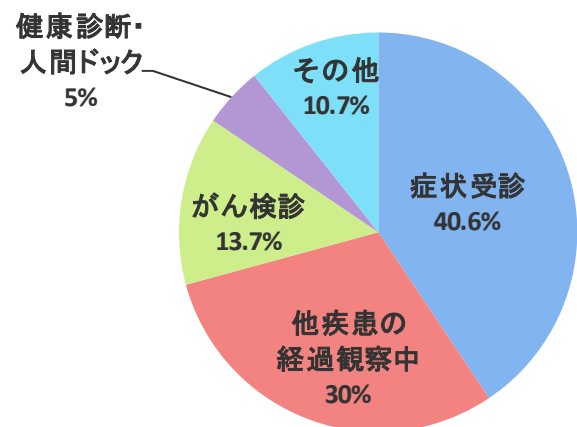
### 診療科別割合



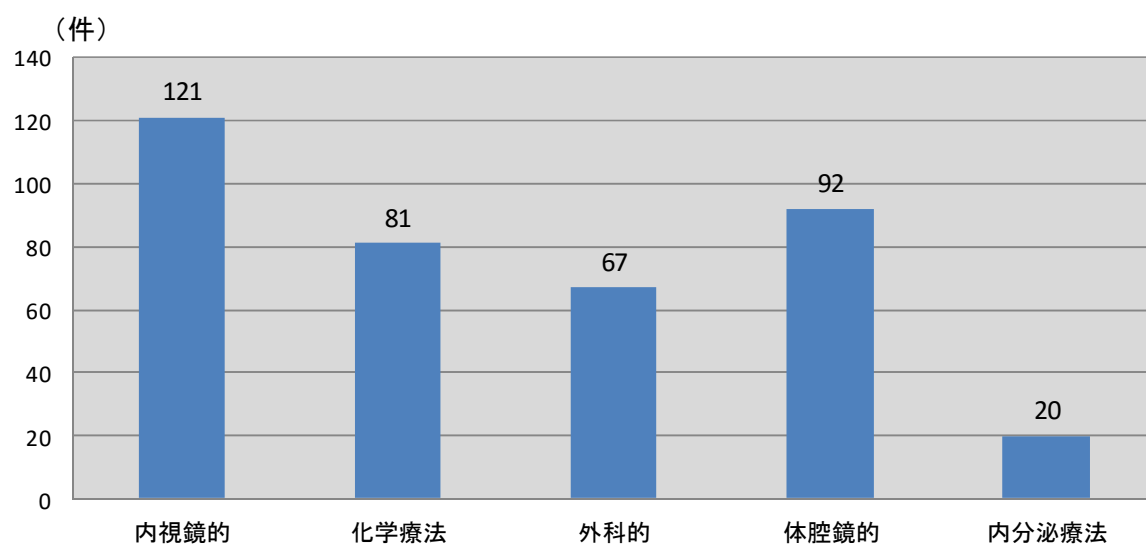
### 来院経路



### 発見経路



## 初回治療件数



## 部位別(消化器、肺、乳腺)・ステージ別件数 (UICC 7版)

部 位		0	I	II	III	IV	不明
C15	食道	4	2	0	0	1	0
C16	胃		102	6	5	15	1
C17	小腸	0	0	0	1	0	0
C18-C20	大腸	19	35	20	20	17	13
C22	肝		7	1	2	3	2
C23-C24	胆道		6	2	4	4	1
C25	膵		2	4	3	10	4
C34	肺		8	1	7	8	0
C50	乳腺	1	13	15	2	1	0

# 部門報告



# 診療部門

## 内科

## 老年科

### 1. 診療体制

週3回 月曜日、火曜日、木曜日、非常勤医師3名

### 2. 対象疾患

- ・糖尿病・高脂血症・高尿酸血症
- ・下垂体疾患：(巨人症、無月経乳汁分泌症候群、汎下垂体機能低下症、下垂体尿崩症、クッシング病等)
- ・甲状腺疾患：(バセドウ病、橋本病、亜急性甲状腺炎)
- ・副腎疾患：(原発アルドステロン症、褐色細胞腫、クッシング症候群)
- ・副甲状腺疾患：(副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症)

### 3. 特徴・特色

- 糖尿病クリニックを行っています。
- インスリン治療を受けている方にはできる限り、自宅で自己血糖測定をしていただき適切で安全な治療をするように心がけております。
- 第1第3水曜日午後2時から糖尿病教室を行っています。
- 予約制で栄養指導も行っています。
- インスリン治療の方の為にペン指導を行っています。

## 血液・腎臓内科

### 1. 診療体制

週1回 木曜日 非常勤医師1名

### 2. 対象疾患

貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少症

血液全般の診断と治療を行っています。

秋田大学含めた県内の関連病院だけでなく国内の各関連施設と連携をとっています。診断に当たっては、必要に応じて各分野の専門家の意見も取り入れ最新の情報に基づいて診断しており、治療に当たっては、疾患により移植治療などの特殊な治療が必要な場合には、適切な施設に紹介し患者さんが最善な治療を受けられるようにしております。

# 神経内科

## 1. 診療体制

週1回 水曜日 非常勤医師2名が週替わりに診察を行っております。

## 2. 対象疾患

血管障害、炎症性疾患、変性疾患、代謝性障害、脳髄疾患、中毒性疾患

大脳・小脳・脳幹・脊髄といった中枢神経系また、末梢神経・筋肉の疾患の患者さんの内科的診断及び治療。

パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症、筋ジストロフィー、重症筋無力症、末梢神経障害などの判断、治療方針の決定。また、アルツハイマー型痴呆、脳血管障害性痴呆、その他の痴呆性疾患の診断も行っています。



# 脳神経内科

## 1. 基本方針

頭痛と脳血管障害の診療における良質な医療の提供

## 2. 特色、概要、スタッフ

県内唯一の頭痛外来

医師 塩屋 斉（頭痛専門医・頭痛指導医、脳卒中専門医、脳神経外科専門医）

外来診察助手 1名

## 3. 業務内容

頭痛（主に慢性頭痛）の外来診療、脳血管障害（主に急性期脳梗塞）の入院診療

## 4. 単年実績

平成27年度頭痛初診患者数：総計747人（男性206人、女性541人）

片頭痛 : 531人（男性128人、女性403人）

緊張型頭痛 : 137人（男性 38人、女性 99人）

群発頭痛 : 22人（男性 16人、女性 6人）

神経痛 : 75人（男性 21人、女性 54人）

副鼻腔炎 : 18人（男性 3人、女性 15人）

その他（くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、他）：19人

上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は52人で全体の7.0%を占めていた。

平成27年度疾患別入院患者数：総計72人

脳梗塞 : 62人

脳出血 : 5人

くも膜下出血 : 1人

ウイルス性脳炎 : 1人

窒息・心肺停止 : 1人

急性気管支炎 : 1人

尿路感染症 : 1人

## 5. 展望、今後の目標

頭痛と頭痛外来に関する啓発活動に努めて頭痛に悩む患者さんの外来受診に繋げ患者さんのQOLの改善に寄与する。

## 6. 講演・学会発表

平成27年10月3日（土）地域頭痛医療推進プログラムMigraine Clinical Speakers' Seminar(MCSS)2015「ワークショップTopic4頭痛あるある：頭痛の誘因に対する傾向と対策」サブリーダー 六本木アカデミーヒルズ

平成27年11月13日（金）第43回日本頭痛学会総会「患者も医者も助かったくも膜下出血、助けられなかったくも膜下出血：秋田県横手市での9年の経験から」京王プラザホテル

## 7. 当院頭痛外来の新聞掲載

平成27年12月6日（日）読売新聞「病院の実力163：慢性頭痛」

<文責 塩屋 斉>

# 消化器内科

## 1. 基本方針

- ①消化器内科のすべての領域に関して質の高い医療を提供すること。
- ②さらなる知識・技術発展のため日々自己研鑽し、若手医師の育成にも努めること。

## 2. 特色、概要

横手市内の他、周辺の湯沢市、西和賀町などの広い範囲からの患者さんに対応している。これらの地域から消化管出血や胆道感染症などの救急疾患の搬送が多い。消化器内科のすべて領域に対応しているが、特に内視鏡的胃・食道・大腸粘膜下層剥離術、内視鏡的十二指腸乳頭切開術・ステント留置術など内視鏡的治療を得意としている。症例数が多いので若い医師が比較的短期間で技術を習得でき研修しやすい環境である。

消化器内科医師

船岡 正人

藤盛 修成

奥山 厚

武内 郷子

吉田 達也

三浦 孝也

伊藤 周一

姉崎有美子

中島 裕子（週2回腹部超音波検査担当）

佐藤美知子（週1回腹部超音波検査担当）

鈴木 優響（週1回内視鏡担当）

## 3. 業務内容

- 食道疾患…食道癌の内視鏡的治療（内視鏡的食道粘膜下層剥離術、ステント留置）、食道静脈瘤の内視鏡的硬化療法および結紮術、食道炎の診断治療等
- 胃疾患…胃潰瘍・胃炎・胃静脈瘤等の診断治療、胃癌の診断治療（超音波内視鏡、内視鏡的胃粘膜下層剥離術）、胃良性腫瘍の診断治療、内視鏡的胃瘻増設術、ヘリコバクターピロリ感染の診断および除菌
- 腸疾患…大腸腫瘍の診断および内視鏡的治療（内視鏡的大腸粘膜下層剥離術、ステント留置）炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）の診断治療、カプセル内視鏡、小腸内視鏡による小腸疾患の診断、その他腸疾患全般
- 肝疾患…肝炎の診断治療（肝生検、インターフェロンフリー治療等）、肝硬変の診断治療、肝腫瘍の診断治療（造影超音波検査、肝動脈側線術、ラジオ波焼灼術等）
- 胆膵疾患…胆石・胆嚢炎・膵炎・総胆管結石・胆膵系腫瘍の診断及び内視鏡による治療（内視鏡的十二指腸乳頭切開術・ステント留置、超音波内視鏡下穿刺吸引、胆道ドレナージ等）、重症性膵炎の集学的治療
- その他腹部関連疾患の診断治療

#### 4. 単年実績

平成27年度の内視鏡検査件数

上部消化管内視鏡検査（総数）	6,565
胃粘膜下層剥離術・粘膜切除術	107
胃、十二指腸ステント留置術	6
食道粘膜下層剥離術	10
胃瘻造設術	25
食道静脈瘤硬化療法・結紮術	18
ERCP	18
EST・胆道ステント留置	147
大腸内視鏡検査（総数）	2,693
粘膜切除・ポリープ切除術	631
計	9,258

#### 5. 展望、今後の目標

さらなる施設のレベルアップを図るために日々の診療の実績をまとめ分析すること、カンファレンスでさらなる情報共有をすることが必要。これらをもとに学会発表を多くすることが目標。

#### 6. 研究活動、症例報告

第156回日本内視鏡学会東北支部例会（2016年2月5日仙台）

○特発性食道粘膜下血腫が原因と考えられた食道粘膜剥離症の1例

市立横手病院・消化器内科 三浦 孝也 他

<文責 船岡 正人>

# 循環器内科

## スタッフ

### 常勤医師

#### 循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

高木 遥子 (平成23年4月1日から 現在在職中)

### 検査技師

臨床検査技師 1名

臨床工学技士 2名

外来診察助手 (循環器科担当)

2名

## 1. 基本方針

地域における循環器科診療・高齢者医療を担う

平鹿病院・秋田県脳血管センター循環器科・秋田大学病院をはじめとする地域施設と緊密な連携をはかる

## 2. 業務内容

循環器疾患を中心とした内科疾患の外来診療、入院加療および、循環器疾患の診断のための検査一般 (心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、ペースメーカー植え込み) を担当。

## 3. 単年実績

検査 (平成27年4月1日から平成28年3月31日)

心臓カテーテル検査	36件
心臓超音波検査	1907件 (経食道心臓超音波検査含む)
ホルター心電図	349件
トレッドミル	3件
24時間心電血圧計	6件
ペースメーカー植え込み	19件 (新規 17、交換 2)
体外ペーシング	2件
下大静脈フィルター留置	2件
血圧脈波検査	268件

今年度はペースメーカーの新規植え込みが非常に多かった。その他の検査件数は例年とほぼ変わりなし。

外来患者・入院患者数ともに大きな変化はなし。入院の原因となる疾患群も大きな変化はなかった。

#### 4. 展望、今後の目標

現在は、ペースメーカー植え込み術を外部医師に依頼して行っている。今年度は適応患者が非常に多く（特に新規植え込み）、症状が重篤な場合は、速やかな植え込みに苦勞する場合もあった、今後、スタッフの充実・若返りをはかり、委託しなくてもペースメーカー植え込みが行えるような体制を整えていければと思う。

また近年増えてきている在宅呼吸管理適応患者の適切な診断・啓蒙を行い、人工呼吸器の導入、適切な管理を進めていき、例数を増やしていきたい。

<文責 和泉千香子>

## 呼吸器内科

### 1. 診療体制

週 1 回 火曜日 非常勤医師 1 名

### 2. 対象疾患

肺気腫、気管支喘息、その他アレルギー疾患

常勤医師不在のため肺精密検査、気管支鏡検査等を行っていません。

# 心療内科

## 1. 診療体制

週2回 火曜日 午前10:00～ 金曜日 午後1:00～ 非常勤医師1名

※心療内科は、事情によりただいま新規患者さんの受付をお断りしております。  
受付可能となり次第ただちに広報させていただきます。

## 2. 対象疾患

心身症、神経症、うつ病、一部の更年期障害、てんかん、認知症など  
児童の心の疾患（不登校など）

主な領域は、心身症、神経症、うつ病、一部の更年期障害、頑固で多様な不眠など心身両面からのアプローチを必要とする疾患です。他に児童の心の疾患、特に不登校などや、てんかん、認知症なども対象としています。

初期及び軽症例など診療ふりわけが主な機能です。従って、院内他科、近隣専門病院、診療所等との協力関係を大事にしております。

CT、MRIを活用できますので認知症の鑑別、初期治療などは、的確に行えます。

# 外科

## 1. 特色、概要

- ・消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。
- ・伊勢医師が赴任後内視鏡外科手術症例が増加した。岩崎医師が赴任後内視鏡外科手術の充実につながった。また、佐藤公彦医師の赴任により拍車がかけられた。
- ・丹羽院長には乳腺の大部分の手術に携わっていただいた。専門外来開設後、乳腺外来数・乳腺手術数が増加した。また、多忙にもかかわらず外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制で、丹羽院長が担当した。前述したように確実に患者さんの増加もあり手術症例の増加につながったと思われる。センチネルリンパ節生検も標準術式となった。
- ・秋田大学呼吸器外科のご配慮で平成25年10月から隔週の呼吸器外科外来が開設された。
- ・リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高階先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC佐藤美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。

### スタッフ

#### 常勤

- ・丹羽 誠（S55秋田卒）院長
- ・吉岡 浩（S59自治卒）副院長
- ・伊勢 憲人（H9秋田卒）平成24年8月に秋田大学消化器外科学講座から移動
- ・本郷麻依子（H20秋田卒）平成27年11月退職
- ・岩崎 渉（H14秋田卒）平成26年4月秋田赤十字病院外科から移動
- ・佐藤 公彦（H21秋田卒）平成27年4月秋田赤十字病院外科から移動

### 専門医修練認定施設関係

日本外科学会専門医制度関連施設

日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本緩和医療学会認定研修施設

## 2. 業務

- ・平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生（麻酔学会指導医）を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木ペインクリニック松元茂先生には月間6～7日の午後からの麻酔にご協力をお願いした。また、岩手医科大学、柴田繁啓先生には毎週（木）＋手術繁忙期の麻酔を担当いただいた。平成24年9月から本郷修平医師が麻酔科・専門研修に従事となった。寺田先生・松元先生・柴田先生・本郷先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。
- ・DPC診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・小川感染管理認定看護師と協力し、引き続きSSIサーベイランスを日常業務とした。



- ・病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように務めた。

### 3. 実績

2015年 手術件数

		件数	備考
食道悪性疾患		2	鏡視下手術 1を含む
胃十二指腸悪性疾患	胃全摘	15	鏡視下手術 9を含む
	幽門側胃切除	23	鏡視下手術 17を含む
	幽門保存胃切除		
	噴門側胃切除		
	その他	10	鏡視下手術 6を含む
胃十二指腸良性疾患		9	鏡視下手術 5を含む
小腸悪性疾患		1	
大腸悪性疾患	結腸切除	38	鏡視下手術 31を含む
	直腸切除	19	鏡視下手術 18を含む
	直腸切断	1	鏡視下手術 1を含む
	その他	7	
腸良性疾患		36	鏡視下手術 13を含む
肝悪性疾患	2区域切除以上	2	
	区域切除		
	部分切除	4	
	マイクロ波凝固	2	鏡視下手術 2を含む
	その他		
肝良性疾患		1	
胆嚢悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除		
	その他	2	
胆管悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除		
	その他		
胆道良性疾患		2	
胆石症		24	鏡視下手術 24を含む
膵悪性疾患	膵頭十二指腸切除		
	膵体尾部切除	1	
	膵全摘		
	その他	2	

腭良性疾患	腭炎手術		
	その他	3	
虫垂炎手術		17	鏡視下手術 15を含む
ヘルニア手術	鼠径ヘルニア	52	鏡視下手術 41を含む
	大腿ヘルニア	6	鏡視下手術 5を含む
	閉鎖孔ヘルニア	4	鏡視下手術 2を含む
	臍ヘルニア	1	
	腹壁癒痕ヘルニア	1	鏡視下手術 1を含む
肛門良性疾患		26	
その他		4	鏡視下手術 1を含む
計		315	

呼吸器疾患	肺	2	鏡視下手術 2を含む
	縦隔		
	横隔膜	1	鏡視下手術 1を含む
乳腺疾患		27	
甲状腺疾患		3	

その他		73	
-----	--	----	--

#### 2015年小児手術数

		2015年	備考
呼吸器	先天性		
	後天性		
消化器	先天性		
	後天性	3	鏡視下手術 3
肝・胆・膵・脾臓	先天性		
	後天性		
泌尿生殖器	先天性		
	後天性		
胸壁	先天性		
	後天性		
腹壁	先天性	2	
(ソケイヘルニア、臍ヘルニアを含む)	後天性		
頭頸部	先天性		
	後天性		
悪性腫瘍			
良性腫瘍			
その他 (CVC)			
総手術数		5	鏡視下手術 3

#### 新生児手術数

#### 4. 研究活動、症例発表

2015年

全国学会

- (1) 日本超音波医学会第88回学術集会, 5月, 東京

『肝左葉内側区域の走査方法の検討』

本郷麻依子, 長沼裕子, 石田秀明, 船岡正人, 藤盛修成, 大山葉子, 渡部多佳子

- (2) 第53回日本癌治療学会学術集会, 10月, 京都

『当院における切除可能進行胃癌に対する術前化学療法の短期成績』

伊勢憲人, 吉岡麻依子, 岩崎渉, 吉岡浩, 丹羽誠

- (3) 第77回日本臨床外科学会総会, 11月, 福岡

- 1) 『上部消化管造影検査後に大腸穿孔をきたした2例』

岩崎渉, 高橋香奈, 佐藤公彦, 吉岡麻依子, 伊勢憲人, 吉岡浩, 丹羽誠

- 2) 『化学療法が奏功した遠隔リンパ節転移を伴う進行胃癌の一切除例』

本郷麻依子, 高橋香奈, 佐藤公彦, 岩崎渉, 伊勢憲人, 吉岡浩, 丹羽誠

- 3) 『多臓器癌術後フォローアップ中に悪性化が疑われた膵IPMNの2例』

伊勢憲人, 高橋香奈, 岩崎渉, 吉岡麻依子, 佐藤公彦, 吉岡浩, 丹羽誠

- (4) 第28回日本内視鏡外科学会総会, 12月, 大阪

- 1) 『腹腔鏡下幽門側胃切除術施行時のBMI、内臓脂肪面積の関係』

岩崎渉, 伊勢憲人, 高橋香奈, 佐藤公彦, 吉岡麻依子, 吉岡浩, 丹羽誠

- 2) 『腹腔鏡下胃全摘術におけるVロックを用いた共通孔閉鎖』

伊勢憲人, 高橋香奈, 岩崎渉, 吉岡麻依子, 佐藤公彦, 吉岡浩, 丹羽誠

地方会

- (1) 日本超音波医学会東北地方会第49回学術集会, 3月, 仙台

『造影超音波 (CEUS) における肝腫瘍後方エコー増強現象の機序検討』

本郷麻依子, 長沼裕子, 石田秀明

- (2) 日本超音波医学会東北地方会第50回学術集会, 10月, 青森

『Cavernous transformation of the portal veinを伴った慢性膵炎の1例』

本郷麻依子, 長沼裕子, 石田秀明

- (3) 北東北LAGビデオカンファレンス, 11月, 盛岡

症例提示3 岩崎渉

<文責 吉岡 浩>

# 整形外科

## 1. 基本方針

病院でしかできない先進医療機器を用いた検査・治療の必要な患者さんに対応する。幅広い整形外科疾患の手術に対応できるように、最先端の知識と手術技量の研鑽に努める。

## 2. 特色、概要

スタッフ

平成27年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

大内賢太郎

看護師：3名

事務：1名

### 【概要】

H.27年4月より湯浅悠介医師と交代で大内賢太郎医師が大学医局より派遣され、常勤医3名体制で業務が行われることとなった。大内医師は大学院を修了した中堅医師であり、業務の引き継ぎもスムーズであった。また臨床では肩関節のエキスパートとして大学病院でも何例もの鏡視下手術を手掛けてきた医師である。当院でも肩の鏡視下手術の導入に尽力してもらった。

## 3. 業務内容および単年実績

### 【外来】

外来患者数 23,021人/年、初診患者数 2,071人、紹介率 32.2%であった。外来患者数は前年に比べ若干の減少傾向にあるものの、初診患者数と紹介率は前年より増加している。外来患者数を減少させるために保存治療の患者さんには近隣診療所への逆紹介を積極的に行っているが、紹介数の増加がそれを上回っている状況と考える。紹介患者のほとんどは手術の必要な患者さんであり、全体的にはいい流れと考えている。

### 【入院】

入院患者総数 10,167人/年、新入院患者数 427人、平均在院日数は23.0日であった。前年より入院患者数は増加傾向を示している。新入院患者数427人に対して手術件数は430件であった。外来手術も若干含まれるため正確な数字ではないが、入院患者のおよそ95%以上が手術患者と考えられる。当科においては安静目的の入院治療には手が回らない現状もあり、手術患者中心の入院治療を行っている。このことはDPCや重症度による病棟機能判定にもいい影響を与えており病院の質の向上に寄与しているものとする。

### 【手術件数】

総数	430
----	-----

脊椎	116
----	-----

腰椎	ヘルニア切除術	25
	開窓術	25

	PLIF	41
胸椎		7
頸椎		13
その他		5

上肢帯	30
-----	----

骨接合術	16
鏡視下腱板修復術	4
肘部管開放術	5
その他	5

手関節・手	92
-------	----

骨接合術	49
ばね指	18
手根管開放術	8
その他	17

股関節	88
-----	----

THA	18
人工骨頭置換術	11
骨接合術	53
その他	6

膝関節	45
-----	----

TKA	21
ACL再建術	4
半月板損傷	12
その他	8

下腿、足部	43
-------	----

骨接合術	27
アキレス腱縫合	7
その他	9

#### 4. 展望、今後の目標

人口減少と高齢化により疾病構造が変化すると予想されている。今後増加するのは肺炎と骨折の患者との報告がある。当地域においても例外でなく、骨折患者は減少する気配がない。整形外科でも専門領域が細分化されてきており、以前はできなかった手術が専門医によって可能となってきた。そうした専門医の元には他医からの紹介により患者が集まり、手術件数も増えていく。

今後専門領域の手術が増えていく中で、骨折の患者さんが手術を受けられるパイは残っていくものだろうか。自院を含め周辺の医療機関の現状をみるにつけ、漠然とした不安を感じる。

増え続ける整形疾患に対して、我々はどこまで対応していくべきなのかを考える時期にきているのかもしれない。

## 5. 研究活動、症例報告

### 学会発表

- 1) 第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 4月 福岡市  
江畑公仁男 富岡 立 湯浅悠介 宮腰尚久 島田洋一  
脊椎インストゥルメンテーション手術における術前からのテリパラチド投与の効果
- 2) 第1回秋田県関節鏡・膝・スポーツ整形外科研究会 8月 秋田市  
富岡 立 半月板切除から縫合へ ～半月板温存の試み～
- 3) 秋田県手外科研究会 12月 秋田市  
富岡 立 外傷性皮神経損傷の1例
- 4) 第29回日本創外固定・骨延長学会学術集会 3月 金沢市  
富岡 立 足関節骨折における初期イリザロフ簡易創外固定法の有用性
- 5) 第35回日本骨形態計測学会 6月 倉敷市  
大内賢太郎 宮腰尚久 粕川雄司 木下隼人 佐藤千恵 藤井 昌 河野哲也  
鈴木真純 益谷法光 島田洋一  
糖尿病自然発症モデルマウス (Akita Mouse) の骨密度と骨強度に対するテリパラチドの効果
- 6) 秋田県手外科研究会 6月 秋田市  
大内賢太郎 江畑公仁男 富岡 立  
橈骨遠位端骨折に長母指伸筋腱断裂を生じた1例
- 7) 第30回日本整形外科学会基礎学術集会 10月 富山市  
大内賢太郎 宮腰尚久 粕川雄司 木下隼人 佐藤千恵 藤井 昌 河野哲也  
鈴木真純 益谷法光 島田洋一  
糖尿病自然発症モデルマウス (Akita mouse) の骨密度 骨強度および骨質に対するテリパラチドの効果
- 8) 第50回日本脊髄障害医学会 11月 東京都  
大内賢太郎 頸椎化膿性脊椎炎を併発した原発性腸腰筋膿瘍の1例
- 9) International Congress of Osteoporosis 11月 ソウル  
大内賢太郎 江畑公仁男 富岡 立 島田洋一  
Bone and Energy Metabolism in Transgenic model (Akita mice)

### 論文

- 1) Kentaro Ohuchi, Naohisa Miyakoshi, Yuji Kasukawa, Toyohito Segawa, Hayato Kinoshita, Yoichi Shimada : Evaluation of bone mineral density and bone strength in autochthonous transgenic model mice for diabetes mellitus (Akita mice), Osteoporosis and Sarcopenia: 2015 December , volume 1, issue 2, 98-102

<文責 江畑公仁男>

# 小児科

## 1. 基本方針

病院の基本方針に従い、急性期病院としての体制を目指す。小児科外来は一般外来、病診連携をもとにした紹介型外来、救急外来、特殊外来（予防接種、乳児検診）、および専門外来（心臓外来、その他の慢性疾患外来）を主体とする。

## 2. 特色、概要

入院診療は急性期疾患、各種検査入院を中心とした一般小児科入院診療と産婦人科病棟新生児室における新生児医療を二本柱とする。基本的には二次医療まで対応可能であるが、より専門的医療を必要とする疾患の場合には適切な施設での治療を勧めている。

## 3. 業務内容

平成27年度も小児科常勤医は勤続17年目になる小松の一人体制であった。また、毎週木曜日（平成27年10月からは第1木曜日は除く）に岡崎（秋田大学小児科）が心臓外来の診療に当たった。

### (1) 外来診療

午前は予約および当日受付の一般外来を行っている。午後は月曜日（定員20名）・水曜日（定員45名）は当日予約制の予防接種外来、火曜日と第1、3木曜日は1、7、10か月の乳児検診、金曜日は慢性外来を実施した。

### (2) 入院診療

一般の小児病床は4C病棟に8床で、新生児は2病棟（産婦人科病棟）新生児室に1～2床（適宜）と変わらなかった。ただし感染症管理の観点から個室を要する場合があります、しばしば4C病棟の整形外科用の病床にお世話になった。

## 4. 単年実績

### (1) 外来部門

各外来の内訳と最近の推移を表I a、bに示した。外来患者総数は16,778人で、昨年度より695人減少した。内訳では一般外来は931人減少、1か月検診は20人減少、7、10か月検診は増加であった。予防接種外来は264人増加したが、同時接種が浸透してきた影響と思われる。一方専門外来では心臓外来22人増加、その他の慢性疾患は52人の減少であった。外来総数に対し心臓・慢性両外来を除くいわゆる一般の外来人数は91.3%であり、1次、2次医療を担う病院として機能していることが確認できた。

### (2) 入院患者の内訳（表II～IV）

ア. 表IIに年齢別・性別入院患者数を示した。総数は402人で69人増加した。近年続いていた入院患者数減少に多少の歯止めがかかった形となった。年齢別では0歳から15歳まで入院していたが、3歳未満が260人（64.7%）を占めていた。

イ. 表IIIに疾患大分類別の入院患者数を示した。例年と同様に呼吸器疾患および感染症が約90%を占めた。その他の頻度も概ね例年と同様の傾向を示した。

## 5. 展望、今後の目標

従来同様に急性期・地域支援型病院の小児科として、一般外来、病診・病病連携および救急を基盤とした入院診療を積極的に進め、一次から二次医療を担当することを目指す。また研修指定病院として初期研修医の教育に責任をもって携わる。

＜文責 小松 明＞

表 I a 小児科外来患者数（平成27年度）

	一般 外来	心臓 外来	慢性 外来	乳児健診				予防 接種	合計
				1か月	7か月	10か月	その他		
4月	852	6	129	15	6	7		151	1,166
5月	888	3	125	18	10	8		220	1,272
6月	795	7	105	22	7	10		221	1,167
7月	751	8	136	24	5	11		220	1,155
8月	1,012	2	110	19	3	15		259	1,420
9月	1,031	3	99	23	5	7		258	1,426
10月	932	6	131	36	8	13		277	1,403
11月	936	4	117	24	4	5	1	603	1,694
12月	771	8	132	25	4	9	1	735	1,685
1月	855	6	108	30	9	12		420	1,440
2月	1,056	4	104	20	3	8		245	1,440
3月	1,096	4	96	26	3	8		287	1,520
合計	10,975	61	1392	282	67	113	2	3,897	16,788

表 I b 小児科外来患者数推移（平成23～27年度）

	一般 外来	心臓 外来	慢性 外来	乳児健診				予防 接種	合計
				1か月	7か月	10か月	その他		
平成23年度	17,502	0	1,523	343	98	169	3	4,154	23,792
平成24年度	15,288	12	1,461	357	90	149	6	4,095	21,458
平成25年度	13,828	25	1,550	260	68	117	3	3,647	19,498
平成26年度	11,906	39	1,444	302	58	95	6	3,633	17,483
平成27年度	10,975	61	1,392	282	67	113	2	3,897	16,788



表Ⅱ 年齢別・性別入院患者数（平成23～27年度）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
					男性	女性	合計
0	122	125	77	80	67	31	98
1	151	121	114	82	63	68	131
2	62	79	46	37	11	20	31
3～4	70	79	55	55	27	24	51
5～6	44	53	24	21	12	17	29
7～8	30	47	21	14	10	5	15
9～10	19	43	19	16	11	10	21
11～12	16	31	15	14	6	11	17
13～14	12	18	12	10	6	0	6
15～	6	6	2	2	0	3	3
合計	532	602	385	331	213	189	402

表Ⅲ 入院患者疾患大分類（平成23～27年度）

大分類	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
01 感染症及び寄生虫症（A00～B99）	139	161	102	105	144
02 新生物（C00～D48）	0	1	0	0	1
03 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害（D50～D89）	2	5	2	1	2
04 内分泌、栄養及び代謝疾患（E00～E90）	10	11	4	9	7
05 精神及び行動の障害（F00～F99）	3	0	1	1	0
06 神経系の疾患（G00～G99）	8	8	5	6	0
08 耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	16	17	24	12	12
09 循環器系の疾患（I00～I99）	1	2	1	1	0
10 呼吸器系の疾患（J00～J99）	318	372	221	176	214
11 消化器系の疾患（K00～K99）	12	9	6	4	5
12 皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	4	3	3	1	5
13 筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	7	3	2	5	4
14 腎尿路生殖器系の疾患（N00～N99）	7	1	6	5	2
16 周産期に発生した病態（P00～P96）	3	7	7	4	1
17 先天奇形、変形及び染色体異常（Q00～Q99）	1	0	0	0	0
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00～R99）	0	0	0	1	3
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	1	2	1	0	2
計	532	602	385	331	402

# 産婦人科

## 1. 基本方針

地域の医療機関との連携を大切にし、当科の医療資源を最大限に活用してもらう。

## 2. 特色、概要

産科・婦人科・不妊など、幅広い症例に対応している。特に手術症例は県南では最も多く行っていると思われる。

## 3. 業務内容

低～中リスク妊娠管理、手術（良・悪性）、化学療法、一般的な不妊治療（特に手術症例）、子宮がん検診、県立衛生看護学院助産科の実習など

## 4. 単年実績

分娩数 143件（自然分娩103件、圧出分娩 5 件、吸引分娩 6 件、鉗子分娩 7 件、骨盤位牽出 1 件、帝王切開21件）

手術件数 159件（うち全身麻酔 126件）

入院患者数 3,592人 外来患者数 7,693人

## 5. 展望、今後の目標

少子化による分娩数の減少で環境は厳しくなっていくと思われます。

## 6. 研究活動、症例報告

今年度にスタッフより自己血認定看護師 1 名、ALSO取得 1 名あり

<文責 畑澤 淳一>

# 眼 科

## 1. スタッフ

医師（秋田大学） 岩川 雅哉、早川 真弘、渡辺 駿、西山 俊吾  
看護師 2 名、視能訓練士 1 名、CL担当技師 1 名、事務員 1 名

## 2. 基本方針・特色・概要・展望・今後の目標

平成27年度の眼科の外来診療日は、月・水・木・金の週 4 日でした。

患者さんには原則として予約をお願いしておりますが、急患に関しましては即日診察・治療をこころがけております。

平成25年から始まりました白内障手術は水曜日入院・手術の 1 泊 2 日の日程で今年度も大きなトラブルなく順調に終わることができました。今後の課題はさらに手術件数を増やしていくことと考えております。

外界からの情報の約80%は眼から入ってくると言われています。

秋田県は高齢化が進んでおり、今後さらに加齢に伴う白内障や緑内障、加齢黄斑変性などの眼科疾病の増加が予想されます。患者さんのQOV（Quality Of Vision）のさらなる向上のためスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

## 3. 業務内容

眼科診察、外来処置、白内障手術、眼瞼内反症手術、緑内障視野検査、網膜光凝固術、  
検診（眼底写真判定）、眼瞼痙攣に対するボツリヌス毒素治療、コンタクトレンズ

<文責 早川 真弘>

# 泌尿器科

## 1. 基本方針

地域における泌尿器科診療・高齢者医療を担う。

医師一人体制での診療のため、他院と連携しながら診療・治療を行う。

## 2. 業務内容

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。検査・手術等は不定期で午後に施行。

透析は月曜から土曜日まで午前・午後・夜間(月水金のみ)の3部制、祝祭日関係なく稼働。

①外来：例年通り、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍、末期腎不全等の尿路一般疾患を広く診療した。

②入院：手術例や前立腺生検例が主であった。入院日数が短期になるのは前述のような患者の特性であると思われる。

③手術：経尿道手術(TUR)、透析シャント手術を主に施行した。前立腺全摘や腹腔鏡手術は秋田大学泌尿器科から応援いただき施行した。尿管結石の手術は他院に紹介した。

## 3. 展望、今後の目標

現状を維持しながら、向上心を忘れずに、より良い泌尿器科医療が提供できるように努める。

<文責 高橋 誠>

# 放射線科

## 1. 基本方針

病院の基本方針に従い良質な医療を提供するために、各科に有益な情報を正確・迅速に提供できるよう努める。また必要とされる場合において、積極的に血管内治療を推進していく。

## 2. 特色、概要

CTおよびMRI読影が主な診療内容だが、検査後の迅速な読影報告を特色としている。また主に肝細胞癌への治療として血管内治療を行っている。

## 3. 業務内容

CT、MRI、胸部エックス線読影／血管内治療

## 4. 単年実績

平成27年度の読影件数を以下に示す。

CT	6,820件
MRI	2,161件
(診療科依頼の)胸部X線	481件

この他にドッグにおける胸部X線写真読影も数多く行っている。

また平成27年度の血管内治療の内訳を以下に示す。

血管内治療・造影検査	計34件
肝細胞癌	23件
塞栓術	6件
胃ESD後出血	2件
膵炎後仮性瘤	1件
外傷性脾損傷	1件
外傷性腎動静脈瘻	1件
小腸出血	1件
左腎動脈拡張ステント挿入†	1件
膵炎に対する動注カテーテル	1件
撮影のみ	3件
BRTO予定	1件
PTGBA後仮性瘤疑い	1件
胃潰瘍	1件

†大学より応援を頂いて施行

## 5. 展望、今後の目標

診療における画像診断の担う役割が今後も重要度を増す中で、予想される検査件数の増加に対応しつつ、迅速で正確な情報を提供できるよう努めていきたい。高齢者に対しても血管内治療を遂行できるよう、技術を磨いていきたい。

<文責 泉 純一>

# 麻 醉 科

## 1. 基本方針

安全かつ日本最高水準の医療を提供する

## 2. 特色・概要

スタッフ

常 勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

柴田繁啓（岩手医科大学救急医学）ほか

## 3. 業務内容

### (1) 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔

### (2) ペインクリニック（外来および入院）

平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前

ペインクリニック外来の治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に変な方向を向いてしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

## 4. 単年実績

(1) 手術麻酔の件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

(2) 外来実績

新規患者数85名、延べ患者数1,028名。入院患者数6人。主な疾患別内訳は、筋骨格系疼痛が483例、帯状疱疹痛が375例、三叉神経痛は102例、顔面痙攣・痙性斜頸のボツリヌス毒素治療24例、頭痛17例、その他27例であった。治療内容の内訳は、硬膜外ブロックが194件、星状神経節ブロックが48件、三叉神経ブロックが16件、神経根ブロックや末梢神経ブロック104件、その他のブロック97例、薬剤による治療569例であった。

<文責 寺田 宏達>

# 救急センター

## 1. 基本方針

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員（非常勤職員も含めて）の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

また、当院には脳神経外科・心臓血管外科ならびに重症患者を集中管理するICUがないため、脳神経外科・心臓血管外科疾患で手術適応である場合や、より高度な救急医療が必要と判断される患者の場合は、三次救急施設など他医療機関へのすみやかな紹介・転送が必要である。

## 2. 特色、概要

24時間体制で受け入れをしている。

- ・日直 当番医1名、管理当直1名、看護師1名、半日直1名  
毎月第2、第4日曜日午前中 地域連携日曜担当医師1名
- ・当直 当番医1名、管理当直1名、看護師1名
- ・コメディカルは当番制

## 3. 業務内容

時間外、救急搬送患者を受け入れ、診察、治療を行う。

## 4. 単年実績

<救急患者取扱状況> H26年4月1日～H27年3月31日分

(1) 取扱患者数 10,223人

(2) 来院時間と来院方法

患者数

区分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜（再掲）	計
救急車	316人	639人	157人	955人
その他	0人	9,268人	759人	9,268人
計	316人	9,907人	916人	10,223人

(3) 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内科	4,306人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	3,625人	循環器科	0人	その他	222人
整形外科	1,083人	産婦人科	235人		
外科	743人	眼科	9人	計	10,223人

#### (4) 患者の症状など

区分	疾病程度（患者数（人））				受付後の扱い（患者数（人））			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	107	6	1	0	105	7	2	0
急病	8,191	667	210	44	8,159	876	32	44
その他	920	33	44	0	918	78	2	0
計	9,218	706	255	44	9,182	961	36	44

#### 5. 展望、今後の目標

当院は病院の基本理念に基づき地域連携に力を入れている。その為、他院からの紹介患者や救急搬送患者の多くを救急センターで受け入れている。今後も地域に根ざした二次救急病院としての役割をしっかりと担っていききたい。

#### 6. 研究活動、症例報告

平成28年2月2日 救急症例検討会

- ①「救急隊の病院選定基準と受入状況の考察」
- ②「上気道に煤の付着が認められた気道熱傷の一例」
- ③「ショックバイタルを伴った骨盤骨折の一例」

<文責 木村真貴子>



# 薬 剤 科

## 1. 基本方針

薬剤の適正使用を通じて医療安全、医療の質的向上に貢献する。

## 2. 特色、概要

薬剤管理指導届出施設（平成8年～）

無菌製剤処理届出施設（平成12年～）

全病棟にて注射剤個人セット調剤

麻薬製剤を含む病棟薬剤定数管理

## 3. 業務内容

調剤業務、注射製剤調剤業務、無菌的製剤処理を含む院内製剤業務、  
薬剤管理指導（全病棟対象）、薬品管理等。

## 4. 単年実績（平成27年度）

院外処方せん件数	85,878件
院内処方せん件数	14,315件
院外処方せん発行率	85.7%
入院処方せん件数	28,746件
外来注射件数	23,184件
入院注射件数	174,347件
持参薬入力件数	3,742件

## 5. 展望、今後の目標

薬物療法の進歩や医療安全対策、経営改善の必要性等に伴い、薬剤科に求められる業務は質、量ともますます拡大している。薬剤科では、合理的なシステム構築、個々人の能力開発により、それらの問題を解決し、患者個々の薬剤療法への介入と俯瞰的全体管理の両面から薬剤の適正使用を推進し医療の質的向上に貢献したいと考えている。

<文責 石田 良樹>

# 臨床検査科

## 1. 基本方針

病院基本理念に準じた患者様本意の検査を提供します。

医師の指導のもと検査実施に必要かつ十分な医学的知識および検査技術を持ち、検査業務を行い、常に新しい知識と技術の習得に研鑽に努めます。

## 2. 特色、概要

### 業務体制

検査科科长	1名（兼ねる婦人科科长）
技師長	1名
副技師長	1名
室長	3名
主任	2名
副主任	2名
検査技師	2名
業務員	2名

### 認定資格者

特定化学物質及び4アルキル鉛等作業主任者	・・・	1名		
特定非営利活動法人秋田県糖尿病対策推進協議会	秋田県糖尿病療養指導士	・・・	1名	
日本臨床微生物学会感染制御認定	微生物検査技師（ICMT）	・・・	1名	
日本臨床医学検査日本臨床検査同学院	二級臨床検査士（微生物）	・・・	1名	
日本臨床医学検査日本臨床検査同学院	二級甲類臨床検査士	・・・	1名	
日本超音波医学会認定	超音波検査士	消化器領域	・・・	2名
		体表臓器領域	・・・	1名

### 雇用体制

検査技師	正規職員	9名
	嘱託職員	2名
業務員	嘱託職員	1名
	パート職員	1名

### 時間外体制

検査技師による自宅待機（交替制）

専用携帯電話による呼び出しによる検査要請、30分以内に来院し業務にあたる  
業務内容は時間外仕様

### 教育体制

日本臨床検査技師会を始め各部門別学会への参加（演題発表、論文発表）

院内における研修会・講演会への参加

検査科内における勉強会（メーカー主催もあり）・研修会伝達会の実施

#### 業務改善体制

日常業務における改善の必要を認めた時は、担当者を筆頭に検討し随時改善に努め、これを検証する。他部門との連携を要する場合は、技師長を通しあるいは各種委員会へ提案し推奨する。

### 3. 業務内容

受付部門（外来・病棟検体受付・他）

一般部門（尿一般・糞便検査・他）

生化学・血液部門（生化学・血液一般検査・他）

免疫・凝固部門（免疫・血清検査・凝固線溶検査・他）

微生物検査部門（病原微生物検査・薬剤感受性検査・他）

輸血部門（血液型・輸血検査・輸血血液製剤管理・他）

外部委託検査部門（外部委託・受託検査・他）

臨床病理部門（病理細胞診検査受付、報告書管理・切り出し介助・術中迅速標本作成・他）

生理検査部門（心電図・肺機能・脳波・聴力・超音波・他）

### 4. 単年実績

検体検査 総件数 937,458件

尿一般	45,328	生化学	647,256	赤沈	2,767
尿定性	21,342	血糖	25,324	血ガス	2,147
尿沈渣	13,452	HbA1c	15,982	免疫関連	10,180
便潜血反応	4,827	血液一般	78,481	輸血関連	2,641
インフルエンザ	2,680	凝固線溶	12,089	乳幼児	1,525
一般細菌	2,730	感染症	15,805	外注	29,553
結核菌関連	481	腫瘍マーカー	10,560	外注率(%)	4

#### 生理検査

心電図	12,343	簡易聴力検査	6,880	腹部エコー(検診)	1,664
ホルター心電図	349	スパイログラフィー(VC・FVC)	2,207	甲状腺エコー	72
マスターダブル	52	眼底カメラ	1,770	頸動脈エコー	317
マスタートリプル	8	脳波	56	心エコー(UCG)	1,905
トレッドミル	4	MCV	160	指尖容積脈波	3
24時間心電血圧計	4	新生児聴力検査	142	血圧脈波	268

#### 病理細胞診

生検	994	術材	1,205	細胞診	713	婦人科細胞診	4,386
----	-----	----	-------	-----	-----	--------	-------

## 5. 院外発表

日本臨床検査技師会 北日本支部感染制御部門研修会 11月 福島市  
「病院感染対策における細菌検査室の役割」 佐々木絹子

日本超音波医学学会 第51回東北学術集会 3月 仙台市  
「限局性結節性過形成（FNH）と肝血管腫をともに認めた3例」 小丹まゆみ

## 6. 取得

超音波検査士（消化器領域） 4 / 1 藤原 愛

検体採取等に関する国家資格付与終了

7 / 12 佐々木絹子

11 / 22 工藤真希子 千田美岐子

12 / 6 小丹まゆみ 長瀬 智子

## 7. 健診部門機能評価を受審して

今年度当院で初めてとなる、健診機能評価を受審した。

書類審査では、質問事項が1点あり、便潜血のカットオフ値と陽性率に関して確認された。施設内調査において、検体検査室は検査機器故障時の連絡先の明記確認、生理検査室では、健診センター業務と併用して行っていることに労いがあった。なによりも、健診検査業務で大事なものは、医療・経営・効率を考え、チーム医療での運用であると言われた。

## 8. 今年度導入した機器の概要

（輸血保冷库温度監視システムを導入して）

数年前より、厚労省監査にて血液製剤保冷库の監視体制の有無が審査の対象となっており、当院検査室では、時間外の監視体制が検討中であった。それに伴い、輸血保冷库温度監視システムが導入された。このシステムは、『庫内温度』『ドア開閉状態』『センサー異常』による警告の3点の監視を行い、保冷库に異常が生じた際にはPC上へのメッセージ、及び指定された番号への電話による通知を行ってくれる。今回の導入にあたり、検査室スタッフだけでなくボイラースタッフにも協力を仰ぎ、24時間体制を確立し運用しており、輸血検査の安全性が確保された。

（微生物検査システムBACTSYSTEM Ver.4を導入して）

BACTSYSTEM Ver.4は検査業務、疫学統計業務、作業集計業務、院内感染監視業務の業務機能を携えており、検査業務の効率化と負担軽減を兼ね備えている。特に、感染管理での機能が充実しており、患者ごとの耐性菌、感受性の履歴の閲覧が可能である。また、依頼された患者が以前から耐性菌保菌者であることが、ひと目で認識できる画面展開となっている。それにより、耐性菌の見落としがなく、より充実した耐性菌の監視体制ができ、当院の感染対策に大きく貢献できるシステムである。微生物検査・感染対策チームの一員として上記システムを大いに活用し、当院の感染対策を充実させたい。

## 9. 総括

スタッフが昨年より2名減でのスタートであった。

受付および採血試験管作成等検査の補助業務員として、5月よりスタッフが1名増員された。そのため、補助的業務が軽減され、各スタッフにかかる負担が軽減された。しかし、有資格者の補充がない為に、輸血・病理の業務量の軽減にはつながらず現在にいたる。早朝検診業務、待機当番、透析当番など、日々の仕事以外のことで、少ない人数ながらスタッフ全員が協力しあって乗り切った一年だった。

今後は、有資格者の補充をすることで、スタッフ1名における業務量の軽減をはかることで、生理検査部門、検体検査部門、病理部門がより専門性を高め、臨床に貢献できるレベルの高い臨床検査室をめざしたい。

＜文責 佐々木絹子＞

# 食 養 科

## 1. 基本方針

\*安心・安全な医療への貢献

管理栄養士は、チーム医療の一員として活躍（貢献）する。

\*安心・安全な食事の提供

諸々の調査・委員会・ミーティング等を実施し、安心・安全な食事を提供する。

## 2. 特色、概要

### スタッフ

原田優子（食養科技師長）

他、管理栄養士1名・事務員2名・調理師6名・調理員11名 計21名

当部署は、個々の患者に適切な食事を提供し、その治療あるいは病状回復の促進に努めなければならない重要な一部門である。他部門と連携を密にしながら、円滑な食事を提供できるよう日々努めている。

## 3. 業務内容

\*患者の状態に応じた栄養管理と栄養指導の業務

○栄養管理計画書・入院診療計画書の作成（評価に基づく栄養方法の選択・栄養状態や摂食嚥下機能の評価等々）

○必要に応じた栄養指導の実施（個人・集団ならびに人間ドック患者に対しての指導）

○喫食状態・食物アレルギー等の把握と対応

○食形態・器具・安全性・方法の工夫

\*栄養管理機能（安心・安全な美味しい食事を提供する為の）業務

○献立作成（行事食を取り入れ、四季折々の特性を活かした献立の作成）

○患者の特性や嗜好に応じた対応

○盛り付け・配膳（適時・適温への配慮）

○衛生面に配慮した食事の提供

○食事の評価と改善の取り組み

○発注・検収・下膳・食器洗浄

## 4. 単年実績

栄養指導件数

●個人指導（128） ⇒外来（59）・入院（69）

疾病別内訳：糖尿病（83） 慢性腎不全（17） 肝硬変（5） うっ血性心不全（4）

高度肥満（3） 胃術後（2） 脂質異常症（4） 脳梗塞症（5）

膵炎（1） 潰瘍性大腸炎（1） 食道狭窄（3）

●集団指導（49） ⇒外来（33）・入院（16）

## 5. 展望、今後の目標

◎残食を減らし、喫食率をUPさせる。

◎管理栄養士を増員し、栄養指導件数を増やすことにより収入増につなげる。

## 6. 研究活動、症例報告

\* 出前健康講座（9回実施）

① 4月9日：新平川会館にて（原田 優子）

② 5月14日：黒川落合会館にて（川越 真美）

③ 7月9日：木下会館にて（原田 優子）

④ 8月6日：松林会館にて（川越 真美）

⑤ 9月10日：中猪岡会館にて（川越 真美）

⑥ 11月18日：横手中央公民館にて（原田 優子）

⑦ 11月20日：真人山荘にて（川越 真美）

⑧ 12月10日：里見地区公民館にて（原田 優子）

⑨ 3月17日：境町公民館にて（川越 真美）

<文責 原田 優子>

# リハビリテーション科

## 1. 基本方針

安全安心なリハビリテーションを提供する。  
効果があり、効率的で患者様に貢献できるリハビリテーションを目指す。  
地域包括ケアシステムへ対応する。  
業務改善を進める。

## 2. 特色、概要

### スタッフ

リハビリテーション科科长 医師 1名  
理学療法士 7名  
作業療法士 3名  
言語聴覚士 1名  
業務員 1名

### 施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション (I)  
運動器リハビリテーション (I)  
呼吸器リハビリテーション (I)  
摂食機能療法  
がん患者リハビリテーション  
集団コミュニケーション療法

## 3. 業務内容

入院患者・外来患者の疾患別リハその他の業務を行っている。

診療科は、内科、消化器内科、循環器内科、頭痛脳神経内科、外科、整形外科、泌尿器科、婦人科、麻酔科からの処方を受けている。

その他業務：病棟カンファレンス、ディサービスセンター康寿館指導、出前健康講座

臨床実習指導：秋田大学医学部保健学科理学療法専攻・作業療法専攻、弘前大学医学部保健学科理学療法専攻、青森県立保健大学理学療法学科  
地域包括ケア会議出席

## 4. 単年実績

年齢構成	件数
0～9歳	5
10～19歳	41
20～29歳	17
30～39歳	20
40～49歳	64
50～59歳	135
60～69歳	135
70～79歳	256
80～89歳	481
90～99歳	124
100歳以上	9

転帰	件数
家庭	935
福祉施設	132
介護老人保険施設	19
他の慢性期病院	25
他の急性期病院	7
病院内の他科	6
死亡	59
その他	51



診療科	件数
整形外科	560
内科	227
外科	217
消化器内科	205
循環器内科	152
頭痛・脳神経内科	55
泌尿器科	28
婦人科	6
その他	4

診療内容	件数
脳血管疾患リハビリ(1)	755
運動器リハビリ(1)	581
廃用症候群	30
呼吸器リハビリ(1)	57
がん患者リハビリテーション料	10
摂食機能療法	12
消炎鎮痛等処置	4

地域	件数
横手	635
平鹿	142
十文字	125
山内	84
増田	76
雄物川	57
大雄	49
大森	21
湯沢市	125
雄勝郡	33
美郷町	56
大仙市	18
その他の県内	4
岩手県	26
その他の県外	3

### 月別実績

理学療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院単位数	1,602	1,381	1,841	1,663	1,530	1,368	1,615	1,572	1,403	1,490	1,576	1,769
入院患者数	1,016	867	1,179	1,057	1,052	874	1,015	984	903	989	1,003	1,133
外来単位数	485	443	486	514	443	495	550	493	513	427	378	474
外来患者数	402	366	397	424	372	413	456	411	448	363	319	405

作業療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院単位数	485	425	537	521	498	354	380	369	434	425	366	416
入院患者数	321	278	348	363	354	225	265	240	304	296	257	316
外来単位数	379	311	408	288	331	334	377	356	372	335	388	475
外来患者数	299	243	306	201	259	258	290	260	265	242	278	331

言語聴覚療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院単位数	230	193	235	247	257	152	180	232	273	206	164	238
入院患者数	187	134	147	210	230	123	141	192	239	156	102	198
外来単位数	60	54	61	50	37	35	44	42	43	39	36	49
外来患者数	42	36	43	36	28	26	30	31	31	28	28	37

全療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院単位数	2,317	1,999	2,613	2,431	2,285	1,874	2,175	2,173	2,110	2,121	2,106	2,423
入院患者数	1,524	1,279	1,674	1,630	1,636	1,222	1,421	1,416	1,446	1,441	1,362	1,647
外来単位数	924	808	955	852	811	864	971	891	928	801	802	998
外来患者数	743	645	746	661	659	697	776	702	744	633	625	773

	開始時	退院時・終了時
BIの変化	45.1	70.9

## 5. 展望、今後の目標

10月から地域包括ケア病棟が稼働した。ケア病棟の施設基準においても平均2単位以上のリハビリテーション実施単位数が求められている。診療放流的には入院料の包括されるため地域包括ケア病棟でのリハビリテーションの提供方法についてさらに検討が必要である。具体的には、リハ提供していない在棟患者に対するリハアプローチや十分リハ算定できない在棟患者へのリハアプローチの方法。専従スタッフの選定方法（だれが、いつ専従として配置するのか）。専従スタッフの人数は単数でよいのか複数必要なのか。など、より良い地域包括ケアの在り方として検討していく必要がある。

入院患者の口腔ケアに関して十分な介入が出来ていない。スタッフの充足が必要と考える。

## 6. 研究活動、症例報告

秋田県作業療法士学会：「第5頸髄損傷者に対する食事動作を経験して」

## 7. その他

人事関係

理学療法士1名が3月31日付で退職し秋田大学医学部附属病院へ転勤となった。

医療機器関係

医用テレメーターを購入した。

業務関係

4月から横手市東部地域包括ケアセンター主催の地域ケア会議に出席。合計18回

<文責 小田嶋尚人>

# 診療放射線科

## 1. 基本方針

- (1) 市民から信頼される放射線診療の提供
- (2) 安全な、安心な医療行為の実践
- (3) 心ふれあう人間味豊かな対応

## 2. 特色、概要

### スタッフ

診療放射線技師	技師長	1名
	室長	2名
	主任	5名
	副主任	1名
	看護師	1名
	看護補助者	1名
	受付事務	1名

### 関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙 根岸 裕介
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、根岸 裕介
医用画像情報精度管理士	藤原 理吉、根岸 裕介
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、柿崎 千尋
臨床実習指導教員	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙

## 3. 業務内容

- ・一般撮影、骨密度測定、乳房撮影
- ・X線透視を使用した検査（MDL・DDL・ERCP・HSG・Myelo・VCUなど）
- ・CT検査
- ・MRI検査
- ・血管撮影（TACE、心カテ、など）
- ・放射線関連機器の管理
- ・各検査室のX線漏えい線量測定
- ・放射線作業従事者の被ばく線量測定および管理
- ・レントゲン手帳の発行（X線による被ばく線量の開示）
- ・医療被ばく相談

#### 4. 単年実績

23年度を100とした時の推移

	年度(平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一般撮影	総撮影件数	100	100	99	101	101
	出張撮影件数	100	94	103	117	107
	乳房撮影件数	100	101	104	107	117
健診	胸部撮影人数	100	107	105	103	105
	胃透視検査人数	100	114	105	100	91
造影・透視検査	消化管	100	69	59	60	55
	肝・胆・膵	100	113	59	92	109
	泌尿器・産科領域	100	56	101	124	70
	整形領域	100	104	122	94	85
	心カテ・血管造影	100	125	117	112	117
	C T人数	100	96	95	105	105
	M R I人数	100	110	113	118	135

件数・人数の推移

	年度(平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
一般撮影	総撮影件数	外来	28,609	29,465	28,922	28,717	29,944
		入院	9,580	8,880	8,849	9,800	8,745
		合計	38,189	38,345	37,771	38,517	38,698
	総曝射回数	外来	45,966	47,583	47,125	48,212	50,788
		入院	12,083	11,394	10,725	11,338	11,197
		合計	58,049	58,977	57,850	59,550	61,985
		出張撮影件数	6,024	5,681	6,216	7,072	6,431
	乳房撮影件数	2,603	2,618	2,702	2,789	3,047	
	フィルム枚数	213	192	230	135	153	
健診	健診胸部撮影人数	6,351	6,787	6,656	6,555	6,682	
	胃透視検査人数	796	906	838	793	727	
造影・透視検査	消化管	599	411	356	358	327	
	肝・胆・膵	95	107	56	87	104	
	泌尿器・産科領域	135	75	136	167	95	
	整形領域	302	313	368	284	258	
	心カテ・血管造影	52	65	61	58	61	
C T	人数	外来	5,410	5,204	5,027	5,715	5,865
		入院	1,304	1,249	1,356	1,354	1,215
		合計	6,714	6,453	6,383	7,069	7,080
	フィルム枚数	1,342	982	668	474	367	
M R I	人数	外来	1,593	1,763	1,889	1,940	2,236
		入院	200	201	139	182	185
		合計	1,793	1,964	2,028	2,122	2,421
	フィルム枚数	941	691	945	955	171	

## 5. 展望、今後の目標

来年度早々には医療被ばく低減施設認定更新にかかる訪問審査があり、従来は患者様の被ばく線量を線量推定ソフトにて対応してきたが、今後は線量計を用いて実測値のデータにて患者様の被ばく線量を把握し対応していきたいと思う。また、各放射線関連機器が老朽化により保守サービスの終了が順次近づいてきているので更新に対する準備をしていかななくてはならない。

## 6. 研究活動、症例報告

5月23日	平成27年度(公社)秋田県診療放射線技師会学術大会 秋田県内の一般撮影系の入射表面線量評価	法花堂 学
5月23日	(公社)秋田県診療放射線技師会 学術大会併設セミナー 線量データの活用法	法花堂 学
6月26日	(公社)秋田県診療放射線技師会県南支部 乳房撮影技術研修会 当施設におけるマンモグラフィ施設認定更新に向けた取り組み	高橋 愛美
6月27日	第2回Briliance Community in Akita CT colonographyがFollowUpに有用だった一例	佐藤 裕基
6月27日	第2回Briliance Community in Akita CT lymphographyによるセンチネルリンパ節の特定が 乳癌術前検査として有用だった 1例	細谷 謙
9月12日	第7回東北CT技術研究会 今一度被ばくと画質を考える ～臨床に必要な画質と被ばくの適正化への取り組み～小児	法花堂 学
9月12日	(公社)秋田県診療放射線技師会 放射線安全管理セミナー 上部消化管検査の被ばく管理について	法花堂 学
10月3日	第3回山形県診療放射線技師会 放射線管理部会研修会 秋田県放射線技師会の放射線管理士部会活動について	法花堂 学
10月23日	(公社)秋田県診療放射線技師会県南支部 透視検査技術研修会 透視中による患者と術者の被ばく状況の把握	根岸 裕介
10月26日	第11回あきた県南CT研究会 外傷CTの読影ポイント	佐藤 裕基
11月1日	第5回東北放射線医療技術学会 管理士分科会シンポジウム 秋田県における管理士の活動事例	法花堂 学
11月21日	第31回日本診療放射線技師会学術大会(日本放射線公衆安全学会企画) 診断参考レベル(DRL)の導入と活用方法を探る 【透視】	法花堂 学

<文責 郡山 邦夫>

# M E 室

## 1. 基本方針

医療機器の適切な管理により、安全・安心な地域医療に貢献する。

## 2. 特色、概要

- 《室長》 吉岡 浩（副院長）  
《スタッフ》 臨床工学技士 2名  
《勤務体制》 日勤（夜間・休日はオンコール体制）

## 3. 業務内容

医療機器中央管理および院内各所、在宅医療における医療機器の管理  
院内各所における臨床技術提供、医療機器にかかわる教育・啓蒙  
機器の使用において使用される材料、消耗品等の管理  
医療機器安全管理部会の開催（透析機器安全管理委員会を兼ねる）

### 《主な管理機器》

人工呼吸器 除細動器 保育器 血液浄化装置 透析室各装置  
輸液・シリンジ等各ポンプ 低圧持続吸引装置 深部静脈血栓予防装置  
ベッドサイド・セントラルモニターおよび送信器 ペースメーカー  
麻酔器・energy device・内視鏡手術装置（画像データ管理含む）等の手術室機器  
消化器センター内視鏡および周辺装置 酸素濃縮装置等の在宅医療機器

### 《臨床業務提供》

人工呼吸 透析・各種血液浄化 胸・腹水濾過濃縮 回収式自己血処理  
ラジオ波焼灼術 心臓カテーテル検査（検査データ管理含む）  
ペースメーカー（外来における動作チェックや植え込み時の検査、遠隔モニターによる観察・チェック、データ管理など）

### 《委員会・諸会議》

医療安全管理委員会 医療安全管理対策委員会 医療安全カンファランス  
医療機器安全管理室 透析機器安全管理委員会 救急センター運営委員会  
手術室運営委員会 医療ガス安全管理委員会 診療材料検討委員会  
防災対策委員会

## 4. 単年実績

### 《各件数》

アフエレス 2例（CHDF）  
胸・腹水処理 19例（64件）  
人工呼吸 11例（在宅人工呼吸2例）

NIPPV	13例
SAS検査	15例
CPAP	2例
在宅酸素療法	14例
心臓カテーテル検査	36例
体外ペーシング	2例
ペースメーカー植込み新規	19例 (交換2例)
ペースメーカークリニック	87例 (136件)
ペースメーカー遠隔モニター	52例
下大静脈フィルター留置	2例
回収式自己血処理	62例

#### 《研修会の開催》

4 / 8	新採用者オリエンテーション
4 / 27	ベッドサイドモニター BSM-3402 (リハビリ)
4 / 23	on-line HDFについて (導入時研修①)
5 / 11	モニターとポンプについて (新採用者)
5 / 15	除細動器、経皮ペーシング (研修医)
5 / 27	AED・BLS研修会 (新採用者)
6 / 5	ペースメーカー「初級編」
7 / 22	ペースメーカー「手術および術後管理について」
7 / 30	on-line HDについて (導入時研修②)
8 / 3	除細動器研修 (新採用者)
9 / 17	on-line HDFについて (導入時研修③)
10 / 6	on-line HDFについて (導入時研修④)
10 / 30・11 / 4・5	閉鎖式吸引システムについて (ICN合同)
12 / 4	ペースメーカー「中級編」
12 / 7・22・1 / 8	人工呼吸器勉強会「準備編」
12 / 25	人工呼吸器勉強会「オキシログ編」
1 / 19・22・27	人工呼吸器勉強会「装着編」
2 / 16・22・26	人工呼吸器勉強会「観察編」
3 / 17	人工呼吸器勉強会「NIPPV」

#### 《学会・セミナーへの参加》

7 / 26	県技士会主催「第12回秋田県心電図セミナー」 (柏谷)
9 / 13	県技士会主催「第11回透析セミナー」 (川越)

#### 《院内報の発行》

6 / 22	第98号 在宅医療機器について
12 / 1	第99号 アンビュールバッグ・深部静脈血栓予防装置について
3 / 11	第100号 モニター・その他機器や材料の取り扱いについて

#### 《HDのon-line化》

透析液の「on-line system」の導入により「水質確保加算2」を算定、より良い透析を実施し業務改善につなげることを目標としてきた。多くの時間と労力、数々のステップを要したが、on-line HDFを行うことで様々な業務改善や大幅なコスト削減につながった。患者さん達にはさらに良質な透析を提供することができ、不定愁訴の減少など臨床症状の改善や、より良い透析が実施されることで喜びの声が聞かれたのは嬉しい。今後は内シャントのエコー管理なども進めつつ、更によりよい透析を提供していきたい。

#### 《消化器センターにおける内視鏡及び周辺装置の管理開始》

これまでの修理・トラブル対応から、さらに周辺機器やスコープの管理へと業務拡大を進めている。まずはインシデントの内容から手順の見直しとチェックリストの運用を開始した。今後はマニュアルの内容を確認し、大幅な改定と追加が必要であると考えている。なお今後の介入については自己研鑽と常勤スタッフの必要性を強く感じている。

#### 《在宅医療機器の管理》

在宅医療における医療機器についても点検や使用状況の確認と、管理の充実を図った。特にSAS検査への対応とCPAP導入は今後更に件数と導入例の増加が見込まれる。

### 5. 展望、今後の目標

「これ以上の業務拡大は無理！」と言いながら、なぜか年々拡大しており、ますます混乱を極めている。今後の業務展開において人員増は不可欠であり、早期にスタッフの充実を図りたい。

まずは煩雑となった業務を整理しつつ、本来の役割を見直していきたい。

<文責 川越 弦>



# 臨床研修部門

## 初期臨床研修室

### 1. 基本方針

市立横手病院臨床研修プログラムに基づき、初期臨床研修医の良質な研修を実施する。

### 2. 特色、概要

1年目に必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（産婦人科、精神科、小児科）と選択科を研修し、2年目に必修科目（地域医療）と選択科を研修する。

選択科を12ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（外科系、整形外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科）、地域保健の研修がすることが可能。

### 3. 業務内容

初期臨床研修の実施に関すること。

### 4. 単年実績

○平成27年度 臨床研修医

当院プログラムによる研修医

（1年次） 飯塚 颯、伊藤 隆士、佐藤 姫子、佐藤 悠紀

（2年次） 佐々木 諒、佐藤 優真、小野 怜子

秋田大学医学部附属病院からの研修医

（2年次） 田口 大樹

### 5. その他

○病院説明会開催・参加状況

平成27年6月6日 青森県医師臨床研修病院合同説明会

（弘前市 青森県医師臨床研修対策協議会主催）

平成27年7月3日 病院独自説明会

（秋田市 市立横手病院主催）

平成27年7月19日 民間主催の合同説明会

（東京都 県協議会企画）

平成27年9月15日 秋田県臨床研修病院合同説明会

（秋田市 県協議会主催）

平成28年1月15日 秋田県臨床研修病院合同説明会及び意見交換会

（秋田市 県協議会主催）

平成28年3月6日 民間主催の合同説明会

（福岡市 県協議会企画）

<文責 黒澤 雄悦>

# 看護部門

## 看護科

### 1. 看護科理念・方針

理念 ①人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。

②地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。

方針 ①専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。

②病院の健全経営に積極的に参加します。

平成27年度看護科目標

①域包括ケアにおける看護職の役割を理解し、看護の質の向上を図る。

②個々のできる、コスト削減に向けた取り組みをする。

### 2. 平成27年度看護科職員総数

(平成28年3月末) 253名

保健師資格者 28名 (保健師業務 7名)

助産師資格者 14名 (助産師業務 8名)

看護師 146名

准看護師 5名

看護補助者 31名

業務員 20名 事務 8名 視能訓練士 1名

平成27年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

( ) 嘱託

	27年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年 1月	2月	3月
産休	2	3	3	3	3	4	3	5	5	4	2	3
育児休業	10	10	10	9	11	10	11	10	11	13	15	13
合計	12	14	13	12	14	14	14	15	16	17	17	17
長期病欠 休職 介護休暇 長期研修	2	3	2	2	2	2	4	3	3	1	1	2 1
採用	5							1				
退職	1										2 (1)	5

看護師正職員 平均年齢 36歳 (H27年4月)

看護師勤続年数 平均 12年

年休取得日数 平均 3.6日 (H27・1月～H27・12月)

産休育休取得者 (H28年3月現在) 18人 (初産 10人 経産 8人)

育児休業日数 平均 406日 (最短 200日・最長572日)

離職率 4.0%

### 3. 具体的な目標

- ①目標管理とリンクした看護科教育システムの構築に着手する。
- ②看護科全体として経費削減に向けた取り組みをする

### 4. 実績

- ①中央の目標管理の研修会に2名参加させ、その内容を師長・主任研修として伝達講習をおこなった。
- ②収支改善プロジェクトチームに参加した。  
スタッフ個人の目標にもコスト削減を掲げた。  
主任会でも目標に掲げ、診療材料などの在庫チェックや期限切れの防止対策をした。

### 5. 展望、今後の目標

看護科で行っている目標管理と病院で行っている人事考課を一緒に出来ないかと考えていたが、伝達講習をうけ、看護科の教育システムについては、別に考える必要性に気づき、今後は、看護協会のクリニカルラダーに準じて、当看護科の教育システムを完成させる予定で来年度の取り組みとする。

看護科はスタッフが多いため、コスト削減に向けて、年間目標に掲げたことは効果があったと思う。今年度で終わらせないように、来年度も同じ取り組みをしていく。

### 6. 研究活動、症例報告

学会発表

	学会名	演題	月日	場所
1	第7回J感染制御ネットワークフォーラム	中心静脈カテーテルライン交換のベストプラクティス	8月15日	仙台市
2	固定チームナースング研究会東北地方会	知識と技術の統一を目指した小集団活動	9月27日	盛岡市
3	全国自治体病院学会	尿道カテーテルの早期抜去に向けたカンファレンスの実際と検討	10月8日	函館市
4	秋田県学会（秋田県看護協会）	ウォーキングカンファレンスにおけるチェック表使用の効果	10月20日	秋田市
5	第32回秋田県緩和ケア研究会	フェンタニル舌下錠を導入し、自宅退院が可能となった1症例	10月17日	秋田市
6	秋田県看護協会横手地区支部看護研究発表会	鏡視下食道癌手術における病棟の取り組みと早期退院の要因	1月20日	横手市

今年度は、各部署の小集団活動をまとめ、2題多く学会発表することができ、病棟・スタッフのモチベーションが上がったと思う。

### 7. その他

研修として、全国の2学会に3名、秋田県学会に8名参加。院外研修には73の研修会に総計140名を参加させていただいた。また、看護科の院外活動として、救護班に8回、血圧測定・健康相談に2回、院外講師として、老人施設、病院、高校などに主に認定看護師や保健師を10回派遣した。そのほか、看護協会や保健所の事業に5回、看護師を派遣した。

<文責 佐藤セツ子>

## 2 A病棟

### 1. 病棟数

39床（重症加算病床 3床・LDR室 2床）

### 2. 担当科

産婦人科・内科・消化器内科・循環器内科・眼科（女性のみ）

### 3. 看護方式

固定チームナーシング

### 4. 平成27年度 病棟の概要

産婦人科と主に消化器内科との混合で、唯一の女性病棟であったが、平成26年2月からは男性介助者の入院も受け入れすることとなった。また平成26年11月より、女性の眼科入院の受け入れも開始した。

産科は、LDR室が設置、運用され、快適なシャワートイレ付、御家族様の付添い可、最近では夫の立ち合い分娩も増加している。助産師は毎日外来に出向き、個別に妊婦の保健指導及び産後指導に熱心で、特に母乳保育を中心にした指導に力を入れている。また、H26年度より始まった、県の育児支援事業のネットワークづくりにも取り組み始め、妊婦の背景や精神状態から問題があると判断された場合は、外来受診時に病棟助産師・MSW・地域の保健師とも連携をとり、不定期に拡大カンファレンスを施行している。6月～7月には県立衛生看護学院助産科学生の実習の指導にもあたっている。

婦人科は、化学療法治療やターミナル期の緩和ケアの対象者が増加傾向にあるため、認定看護師の訪問や薬剤指導など、他部署との連携を密にした看護ケアを提供している。

内科・消化器科に関しては、患者様の高齢化・一人暮らし・老々介護など複雑な背景が多く、施設との関わり、介護認定・サービスの検討、在宅介護の家族指導などMSW・ケアマネージャー・施設相談員との連携は、更に重要になってきている。社会的背景などで病院の入院生活に頼る傾向も見受けられるが、入院時から退院支援カンファレンスを行い、早期より対応策を講じている。そのため、特殊なケースを除いては長期化する入院は稀になってきている。褥瘡回診・NST回診・PCT回診などからの情報提供、情報交換なども活発に施行している。

年間分娩数 143名（中期分娩含む）

年間手術数 172件

### 5. 平成27年度 部署目標

- ・患者の回復過程における受持ち看護師としての責任を認識し看護計画を実践していく
- ・効率的に業務を遂行する

#### 各チーム目標

- ・個別的な看護計画を実践し、ADLの低下を予防する

- ・褥瘡のハイリスク患者のポジショニングシート作成と手技の統一
- ・申し送り時間計測及び時間外勤務内容の分析
- ・子育て支援の要支援者に対する情報共有と保健指導の見直し
- ・緩和ケアチームとの情報交換と連携

## 6. チーム目標の反省

- ・持ち看護師をベッド配置で固定したことで、患者の基礎情報のADL項目を具体的に記録でき、看護計画・評価・修正ができた。  
週1回看護計画を監査したことで、看護師間の情報共有ができ、ケアプランに沿った実践ができた。
- ・ハイリスク患者や褥瘡保有者に対する認識は深まったが、情報共有や適切な対策が不足だった。
- ・申し送りマニュアルは作成したが、結果的に時間計測する方法が有効だった。また、看護師間で個人差が大きく、意識づけのための継続した声掛けが必要であった。
- ・要支援者や不安を抱える褥婦への関わり方を、助産師個々が意識できるようになった。
- ・患者のニーズや状態変化に沿った看護を提供できた。

<文責 藤井 洋子>

## 3 A病棟

### 1. 病床数

49床（重症加算室 2床含）

### 2. 診療科

主に消化器内科が中心であるが循環器内科、糖尿病内科等も入院。

### 3. 看護方式

固定チームナーシング

### 4. 平成27年度 病棟の概要

消化器疾患の入院を主体に循環器内科、糖尿病内科、呼吸器疾患、ターミナル期患者の入院が多かった。消化器検査はESD、EESD、EIS、EVL、EUS-FNA、TACEなどクリティカルパスの運用及び、ERCP、EST、肝生検等の術前検査、胆肝臓の侵襲を伴う検査、処置が多く、化学療法の入院もあり入退院が激しく、平均在院日数11.6日 病床稼働率78.2%であった。

近隣病院から消化器内科への紹介入院が多く、緊急処置目的の急性期患者の受け入れや、PEG、PTEG造設目的の入院もある。70歳以上の入院比率が69.3%であり、要介助者、全介助者の看護ケアも多い。

地域の高齢化や、医療依存度の高い問題を抱える患者の退院支援への介入、患者、家族のニーズに応え、生活に寄り添った医療、看護の提供を継続的に支援するチーム医療を今後も推進して行く必要がある。

### 5. 平成27年度 病棟目標

- ・患者、家族のニーズを把握し他職種と協働、調整し日々の看護実践を行う。
- ・無駄、コストもれをなくそう。
- ・日々の報告、連絡、相談を大切に信頼関係を深めよう。

### 6. 目標の反省

- ・リーダーが中心となりチームで退院支援カンファレンスを早期に行う事ができた。
- ・ESD患者に対する指導パンフレットを作成し、運用した。次年度は症例を増やしクリティカルパスとの連動に繋げたい。また、化学療法の学習会を行い、消化器疾患の知識を深める事ができ、安心、安全な看護の提供へ繋がったと考える。
- ・受け持ち看護師の主体的な関わりが少なく課題であるため、固定チームナーシングの個々の役割を認識し、責任のある継続した看護の実践を目指して行きたい。

<文責 和賀美由紀>

## 3 B病棟

### 1. 病床数

44床（重症加算病床 3床含）

### 2. 担当科

消化器外科 泌尿器科 循環器科 眼科他

### 3. 看護方式

固定チームナーシング

### 4. 平成27年度 病棟の概要

急性期病棟、主として外科、泌尿器科、循環器科、眼科の混合病棟で運営している。

また、緊急な内科の重症患者入院や、救急外来からの緊急手術や他病棟からの手術目的・重症化した患者の転入も多い。患者の高齢化に伴い、認知症など合併症を抱えての手術となり、手術前後の管理も高度化してきた。眼科パス入院、心カテパス入院は毎週水曜日と決まっております。加えて外科の化学療法患者も重なるため入退院が著しい。さらに手術はラパロが主流となり、術後の回復が早く入院日数が短縮されている。化学療法に関しては、病棟担当薬剤師との連携を充分にとり副作用の出現の減少に努めている。またスタッフや、患者の被曝軽減のための啓蒙も積極的に行っている。

当病棟の特徴としては呼吸器装着、CHDFによる高次医療や、人工肛門造設患者の管理、透析導入前後の管理、ペースメーカー植え込みなど専門性のあるケアが求められる。退院調整では、看護必要度を加味しながら包括ケア病棟への転棟、また早期より退院支援介入、退院後の生活に支障がないように、MSWや担当ケアマネージャー多職種との連携をとりながら患者様の立場に立って看護するよう努力している。

年間	外科手術件数	317件
	泌尿器科手術件数	89件
	眼科手術件数	72件
	心臓カテーテル検査	31件
	ペースメーカー植え込み	5件
	ペースメーカージェネレーター交換	7件
	体外ペーシング	3件

### 5. 平成27年度 病棟目標

- ・急性期病棟の役割を自覚し、良質な医療の提供に努めます
- ・接遇に心がけ、安心できる看護サービスを実践します
- ・ムリ・ムダ・ムラをなくし、コスト削減に取り組みます

## 6. 目標の反省

Aチーム：統一した手技でストーマケアの指導・実施ができることを目標に、病棟独自のストーマケアDVDを作成した。患者・家族にわかり易い指導、スタッフ間での手技の統一ができる体制が整った。しかし、実際に患者様に指導する機会がなく、DVD使用まで至らず今後の課題となった。

Bチーム：①受け持ち患者の状況（経過）に沿った看護実践ができる②チーム会の有効な運営ができることを目標に、計画修正・見直しがタイムリーに行えた。連日のカンファレンスが実践できており、情報共有・意思統一の場ができた。チーム会の有効な運営については、小集団活動報告にまとめ発表した。チーム内でお互いに働きかけることが良い刺激となり具体策が徹底され、目的達成に繋がったと考える。

<文責 下夕村優子>



## 3 C病棟

### 1. 病床数

47床（個室 6床、特室 1床含）

### 2. 担当科

循環器科 脳神経内科 消化器内科 外科 整形外科 泌尿器科

### 3. 看護方式

固定チームナーシング

### 4. 平成27年度 病棟の概要

平成26年度の診療報酬改訂により、地域包括ケア病棟として47床での運用。看護体制は10：1、25：1看護補助加算。

入院により手術や検査等が終了し状態が安定した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんに対し、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰にむけて準備を整えるための病棟として運用されている。

在宅復帰支援計画に基づき、主治医、看護師、リハビリスタッフ、MSW等が協力し効率的に患者さんの在宅復帰にむけた準備、相談を行っている。27年度の在宅復帰率は97.6%だった。病床稼働率は78.3%と前年度より向上している。

転棟してくる患者は、高齢者、認知症患者、要介護者が大半を占める。さらに、施設スタッフやケアマネージャーなどの多職種間の面接や退院指導などで時間を要するため忙しさは増しているが、研修会への積極的な参加などで知識を高めようとスタッフの意識は高まっている。

### 5. 平成27年度 病棟目標

個別性を重視した退院支援をする。

病床稼働率の向上。(90%目標)

Aチーム：退院に向けて患者個々に応じたセルフケア向上を支援していくことができる。

Bチーム：退院後の生活がイメージできるような退院支援を行う。

### 6. 目標の反省

Aチーム～

コアチームと研究班で患者の服薬管理について取り組んだ。個々に合わせた服薬管理にむけ、改善されたと思われるが、課題も明確になり、さらに話し合いをもちたい。

Bチーム～

コア1、退院先の施設などの特徴を一覧表にまとめ、活用できた。

コア2、カルテ記載方法を見直し面談時の確認事項の統一ができ、記録時間の短縮につながった。

病床運用率は90%までは届かなかったが、昨年度より向上した。退院支援をさらに頑張ることで、良好な運用を目指したい。

<文責 高橋 礼子>

## 4 C 病棟

### 1. 病棟数

46床（重症加算室 2床）

### 2. 担当診療科

整形外科、脳神経内科、小児科が主であるが麻酔科、循環器内科、消化器内科も混合している。

### 3. 看護提供方式

固定チームナーシング

### 4. 平成27年度 病棟の概要

4月より病棟編成が変わり、各科が混在する急性期混合病棟となった。3人夜勤体制となり急性期疾患やそれぞれに合った看護を提供している。小児科は流行性の疾患が多く、全て緊急入院であり入院数に変動がある。整形外科は腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症、変形性股関節症や大腿骨頸部骨折、交通外傷による骨折などの手術件数が多い。

手術後のADL拡大に伴う見守り介助患者が多く、ケアに時間を要する。高齢者の手術患者が増加しているため、入院時より退院支援、退院調整を開始し多職種と協働し、介護の状況や自宅環境の調整を行っている。リハビリ、MSW、薬剤師などコメディカルとの連携を密に行っておりいろいろな面でカンファランスをおこなっている。

年間手術件数 431件

全身麻酔216件 腰椎麻酔 77件 伝達麻酔97件

《主な手術》

頰椎・腰椎ヘルニア除去術 29件 胸腰椎椎弓形成術 27件 腰椎固定術 38件

人工股関節全置換術 20件 人工骨頭置換術 14件 人工膝関節置換術 25名など

《主な検査件数》

頰腰椎ミエログラフィー 79件 ルートブロック10件

### 5. 平成27年度 病棟目標

- ・チームケアの充実（チームケアとは、すべての職種が「患者にとって最善のケアはなにか？」という観点から、治療や療養上の世話等の入院生活において共同歩調をとり、患者のQOLを高めることが目的）
- ・「ほうれんそう」ができる
- ・コストもれ『0』

### 6. 目標の反省

急性期医療のなかで、整形外科の手術患者や小児科入院その他さまざまな患者の対応を日々行いながらチームとしての関わりが出来てきていたと思う。また、ウォーキングカンファレンスを日々行い、固定チームナーシングのさらなる充実をはかった。

また、個々が「ほうれんそう」をする習慣ができるよう、常に声掛けを行った。コストもれについては、1か月間コストもれ0の月が出るなど成果が出た。

「チームケア」・「ほうれんそう」は次年度も継続して行っていきたい。

<文責 高橋 共子>

# 外来部門

## 1. 基本方針

病院の基本理念に基づいた外来診療の援助と看護の提供を実践する。

## 2. 特色、概要

### 【外来診療科】

内科 消化器内科 循環器内科 アレルギー呼吸器科 外科 整形外科 呼吸器外科  
婦人科 小児科 泌尿器科 眼科 心療内科 麻酔科 放射線科

### 【特殊外来】

頭痛外来 ペインクリニック 更年期外来 予防接種外来 乳腺外来 化学療法室

## 3. 業務内容

各科外来の診療介助と看護の実践

## 4. 単年実績

### 【外来患者数】

1日平均患者数：631.6名

救急外来患者数：10,069名／年

紹介患者数：2,771名／年

新患者数：1,799名／年

救急搬送患者数：1,030名／年

## 5. 展望、今後の目標

地域の要望に対応できる外来診療を目指す。高齢化、核家族化、過疎化が進む地域の中で自治体病院としての任務が全うできるよう院内外の関係各所との連携を強化していく。

今年度の小集団活動は内科系、外科系、小児科、消化器の4チームとし、外来目標の“切れ目のない看護ケアを提供しよう”にむけて各々活動した。外来というその日一日で完結しがちな看護を継続するために積極的なカンファレンスやミーティングを行った。目標達成に至るまでの道りは険しいがスタッフ全体の意識の向上が図れてきている。横手病院の看護師は優しいし頼りになると言われるような外来看護を目指したい。

<文責 木村真貴子>

# 手術室

## 1. 基本方針

- ・局所麻酔・伝達麻酔のチェックリストを見直し、看護の質の向上を図る。
- ・患者の術中安全・安楽のために体位固定チェックの見直しをする。
- ・コスト感覚を身に着ける。

## 2. 特色、概要

- (1) 手術室数：4室（うちバイオクリーンルーム1室）
- (2) スタッフ数：11名（師長、主任含む）1年目1名、2年目1名、3～4年目4名、5年目以上5名
- (3) 勤務体制：日勤、夜間・休日オンコール体制

## 3. 業務内容

- (1) 外科、整形外科、婦人科、泌尿器科、眼科の手術のサポート  
直接介助看護師1名、間接介助看護師1名、麻酔介助看護師1名の3人チームでサポートする。
- (2) 術前訪問  
担当看護師が全身麻酔、腰椎麻酔、硬膜外麻酔下の予定手術の患者さんに、手術前日あるいは当日に患者さんのベッドサイドへうかがっている。パンフレットを使用し手術室入室からの流れを説明するとともに、患者さんの身体状況や要望などを確認し、安全・安楽に手術が受けられるようにしている。
- (3) 術後訪問  
受けもった担当看護師が術後3日を目途に行っている。術後の心身状態の確認、手術室での感想や意見を聞かせていただき、患者看護・業務改善につなげている。

## 4. 単年実績

科別	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	合計
件数	423	431	159	55	74	1,142

全身麻酔：685件（昨年度より41件増加）

緊急手術：95件（昨年度より17件減少）

外科腹腔鏡下手術：190件（昨年より33件増加）

## 5. 展望、今後の目標

- ・局所麻酔患者の意識調査をして、不安・安心共に「痛み」について知りたいと思っていることがわかった。今後は、患者さんの知りたい情報を重点的に提供する術前オリエンテーション用紙を作成していく。
- ・腹腔鏡下手術で陰圧式固定器使用の仰臥位、トラクションテーブルを使用した体位、ビーチチェアの体位のチェックリストを作成し、患者さんにとって安全・安楽な体位固定を取ることができた。スタッフ全員の知識技術の統一にも有効であった。今後は乳房切除術

の体位、ジャックナイフの体位のチェックリストを作成する。

- ・節電と使用した物品のコストを落とさないように確認している。手術準備時には、最低限の物品しか出さず、必要になった時に追加するようにした。今後も節電・節約に努めていく。

## 6. 研究活動、症例報告

平成28年3月3日（木）院内看護研究発表会

「局所麻酔患者の意識調査 ～術前訪問施行に向けて～」

○大友絢香 黒沢真知子 高橋華澄 村上玲子 小田嶋ひとみ

<文責 石橋由紀子>

# 中央材料室・洗濯室

## 1. 基本方針

- ・安全を最優先としたうえでのコスト削減に向けた取り組みをする。
- ・ラウンドに向けて個々のスキルアップを目指す。

## 2. 特色、概要

- (1) スタッフ数：師長（手術室兼務）1名、主任1名（第2種滅菌技士資格）  
業務員4名（内1名－第1種滅菌技士・二級ボイラー技士資格）
- (2) 滅菌装置：高圧蒸気滅菌器－3台、過酸化水素プラズマ滅菌 ステラッド－1台、  
EOGガス滅菌器－1台
- (3) 洗浄器：ウォッシャーディスインフェクター（WD）－2台  
減圧式沸騰式洗浄器（RQ）－1台
- (4) 洗濯機：全自動洗濯機－4台、二層式洗濯機－1台、乾燥機－2台

## 3. 業務内容

- ・病棟、外来、手術室の使用機材の洗浄・滅菌（完全中央化）
- ・病棟、外来、手術室で使用する器材のメンテナンス
- ・病棟、外来、手術室で使用する衛生材料管理
- ・病棟、外来、健診センター、手術室で使用するタオル・バスタオル・体位変換枕・私物（患者さんの下着等）の洗濯、乾燥

## 4. 展望、今後の目標

昨年度後半から中央材料室に専任で主任を置いて、責任の所在を明らかにすることに努めた。各部署との連携もスムーズに進めることができている。主任は、第2種滅菌技士の資格の他に特定化学物質作業主任者技能講習も受けている。業務員の内1名は、第1種滅菌技士の資格と二級ボイラー技士を取得した。中央材料室スタッフは、滅菌研究会など院外の研修会にも参加し、知識を深める努力をしている。

来年度は、病棟のラウンドを目標にしている。ラウンドのチェックリスト作成や時間配分などの計画もできている。病棟ラウンドを通じて、もっと連携が取れるようにしていきたい。

洗濯室では、業務改善が進み時間内でスムーズに仕事が進むようになった。各部署との連携を図り、半日勤務へ移行できるようにしていく。

<文責 石橋由紀子>

# 人工透析室

## 1. 基本方針

- ・透析の長期高齢患者、合併症を持つ患者の外来透析が継続出来る様、自己管理指導の充実を図る。
- ・常にコスト意識を持ち、コスト漏れ・無駄を徹底的に無くす。

## 2. 特色、概要

透析療法は、移植しなければ生涯継続する必要があり、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、援助を行っていくのが透析看護の目標である。

現在、人口の高齢化に伴って、慢性維持透析患者ならびに新規導入患者も高齢化が進み、また、糖尿病が4割以上占めるなど重症合併症が増加してきている。そのため、現場では、以前より種々の難題を抱える患者に対応していかなければならず、援助していくのが大変になってきている。このような精神的、肉体的負担の多い患者さんに対処していくには、透析医療にかかわる医療スタッフの連携が必須である。

## 3. 業務内容

＊血液透析（HD）、online血液ろ過透析（OHDF）の施行

＜勤務体制＞

日勤4～6名・準夜2名

月・水・金 3クール（午前の部・午後の部・夜間の部）

火・木・土 2クール

＜構成スタッフ＞

看護主任 1名、看護副主任 2名、看護師 5名

## 4. 単年実績

＜ベッド数＞ 15床

＜患者数＞ 月間平均患者件数 約567件

H27年度	延べ件数	新規	依頼	臨時	転入	転院	死亡
件数	6,803	9	28	7	6	6	3

## 5. 展望、今後の目標

(1) 患者さんの問題点にあった自己管理指導が出来る

パンフレットの作成を試みたが、既存のパンフレットが十分に活用されていることがわかったため、新たなパンフレットは作成しなかった。食事内容を書いてきてもらい、具体的な食事内容を見直し指導することで結果的にK、Pの改善が見られた患者もいた。しかし、患者個人差も大きく、すべての患者に有効とはいかなかった。

(2) 患者さんへ統一した看護が提供出来る

パソコン上のテンプレートに起こす作業を依頼中である。来年度は早急に完成させ、実際に使用してから手直しする所まで完成させたい。

## 6. その他

今年度は、D-FAS（プライミング～ガスパーズ、脱血～透析開始、透析終了～返血という各工程をほぼワンアクションの手間だけで自動的に行ってくれる機能）機能導入、それに伴うonline-HDF導入という横手病院の透析治療の変革期にあたった。4月よりD-FAS、online-HDFの勉強会を月1回行った。新しい機械操作、新しい回路のセッティング、ダイアライザーの選択、患者さんへの説明等準備を入念に行い、本格的に導入したのは11月からであった。D-FAS機能を導入したことで、各工程で人がつきっきりになることが無くなり、その分他の事に手が回るようになった。また、onlineにした事でofflineと違い、出る医療廃棄ゴミの量も減少した。D-FAS機能、online-HDFは明らかにコスト削減、業務改善にもつながっている。また、online-HDFは透析中の低血圧の改善、大量濾過による老廃物の除去能力の向上、搔痒感の軽減、貧血改善等、治療上様々な効果が期待できる治療法である、それぞれの患者さんの状態に合わせたonline-HDFを追求してより良い透析を患者さんに提供していきたい。

<文責 小田嶋明子>



# 訪問看護センター

## 1. 担当科

循環器科 3名 消化器科 6名 外科 1名

## 2. 看護方式

固定チームナーシング

## 3. 概要

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。実践にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

訪問看護の対象者は、寝たきり状態で通院困難な終末期看護、中心静脈栄養・胃瘻・腸瘻・尿道カテーテル・気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方がほとんどである。

## 4. 患者数（一年間患者数および件数の集計）

患者総数	54人
訪問看護総件数	1,498件
訪問診察総件数	329件
臨時訪問件数	80件
訪問看護利用総人数	54人
新規対象者数	27人
死亡者数	23人（自宅15人、病院8人）

### 平成27年度

#### 年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	2	1	1
50～54	1	1	0
55～59	0	0	0
60～64	0	0	0
65～69	1	1	0
70～74	3	1	2
75～79	4	2	2
80～84	13	9	4
85～89	15	5	10
90～94	7	2	5
95～99	11	4	7
100	0	0	0
合計	59	26	33

#### 利用者の医療処置状況(重複あり)

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	17
胃瘻	10
食道瘻	0
腸瘻	1
中心静脈栄養カテーテル	14
在宅酸素	5
気管カニューレ	3
人工呼吸器	2
NIPPV	1
人工肛門	5
褥瘡	6
ペースメーカー	2
処置なし	17

**訪問地区特別利用者数**

訪問地区	利用者数
横手	47
平鹿	4
大雄	1
山内	1
雄物川	0
増田	1
湯沢	0
合計	54

**介護認定内訳**

要支援	0
要介護1	1
要介護2	2
要介護3	7
要介護4	10
要介護5	28
医療保険	6

**疾患別利用者数**

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	16
心疾患（心不全等）	2
悪性疾患	12
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	2
精神疾患（老人性痴呆等）	8
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	4
脳性麻痺	1
脊髄損傷	1
その他	2
合計	54

**5. 目標**

病院内外の多職種との連携を図り、質の高い看護を提供する。

- ・ 外来受診や入院時申し送り記録の充実。
- ・ 個々が収支収入アップにつながるよう、コスト意識を持つ。

**6. 反省**

病院内では、外来受診や入退院を繰り返す患者が多く、必ず申し送りが必要である。

今まで、紙面にて行っていたが、内容検討し、看護記録に記載することに決めて行った結果、スムーズに申し送りができるようになった。

病棟から情報が多く参考になるため、重要度を退院調整で登録してほしいとの意見あり、退院支援会議で決まった。

介護給付費算定に係る体制等に対する届出を行い、受理された。

5月1日～看護体制強化加算 300点（月1回）

7月1日～サービス提供体制強化加算 6点（訪問毎）

収入アップに向けて、上記加算の届出を行い、収入増加に結び付いた。

また、スタッフ個々がコスト意識を持つようになり、物品の使用の削減の細かいことから、訪問回数の増加するようにした結果、昨年度より介護給付費は約70万円収入アップにつながった。

**7. 研究活動、症例報告**

11月29日秋田県医療学術交流会にて看護研究を発表

「在宅における多職種と情報伝達の在り方 処置シート活用しての取り組み」について

**8. その他**

- ・ 秋田県立衛生看護学院衛生看護科3年の在宅実習が9年目を迎え、今年度も5月～11月まで実習生6名を受け入れ、実習指導にあたった。
- ・ 11年目となる介護保険サービス事業所の情報公表調査も例年通り行われた。

<文責 高橋 佳子>

# 健診部門

## 健康管理センター

### 1. 基本方針

- ・現在提供している各種ドック・健康診断などの質向上。
- ・円滑な予約調整で安定した年間受診体制を構築する。
- ・医療事故防止に努める。

### 2. 特色、概要

平成27年度の主な健診項目での対前年度比は、延べ受診者数で12,314名（H26：11,712名）となり、昨年度から5.14%の増加がみられた。なお、実質の受診者数は8,508名（H26：8,022名）。請求額は170,713千円となり5,985千円（3.63%）の増となり、今年度より請求額が170,000千円台になった。

増加の要因については、1日の予約上限人数を上回る予約を入れているケースが多かったことが挙げられる。収益面と受診者への負担を考慮しながら今後は予約者数を考えていきたい。

今年度は「人間ドック健診施設機能評価Ver3.0」の受審がある為、基本方針にある健診事業のハード及びソフト両面の質の向上を図ることが最大の目標であった。受審日までの間、業務内容の見直し及び改善、併設型健診施設としてのプラス面を伸ばし、それ以外の部分をスタッフ全員の創意工夫で整備を行った。また、今まで改修等が必要と思われていたハード部分の提案を行い、今まで以上に受診者に配慮した環境を整えることができた。

### 3. 業務内容

健診受診希望者の予約及び健診実施と二次検診予約や継続フォローの本来業務を中心にし、外来部門で実施する健康診断や予防接種の対応、院内職員の健康管理として衛生委員会の指示のもと感染データ管理、各種予防接種対応など部署外業務も担っている。

受診者側の目線に立ったサービス提供するために受診者アンケートを実施し、常に質の向上を目指している。アンケート結果及び対応については待合室に掲示し受診者へ周知を図っている。また、月1度の定期ミーティングでは、前月の業務内容の振り返り、見直しや改善を即時行っている。

四半期に一度、健診連絡会議を開催。業務内容の実施状況報告や改善等の提案をし、参集者より承認を得て、より良い健診実施へつなげている。また、会議の中で症例発表を行い、ドック健診の有用性についても検討及び意見の収集を行っている。

### 4. 単年実績

「人間ドック健診施設機能評価Ver3.0」の受審年度となり、通年で業務内容や設備の整理及び見直し、改善を実施した。

- ・人間ドック健診施設機能評価準備委員会  
第1回 平成27年7月16日開催

内容：スケジュール確認。各種マニュアルの作成状況確認。事前提出書類の作成進捗状況確認。施設面での改善状況確認。健康管理センター一次中長期計画作成及び承認。自己評価C評価項目検討。

第2回 平成28年2月18日開催

内容：機能評価スケジュール確認。各種マニュアルの作成状況。各部署からの資料収集。受審時の必要書類の確認。受審時のラウンドコースの確認。

- ・ 拡大人間ドック健診施設機能評価準備委員会

第1回 平成27年12月18日開催

内容：スケジュール内容確認。書面調査内容確認。施設評価内容確認。

第2回 平成28年3月2日開催

内容：提出資料最終内容確認。訪問スケジュール及び出席者名簿の整備。施設内調査ラウンドコースの想定。認定スケジュールの確認。

- ・ 人間ドック機能評価院内説明会 平成28年2月26日開催

## 5. 展望、今後の目標

常に受診者の目線に立ったサービスの提供を心がけることから、5年後の「人間ドック健診施設機能評価」の受審を視野に入れ、今後も業務改善や環境整備等を継続し行っていく。

## 6. 研究活動、症例報告

日本人間ドック学会

「当院二日ドック血清蛋白分画検査でM蛋白が疑われた症例の検討」 船岡正人

## 7. その他

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
社保一般健診・付加	2,980	3,125	3,156	3,048	3,272
日帰り人間ドック	1,000	1,109	1,076	1,184	1,101
宿泊人間ドック	259	275	267	252	278
脳ドック	161	181	192	197	171
市役所関係職員健診	1,946	1,919	1,841	1,726	1,797
事業所健診	803	930	949	775	827
子宮がん検診	2,009	2,029	2,169	2,056	2,227
乳がん検診	1,730	1,749	1,909	1,979	2,125
B型肝炎検査	491	527	496	495	516
合計（件数）	11,379	11,844	12,055	11,712	12,314
増減率（%）	4.79	3.77	0.03	△2.85	5.14
請求額（千円）	153,480	164,144	161,388	164,728	170,713
増減率（%）	4.67	6.95	△1.68	2.07	3.63

参考資料

受診種別	受診者（名）	請求額（円）
特定健康診査	102	719,100
特定健康指導	1	34,560
内蔵脂肪CT	59	180,000
肺CT	25	300,000
腫瘍マーカー	892	2,507,366
ピロリ抗体	184	184,000
乳腺エコー	38	76,000
HPV検査	95	285,000
インフルエンザ <sup>※</sup> 予防接種	52	176,000

平成27年度(2015年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数(名)	請求金額(円)	検査料金(円)	消費税(円)
協会けんぽ一般健診	3,134	53,282,429	49,335,583	3,946,846
付加健診	202	4,316,697	3,996,943	319,754
子宮ガン検診	127	557,937	516,609	41,328
子宮ガン（オプション）	634	2,477,684	2,294,152	183,532
乳ガン(オプション)	548	2,392,961	2,215,705	177,256
肝炎ウィルス検査	147	300,027	277,803	22,224
日帰り人間ドック	1,101	36,455,624	33,755,208	2,700,416
宿泊人間ドック(マスターダブル希望者を加えた人数)	317	18,127,780	16,784,982	1,342,798
脳ドック	171	5,572,744	5,159,950	412,794
市役所関係職員健診	1,797	15,755,964	14,588,857	1,167,107
事業所健診	827	14,872,239	13,770,592	1,101,647
婦人科検診	1466	5,787,472	5,358,771	428,701
乳ガン視触診・マンモグラフィー	1,577	6,034,239	5,587,259	446,980
B型肝炎検査・接種	516	316,985	293,505	23,480
CT・腫瘍マーカー <sup>※</sup> ほかオプション	1,345	3,708,366	3,433,675	274,691
特定健康診査・特定保健指導	103	753,660	697,834	55,826
<b>合 計</b>	<b>13,232</b>	<b>164,747,812</b>	<b>152,525,766</b>	<b>12,202,046</b>

<文責 三浦 幸恵>

# 医療安全部門

## 医療安全管理室

### 1. 概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。平成20年4月より、医療安全管理室に専従の医療安全管理担当者を配置している。

医療安全管理者は、病院全体の医療安全に関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務めている。平成27年度は、機能評価受審認定（3rdG ver1,0）11月東北厚生局臨床研修病院実地調査が行われた。特に医療法改正により10月施行の新「医療事故報告制度」の導入に向け、活動した。

### 2. 構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長              | 吉岡 浩  |
| 2) 医療安全管理室副室長(専従医療安全管理者) | 高本 和子 |
| 3) 医薬品安全管理者(兼任)          | 石田 良樹 |
| 4) 医療機器安全管理者(兼任)         | 川越 弦  |
| 5) 医療安全管理室事務(兼任)         | 阿部千鶴子 |

### 3. 業務

- (1) 院内報告制度の整備とひやりハット報告書の検討集計・分析
- (2) 医療安全の委員会に関する活動  
医療安全管理室会議・医療安全管理対策委員会・感染対策委員会・救急運営委員会  
輸血療法委員会・化学療法委員会etc.
- (3) 医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ひやりハット通信の作成・回覧
- (4) 医療安全の為の指針やマニュアルの作成
  - ア. 医療安全に関する指針・規程の見直し
  - イ. 医療安全マニュアルの作成
- (5) 医療安全に関する研修・教育
- (6) 医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載
- (7) 医療安全に関する院内評価業務
  - 院内監査 リストバンド装着率・指示伝達確認・注射ラベル（3点認証）
  - 院内の定期的な巡回（麻薬・薬品保管に関する監査）
  - 救急カートの整備状況監査

平成27年度医療安全研修会

日付	内容	講師	対象
4月2日	新採用者研修 医療安全対策(総論・各論)	医療安全管理室 高本和子	新規採用職員 臨床研修医・看護師
4月9日	基礎看護技術の研修 採血・注射について	医療安全管理室 高本和子	新人看護師 臨床研修医
5月7日	リスクマネジャー研修	医療安全管理室 高本和子	看護科安全部会メンバ ー
5月27日	AED・BSL研修会 心肺蘇生の手順	臨床研修医(2年 3名) ME 川越弦	新規採用職員 未研修者 他
6月5日	ペースメーカーに勉強会 ～初級編～	日本メドトロニック(株)	ペースメーカーに携わ る看護師
6月26日 11月25日	造影剤リスクマネージメ ント	(株)第一三共 穂積通孝氏 外来看護師 伊藤優子	医局(特に臨床研修 医)・看護科
7月3日	医療安全看護補助者研修 当院の医療安全対策	医療安全管理室 高本和子	看護補助者 業務員
7月14日	医療安全セミナー 医療裁判の実際 医療事故等	(株)損保ジャパン 医師賠償保険金サービス課	医療安全管理対策委員 会メンバー・医師・臨 床研修医・部署内リス クマネジャー
8月20日 9月1日 9月7日	医療安全研修会(全職員) 自分を知り相手を動かす 交渉術 DVDフォロー研修会	JAかみつが厚生連 上都 賀総合病院副院長・看護 部長 斎藤由利子氏	全職員
8月27日	皮下埋め込み型ポートの 使用方法と管理	(株)メディコン 佐藤祐一氏	看護師・薬剤師 興味のある方
9月17日 9月25日	KYT研修会	医療安全管理室 高本和子	新人・2年目看護師 プリセプター
10月15日	安全なベッド環境 離床センサー等	(株)パラマウント社	病棟看護師・看護補助 者
10月30日	薬剤情報の見方	薬剤師 武石知希	臨床研修医 看護師
12月4日	ペースメーカー勉強会 ペーシング	日本メドトロニック(株)	ペースメーカーに携わ る看護師
12月16日	輸血療法の正しい理解 輸血副作用について	秋田県赤十字血液センター	臨床研修医・看護師 臨床検査科
H28年 1月25日 2月8日 2月23日	医療安全シンポジウム VDメッセージ 「医療過誤の被害を受け た家族」 DVDフォロー研修 感想文レポート	座長：麻酔科 寺田宏達 テーマ：各職場での医療 安全の取組み 3A 武石亜由美 手術室 谷口順子 薬剤科 小宅英樹 医事課 奥州理湖 総務課 菅原祐司	全職員
2月19日	放射線防御の基礎知識 MRI検査の安全管理	診療放射線科 高橋愛美 診療放射線科 村上千恵	医師・臨床研修医・看 護師

【主な内容】

- ・主な定期の会議を「医療安全管理対策委員会」に名称変更して3年が経過した。構成メンバーも医師・薬剤師・看護師・CE・事務部門等、すべての医療安全管理責任者(各部署長)へ改訂したことにより各部門が連携し、医療安全管理体制が実務的に強化され再発防止策も速やかに実施される状況となった。
- ・インシデント報告奨励「院長表彰」を導入し、各部署の医療安全の意識向上・活動が活性

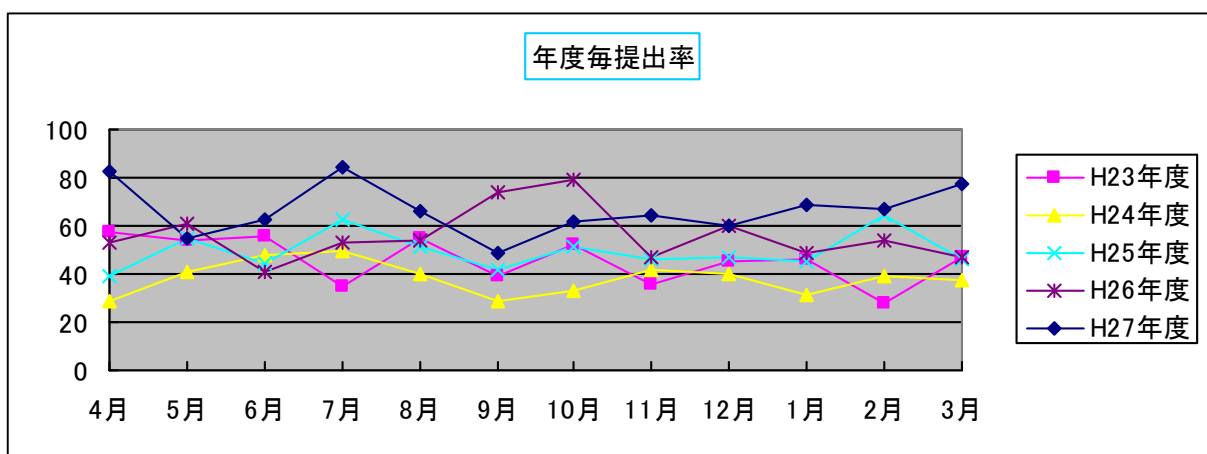
化された。(1位 3A病棟 特別賞 診療科 三浦孝也医師)

- ・患者サポート体制により、各部門の担当者と共に週一回カンファレンスを開催し、患者相談の対応・報告が実施された。
- ・安全対策として「内視鏡検査機器の洗浄方法の改善」及び「入院時の患者誤認防止マニュアル作成」「患者マスタ登録」などについてシスム改善を行った。特に、検査科病理部門に於いて外部組織（AKHセンター）・当院医療安全管理室が連携し、業務改善の方向で検討した。
- ・毎週医療安全カンファレンスを開催し、多くのインシデント報告の対策検討を行った。更に関係部署と連携し再発防止とマニュアル改訂を行い、院内全体が医療安全へ取り組むことができた。

### 平成27年度ヒヤリハット集計

年度毎提出件数 月別

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23年度	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550
H24年度	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459
H25年度	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593
H26年度	53	61	41	53	54	74	79	47	60	49	54	47	672
H27年度	83	55	63	84	66	49	62	64	60	69	67	77	799

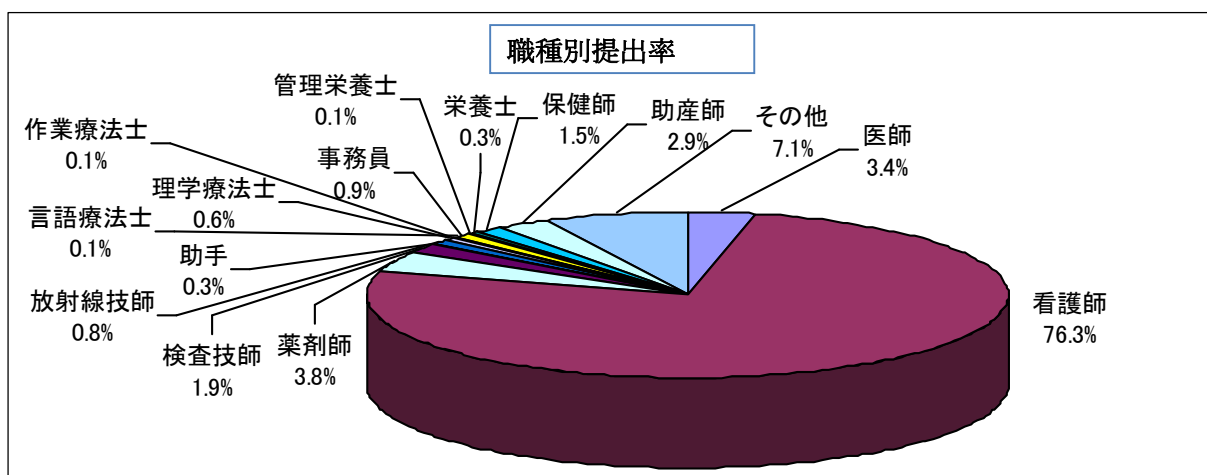


職種別提出件数 月別

職種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医師	4	1	1	1	0	1	5	4	0	2	2	6	27
看護師	57	45	46	70	54	36	46	47	48	52	52	57	610
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤師	5	3	4	3	2	2	2	1	0	0	3	5	30
検査技師	2	0	1	1	3	2	1	3	0	0	1	1	15
助手	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
放射線技師	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	6

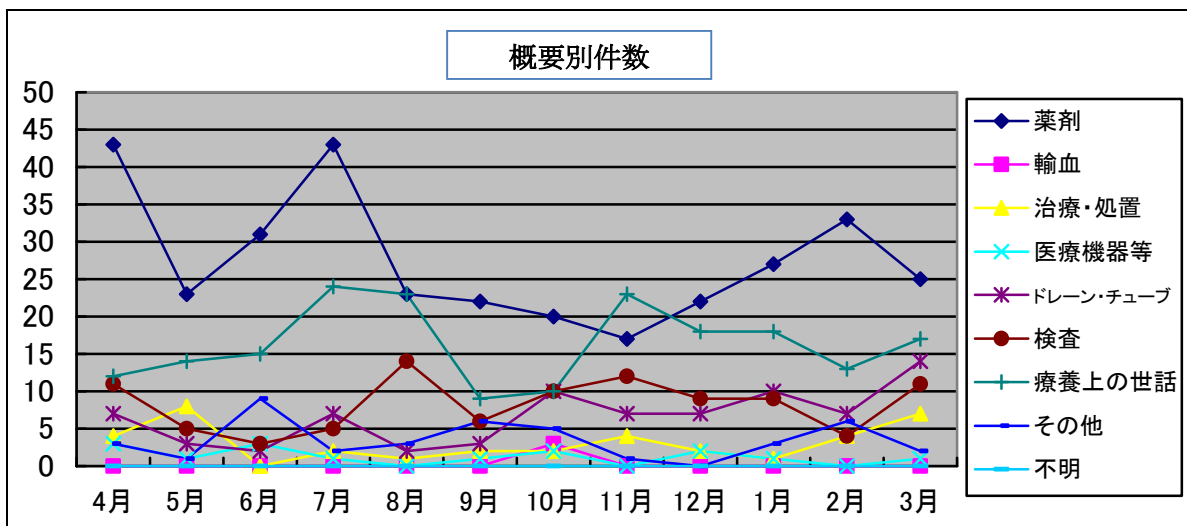


理学療法士	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	5
作業療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
言語療法士	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
事務員	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	2	0	7
運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー技師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
調理師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健師	1	0	1	1	0	2	1	3	1	1	0	1	12
助産師	6	1	2	3	0	0	1	2	3	2	1	2	23
MSW	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	4	6	3	5	5	6	4	5	8	3	2	57
合計	83	55	63	84	66	49	62	64	60	69	67	77	799



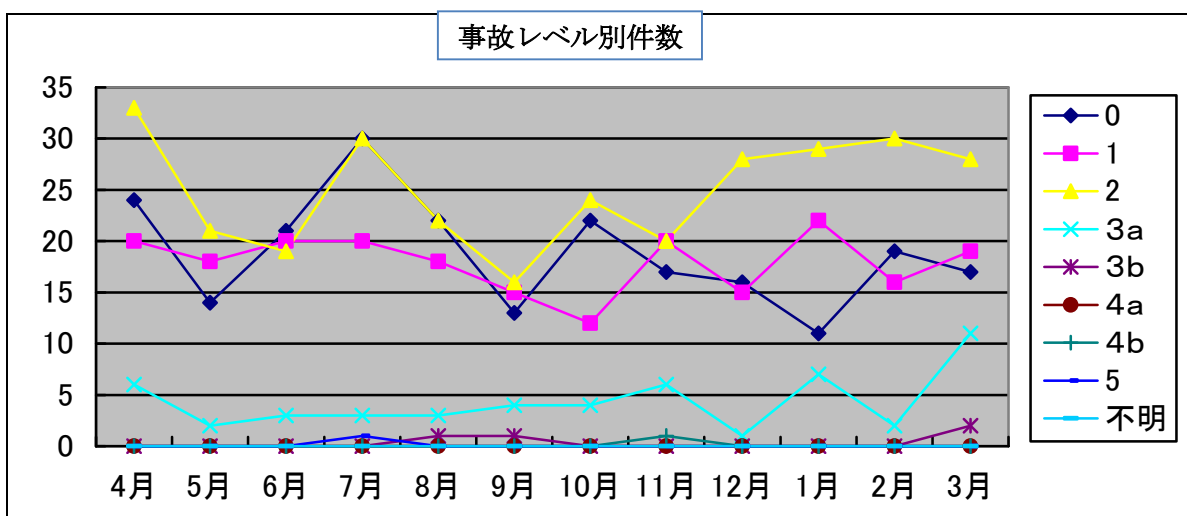
ヒヤリハット概要 月別

概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	43	23	31	43	23	22	20	17	22	27	33	25	329
輸血	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
治療・処置	4	8	0	2	1	2	2	4	2	1	4	7	37
医療機器等	3	1	3	1	0	1	2	0	2	1	0	1	15
ドレーン・チューブ	7	3	2	7	2	3	10	7	7	10	7	14	79
検査	11	5	3	5	14	6	10	12	9	9	4	11	99
療養上の世話	12	14	15	24	23	9	10	23	18	18	13	17	196
その他	3	1	9	2	3	6	5	1	0	3	6	2	41
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	83	55	63	84	66	49	62	64	60	69	67	77	799



平成27年度レベル分類 月別

事故レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	24	14	21	30	22	13	22	17	16	11	19	17	226
1	20	18	20	20	18	15	12	20	15	22	16	19	215
2	33	21	19	30	22	16	24	20	28	29	30	28	300
3 a	6	2	3	3	3	4	4	6	1	7	2	11	52
3 b	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4
4 a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 b	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	83	55	63	84	66	49	62	64	60	69	67	77	799



<文責 高本 和子>

# 感染対策室

## 1. 基本方針

院内感染を防止し、市立横手病院を利用する地域の方々が、安心して良質な医療を受けられるよう感染対策の推進を図る。

## 2. 概要

院内感染予防策を、機能的かつ効果的に行うために、感染対策室を設置する。

構成員

感染対策室室長：和泉千香子（医師）、副室長：小川 伸（看護師）

## 3. 業務内容

- ・院内感染防止のため感染管理教育を行う。
- ・感染対策に係わるサーベイランスを実施する。
- ・医療関連感染に係わる情報収集を行う。
- ・感染対策に関わる全般的なコンサルテーションを行う。
- ・感染対策の評価、見直しを行う。
- ・アウトブレイク時の対応を行う。
- ・関連学会への学会発表を行う。

## 4. 実績

### (1) 感染管理教育

開催月	内 容	対 象
4月	標準予防策、職業感染予防、演習、感染防止技術	新規採用者
5月	標準予防策	看護補助者・業務員
6月	標準予防策演習	看護補助者・業務員
	血管内留置カテーテル管理の基本	看護科
	尿道留置カテーテル管理の基本	看護科
7月	病院のゴミの取り扱いから院外の最終処分まで	看護補助者・業務員
	効果が実感できる口腔ケアの実践	全職員対象
8月	病院のリネンの取り扱いから院外の最終処分まで	看護補助者・業務員
	針刺し切創皮膚粘膜曝露防止	看護科
9月	閉鎖式吸引カテーテル演習	看護科
10月	環境清掃のポイント	看護補助者・業務員
11月	インフルエンザ簡易キット採取方法とイナビル吸入方法	看護科
12月	感染症を治す5つの基本	看護科
	インフルエンザとノロウイルス	臨床研修医
1月	標準予防策とインフルエンザ、感染性腸炎予防	外部委託業者
	結核の感染予防の基本	

(2) 主に実施したサーベイランス

- ・消化器外科SSI、BSI、UTI、手指衛生、耐性菌、抗生剤使用量、手指衛生・個人防護具遵守率、症候群（発熱・下痢）、インフルエンザなど
- ・外部機関へのサーベイランス参加状況  
厚生労働省院内感染対策サーベイランス（SSI部門・検査部門）

Akita-ReNICS

(3) コンサルテーション件数

内容	件数
感染防止	13件
外部施設	22件
洗浄消毒滅菌	10件
物品管理	4件
職員健康管理	1件
微生物	1件
抗生剤	2件
針刺し切創対策	1件
サーベイランス	1件
ワクチン	2件
廃棄物	1件
結核	2件
総計	60件

(4) 対策の実施・評価・変更など

- ・微生物検査に係わる検体採取マニュアルの変更
- ・症候群サーベイランス（発熱・下痢）の開始
- ・尿道留置カテーテルキットの変更
- ・ペーパータオルの変更
- ・安全機能付き留置針の導入
- ・擦式アルコール手指消毒剤の変更
- ・ニトリル手袋の導入

5. 研究活動、症例報告

- ・第7回J感染制御ネットワークフォーラム（仙台市・仙台国際センター）：中心静脈ライン交換のベストプラクティス
- ・第54回全国自治体病院学会（函館市・函館アリーナ）：インフルエンザ対策の取り組み
- ・第31回日本環境感染学会（京都府・京都国際会館）：当院の針刺し切創防止の取り組みと今後の課題

<文責 小川 伸>

# 医療情報部門

## 医療情報管理室

### 1. 基本方針

診療情報の適正な管理及び提供を行う。

### 2. 特色、概要

当部署は適切な診療情報の管理とその分析および電子カルテ運用の適正な管理を行うことを主たる業務とした部署である。

特色として、専門資格保有者が充実している点がある。兼務職員を除いた5名の職員のうち

- ・ 診療情報管理士 2名
- ・ 医療情報技師および情報セキュリティスペシャリスト 1名
- ・ 医療情報技師 1名

と4名が各専門資格を保有し、それぞれ担当の業務に当たっている。

### 3. 業務内容

- ・ 電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・ 院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・ 新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・ 病診連携システム導入に関する調整
- ・ 院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・ 診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

### 4. 単年実績

- ・ 地域へ分かり易いデータの公表の一環として地域医療連携セミナーにおいて「がん登録等」のデータを公表した。
- ・ Windows XPのサポート終了に伴う電子カルテ端末の更新として、デスクトップPCとノートPC合わせて70台入れ替えを行った。

### 5. 展望、今後の目標

引き続き、診療情報等を地域等へわかりやすく発信するとともに診療の質向上を図る取り組みを行っていく。

情報システムの運用コストについて、多角的な視点から評価し見直しを行っていく。

<文責 千葉 崇仁>

# 地域医療連携室

## 1. 基本方針

- ・地域の急性期医療を担う病院の連携窓口としての役割を担う。
- ・地域の病院・診療所・介護施設・行政等との連携を図り、地域包括ケアの具体化実現に寄与する。

## 2. 特色、概要

基本方針に基づき、地域の中核病院としての役割を果たすため、地域の医療機関、保健・福祉関連担当との連携を図り、急性期医療の提供、良質で安全・安心できる医療、効率的な医療を適切に提供するとともに、退院時に医療機関や関係各部門への連絡調整するための業務を行う。

## 3. 業務内容

地域の医療機関からの紹介患者をスムーズに受け入れるための調整やそれらをつなぐ連携の窓口としての役割を主に担当する「地域医療連携担当」、医療ソーシャルワーカーが患者や家族からの医療的、社会的、経済的問題への相談、助言、解決、調整を行い、安心して治療を受けられるように支援することを担当する「患者相談担当（医療相談室）」、退院困難な要因を有する患者の退院支援計画に基づき、関係各職種が適切な療養状況の選択支援等を行い、地域の医療機関や保健・福祉との連携を図り、在宅や転院に向け調整する等、一連のサービスを担当する「退院支援担当（退院支援チーム）」の3部門による業務を行う。

## 4. 単年度実績

### ・地域医療連携担当

紹介医療機関数 277施設 受入紹介件数 2,771件 受入検査件数 959件

紹介率 19.5%

逆紹介医療機関数 250施設 逆紹介件数 1,414件 逆紹介率 10.0%

広報紙「かじか」第11号発行（27.7発行）各医療機関等へ125部発送（一部持参）

夏季及び年末での医療機関等訪問実施（夏季49施設、年末50施設）

地域医療連携セミナーの開催（27.11.4 横手セントラルホテル）参加者 59名

報告：平成26年度地域医療連携室実績報告、「院内がん登録」について、

「在宅後方支援」について

講演：「がん患者の在宅療養支援」 緩和ケア認定看護師 高橋 麻理子

：「当院における3D-CTを利用した消化管画像診断」 副院長 藤盛 修成

休日当番医（医師会派遣） 28回実施 延べ患者数 235名

### ・患者相談担当（医療相談室）

医療相談室として標榜時間内での相談体制（医療ソーシャルワーカー2名、医療安全管理者1名）を確立し、業務を行った。

また、患者相談体制を補完する形で患者サポート体制の患者相談窓口を設置し、「総合案内」体制（平日：9～11時）を関係各職種の長による当番制で実施し、担当者の情報共有

のために日報を作成するとともに毎週月曜日に相談窓口の運営に関するカンファレンス（42回）開催しました。

・退院支援担当（退院支援チーム）

毎週木曜日に「退院調整会議」（47回）及び退院支援委員会（毎月第3火曜日 12回）を開催し、退院困難な要因を持つ患者の退院支援を行った。

平均在院日数：一般病棟 11.5日 ケア病棟 14.7日 全体 11.8日

在宅復帰率：一般病棟 97.5% ケア病棟 97.4%

## 5. 展望、今後の目標

受入した紹介患者数は検査依頼分を含めると延べ3,730名となり、前年比で344名増となっている。引き続き、県南地域の急性期中核病院としての役割を担っていけるよう努めていきたい。

相談体制も強化に努めており、安心して治療を受けられるように努めていきたい。

在宅復帰率も高い水準を維持しており、平均在院日数も前年比で0.15日（全体）短縮しているので、適切な療養環境の提供で在宅への退院を今後も進めていきたい。

<文責 高橋 功>

# 医師事務支援部門

## 医師事務支援室

### 1. 基本方針

医師、医療従事者、事務職員との業務の役割分担を推進し、医師の事務作業を補助する。

### 2. 特色、概要

急性期病院の役割を果たすため、医師事務支援室に医師事務作業補助者を配置し医師の事務負担軽減に努める。

### 3. 業務内容

- 医師の指示の下に診断書などの文書作成補助
  - ・診断書、入院証明書等の記載代行、紹介患者診療情報代行入力、書類に関する問い合わせ、内容の紹介
- 診療記録への代行入力
  - ・電子カルテやオーダーリングン等の代行入力
- 医療の質の向上に資する事務作業
  - ・外来患者さんへの検査説明
  - ・外来患者さんへの問診と入力
  - ・紹介患者の診察予約・検査予約の代行
  - ・救急患者取扱い状況調査
  - ・病院月報の作成
- 行政上の対応
  - ・救急医療情報システム入力
  - ・NCD入力等

### 4. 単年実績

- 外来の支援を行う診療科を増やし、診療時間の短縮を目指すため内科新患担当医や非常勤医師への支援を行うことを目標としたが、作業補助者不足により拡大はできなかった。
- 書類作成の充実では、書類作成の知識、経験が増え各自のスキルアップに繋がり全員が各科の書類作成ができるようになった。

### 5. 展望、今後の目標

更に医師の事務負担軽減を目標に、業務の見直しと改善を図る。

<文責 浮嶋 優子>



# 事務部門

## 事務局

### 1. 基本方針

- ・データを収集し、分析し、提供し、企画し、提案し、経営の一翼を担う。
- ・縁の下の力持ちとして、職員が働きやすい職場環境を作る。
- ・診療報酬制度に精通し、収益確保の提言を積極的に行う。
- ・コスト意識を常に持ち、コスト削減に向けた取り組みを行う。
- ・接遇の更なる向上をめざし、病院の職員として患者さんの視点に立ち、患者さんのために何ができるか考え実行する。
- ・自己啓発に努め、お互いに磨き合い、事務職員としてレベルアップを図る。

### 2. 特色、概要

事務局の組織は、総務課・医事課で構成されている。

- ・総務課：総務係、企画係、管財係
- ・医事課：医事係、会計係

### 3. 業務内容

平成27年度重点目標を次のとおりとし業務を行った。

- ・収益の確保と費用の節減等による健全な病院経営のための取り組みを行う
- ・院内物流の効率化と診療材料分析を可能にするSPDシステムの更新
- ・「地域医療構想」の策定状況を踏まえた病院改革プランの策定

平成27年度はより健全な病院経営をめざし更に改善することを目的とした「収支改善プロジェクト」立ち上げ、①収入確保・請求漏れ防止対策②給与関係③診療材料・薬品関係④委託業務・省エネ・一般経費関係の4つのワーキンググループを設置し、それぞれに事務局職員が参加し検討した。

実績の主なものとして、請求漏れチェックのためのレセプト精度調査の実施や、委託業務の見直し、感染性医療廃棄物の出し方の工夫等を行い、収益の確保と費用の削減に取り組んだ。

また、それぞれのグループから今後の課題が出されており、次年度に向けて更に検討が必要である。

新たな公立病院改革プランについては、県の地域医療構想が平成28年度に変更となったため、次年度に向けた作業内容について検討した。

<文責 浮嶋 優子>

# 総務課

## 企画係

### 1. 基本方針

健全な病院経営に向けた経営状況の把握と課題への対応。

### 2. 特色、概要

スタッフ 4名

企画係長 浮嶋優子（事務次長 兼総務課長）、主査 1名、嘱託職員 2名

### 3. 業務内容

- ・基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・病院機能評価の取得・継続に関すること。
- ・経営改善の調査に関すること。
- ・広告及び広報に関すること。
- ・病院ホームページに関すること。
- ・皆様の声（投書箱）の回収、回答等の処理。
- ・外来・入院患者さんアンケート調査、集計等処理。
- ・職員提案制度に関すること。
- ・臨床研修医制度に関すること。
- ・医療安全対策及び院内感染対策における庶務に関すること。
- ・秋田県医療学術交流会事務局に関すること。

### 4. 単年実績

前年度に病院機能評価（3rdG：Ver1.0）を受審し、平成27年8月に認定病院の継続が決定された。

臨床研修医の採用では定員4名に対し2名のマッチングが成立し、平成28年4月1日時点で初期研修医は2年目の研修医を含め6名となった。

新専門医制度への対応するための業務を行った。

### 5. 展望、今後の目標

- ・地域医療構想を踏まえた『新公立病院改革プラン』の策定

<文責 黒澤 雄悦>

# 総務係

## 1. 基本方針

地域の急性期医療を担う基幹病院として、医療スタッフの確保・充実と、経営健全化の取組の強化を図る。

## 2. 業務内容

総務担当（9名）

- ・人事・給与支払等管理業務
- ・旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務
- ・文書收受・発送・保管業務
- ・電話交換業務
- ・公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務
- ・選挙事務（院内入院患者の不在者投票）
- ・互助会会計事務

医局秘書担当（1名）

- ・医局関連庶務業務全般
- ・医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】
- ・医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務
- ・医局費、旅行積立金収支報告処理業務
- ・医師給与に関する書類の作成業務
- ・医局行事のセッティング業務

事務当直担当（4名）

- ・夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備担当（5名）

- ・夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

## 3. 展望、今後の目標

- ・平成28年度より人事評価制度が法律上の制度として導入されることになり、今年度、能力評価については、全職員を対象に実施。来年度は、業績評価についての説明会、評価者研修等を行い、スムーズな運用ができるよう計画的に進めていきたい。また、処遇面への反映方法、時期についても検討が必要である。
- ・平成27年12月よりストレスチェック制度が義務付けとなり、試行という形で実施。来年度は、制度の見直し、運用等について、再検討が必要である。

<文責 亀谷 良文>

# 管財係

## 1. 基本方針

原価計算実施の継続及び材料費の節減に向けた取り組み。

## 2. 特色、概要

原価計算の実施件数を増やし、さらなる分析を試みる。材料費の分析を行い、コンサルへの活用を含めた節減への取り組みを行う。そのためにも院内実務担当者による勉強会を実施し、現状の分析、問題点の提起を行う。また、材料費の分類ごとの分析を行い、節減に向けた対策を練る。

## 3. 業務内容

### 【医療機器・薬品関連】

- ・医療機器の購入に関すること
- ・医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理に関すること
- ・酸素使用状況調査に関すること
- ・未入金入力処理、貯蔵品入力処理に関すること
- ・委託契約・賃貸契約に関すること
- ・棚卸資産調査、統計に関すること

### 【施設関連】

- ・施設・建物・設備の営繕、保全に関すること
- ・防災、防災訓練に関すること
- ・廃棄物に関すること
- ・医師住宅の施設管理に関すること
- ・危険物の管理保全に関すること
- ・駐車場に関すること
- ・用地の取得、処分に関すること
- ・工事請負契約、委託契約、賃貸契約に関すること
- ・警備に関すること
- ・除排雪に関すること
- ・医療用ガスの保全に関すること
- ・院内の環境整備に関すること
- ・エネルギー管理に関すること
- ・開設許可事項変更届出事務に関すること
- ・消防・危険物等届出事務に関すること
- ・院内掲示に関すること
- ・行政財産使用許可に関すること

### 【用度関連】

- ・医療材料・消耗品の価格交渉、発注、払出業務に関すること
- ・石油製品の価格交渉、契約に関すること
- ・市有物件災害共済事務に関すること
- ・特定治療材料の調査に関すること
- ・医療材料等の使用状況調査・在庫管理に関すること

- ・備品購入、備品修理に関すること
- ・備品台帳の管理に関すること
- ・職員被服の見積、発注に関すること

【ボイラー室】

- ・ボイラー室の保守管理に関すること
- ・空調機械保守管理に関すること
- ・冷暖用ファンコイル保守管理に関すること
- ・蛍光灯交換及び管理に関すること
- ・自家発電機の管理に関すること
- ・重油取扱い及び管理に関すること
- ・医療ガス情報監視、点検及び酸素ボンベ交換に関すること
- ・その他施設管理に関すること

4. 単年実績

原価計算については2症例実施した。収支改善プロジェクトの材料ワーキンググループで過去5年分の材料の分析を実施。同種同効品の縮小に関しては、3種類の静脈留置針を2種類へ縮小するために診療材料検討委員会及び院内感染対策委員会での協議・評価を実施。安全機能の留置針を採用したため、材料費は若干コスト増となってしまうが、保険償還額で比較した場合、年間の収益が約18万円増となる試算額が出た。また、安全機能が付いていることにより、針刺し事故防止への安全対策が高まった。

- 委託契約業務件数 42件
- 賃貸契約業務件数 30件

○医薬品見積状況

試薬 H27. 04. 01 484品目  
薬品 H27. 10. 01 1,567品目

○薬品購入実績（消費税含まない）

	H26年度	H27年度
内服	155,360,923	312,358,745
注射	437,079,010	467,874,047
外用	26,041,933	24,257,088
血液	29,402,827	16,946,407
試薬	73,318,212	77,781,859
合計	721,202,905	899,217,859

- 医療消耗品（特材、一般）購入金額
 

特材	206,759,073
一般	256,366,655
計	463,125,728

○医療機器契約業務

契約件数 消化管汎用ビデオスコープ他 31件  
契約総額 ¥75,271,933.-

番号	品名	科課名
1	医薬品SPDシステム	薬局・総務課
2	上部消化管汎用ビデオスコープ	消化器センター
3	下部消化管汎用ビデオスコープ	消化器センター
4	エアロバイク	リハビリテーション科
5	エンドワークプロII	外科
6	ベッドサイドミニタ(2人用)	リハビリテーション科
7	上部消化管汎用ビデオスコープ	消化器センター
8	デスクトップパソコン・編集ソフト	外科
9	多目的ベッド及び付属品	看護科
10	CO2センサキット	ME室
11	薬用冷蔵ショーケース	臨床検査科
12	血圧監視装置	ペイン外来
13	XF2シェーバー	手術室
14	メーフィスシリーズベッド・ベッドサイドレール	看護科
15	リユースブル自動生検装置バードマグナム	泌尿器科
16	X線測定器(線量計)	診療放射線科
17	コアシッチ	医療情報管理室
18	透析室装置仕様変更	ME室
19	電子カルテ端末用プリンター	医療情報管理室
20	薬用保冷庫	臨床検査科
21	薬用冷蔵ショーケース	臨床検査科
22	微生物検査システム(バージョアップ)サーバー・クライアント	感染対策室
23	診療用无影灯	産婦人科
24	診療ユニット・ユニット	産婦人科
25	生物顕微鏡	産婦人科
26	電子カルテ更新端末	医療情報管理室
27	ガス式スूपケトル	食養科
28	ウルトラソニックキャストカッター	整形外科
29	検索性画像観察装置	診療放射線科
30	血液用冷蔵庫・冷凍庫 温度監視警報システム	臨床検査科
31	物品管理SPDシステム	総務課
32	微生物検査システム(バージョアップ)	感染対策室

## 5. 展望、今後の目標

各費用の更なるコスト削減を視野に入れながら、効率的・健全な病院経営に寄与するよう努める。また、職員の意識改革を促すためにも費用の歳出状況等の情報について、グループウェア掲示板等を通じて適宜発信していく。

＜文責 柿崎 正行＞

# 医 事 課

## 1. 基本方針

- ・経営健全化の取り組みの強化。
- ・地域包括ケア病棟の効果的な運用による在宅復帰への支援。
- ・原価計算への継続的な取り組み。

## 2. 特色、概要

平成27年度は、内科・心療内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・アレルギー科・外科・整形外科・小児科・産婦人科・眼科・泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科の15科を標榜して診察を行った。

医師の確保上、心療内科は週2回、眼科は週4回の診察を行った。

入院に関してはDPC病院として届出されており、一般病床数は225床、うち47床が地域包括ケア病床として運営された。

## 3. 業務内容

係としては医事係、会計係、医療相談室となり、これに医療情報管理室の診療情報担当及び地域医療連携室担当者と共同する形で、患者・書類受付、診療報酬請求、会計・収納事務、医療相談等を主な業務として行った。

また、診療情報を集計、加工して各種統計、監査・検査、経営指標資料の作成を行い、病院の医療の質の向上や経営健全化に資したところである。

## 4. 単年実績

利用状況では、入院患者は延べ人数で64,284人（病床利用率78.1%）、外来患者は延べ人数で159,712人となり、対前年比では入院で800人、外来では861人増加しており、料金収入は患者一人1日当たり、入院では47,535円、外来では10,911円となり、対前年比で入院で1,321円、外来では1,005円増加した。

## 5. 展望、今後の目標

引き続き、基本方針の具体化に向けて業務改善と職員のスキルアップを目指す。

## 6. その他

経営健全化の取り組みとして院内で「収支改善プロジェクト」が立ち上げられ、4つのワーキンググループが活動を行った。当課は主に「収益確保・請求漏れ防止対策WG」で主たる業務改善の提起と実践を行い、11/17～20には「レセプト精度調査」を外部コンサルタントに依頼して実施し、その指摘や助言に基づき、12月分からは「時間外特例加算」、1月分からは「透析液加算」、「透析患者の電子画像管理加算」を算定し増収を図ったところである。

スタッフ

課長 1名 係長級 2名 事務職員 2名 嘱託職員 17名

<文責 高橋 功>

## 委員会活動





# 各種委員会名簿

平成27年4月1日付

委員会名	人員	委員長	副委員長	委員
医療安全管理対策委員会	24	吉岡 浩	高本和子	寺田宏達 奥山 厚 飯塚 顕 伊藤隆士 佐藤姫子 佐藤悠紀 佐藤セツ子 木村真貴子 藤井洋子 ●和賀美由紀 下夕村優子 高橋礼子 高橋共子 石橋由紀子 ★石田良樹 ☆川越 弦 藤原理吉 小田嶋尚人 佐々木絹子 原田優子 鈴木久美子 高橋 功 浮嶋優子 ★医薬品安全管理責任者☆医療機器安全管理責任者●看護科安全部会責任者
医療事故対策委員会	8	丹羽 誠	吉岡 浩	藤盛修成 ※主治医 佐藤セツ子 佐藤正弘 高橋 功 高本和子
院内感染対策委員会	18	丹羽 誠	—	船岡正人 和泉千香子 石田良樹 佐藤セツ子 佐々木佳子 小田嶋恵美子 岩村久子 佐藤悦子 赤川恵理子 藤沢親子 小野寺撰子 高田真紀子 佐々木絹子 高本和子 小川 伸 佐藤正弘 伊藤建一
I C T	5	和泉千香子	—	佐々木絹子 小川 伸 渡邊圭子 武石知希
栄養管理委員会	17	船岡正人	丹羽 誠	小宅英樹 佐藤セツ子 藤井洋子 和賀美由紀 下夕村優子 高橋礼子 高橋共子 原田優子 川越真美 天羽勝義 佐藤殉子 松井世津子 高橋 麗 佐藤正弘 照井圭子
N S T	20	船岡正人	和賀美由紀	江畑公仁男 安藤宏子 柿崎美幸 平塚加奈子 深沢美里 佐藤郁美 福田祐美 小松孝太郎 西屋洋子 渡部僚太 遠藤ちづる 原田優子 川越真美 小宅英樹 石田拓耶 古関佳人 百合川深里 柴田昌洋
褥瘡対策委員会	22	伊勢憲人	武内郷子	佐藤美夏子 渡邊圭子 佐藤友紀 中村奈保子 高橋加美子 鈴木智都 煙山由紀子 阿部萌子 地主 愛 高橋エリ子 小川千夏子 山石陽子 大澤恵美 篠木望美 石川順基 工藤真希子 川越真美 阿部光子 菅原祐司 百合川深里
緩和ケア委員会	19	丹羽 誠	高橋共子	滝澤 淳 石田良樹 高橋麻理子 吉水桃子 末次エリカ 丹 久美 佐々木洋子 新田信衛 地主 愛 高根芙実 高橋康子 鈴木真紀子 松川かおり 鈴木 務 原田優子 石山博幸 柴田昌洋
救急センター運営委員会	11	江畑公仁男	—	藤盛修成 小松 明 法花堂学 渡邊圭子 木村真貴子 佐藤鋼子 川越 弦 工藤真希子 高本和子 木村宏樹
手術室運営委員会	11	寺田宏達	—	吉岡 浩 江畑公仁男 畑澤淳一 伊勢憲人 高橋 誠 佐藤セツ子 石橋由紀子 小松ルリ子 岩村久子 川越 弦
糖尿病委員会	16	奥山 厚	照井洋子 鈴木久美子	佐々木洋子 原田優子 川越真美 小田嶋尚人 柴田一美 小松則子 佐藤純平 山田百合子 大黒成美 佐藤美紀子 山田沙織 遠藤ちづる 柴田昌洋
輸血療法委員会	13	畑澤淳一	下夕村優子	吉岡 浩 船岡正人 寺田宏達 小宅英樹 佐々木絹子 石田拓耶 柿崎美幸 小松ルリ子 高本和子 阿部光子 百合川深里
臨床検査適正化検討委員会	9	丹羽 誠	伊勢憲人	船岡正人 藤盛修成 畑澤淳一 佐藤セツ子 佐々木絹子 長瀬智子 照井圭子
化学療法委員会	16	奥山 厚	畑澤淳一 小宅英樹	武内郷子 伊勢憲人 高橋 誠 高本和子 木村真貴子 佐藤由美子 佐藤悦子 佐藤さとみ 藤沢親子 松川かおり 長瀬智子 谷川裕子 百合川深里
退院支援委員会	17	和泉千香子	—	船岡正人 吉岡 浩 佐藤セツ子 佐々木佳子 高橋礼子 小田嶋恵美子 高橋佳子 佐藤悦子 佐藤さとみ 藤沢親子 小野寺撰子 松川かおり 小田嶋尚人 高橋 功 石山博幸 藤原明子
倫理委員会	8	丹羽 誠	藤盛修成	小田嶋尚人 渡邊圭子 佐藤セツ子 佐藤正弘 亀谷良文 (外部委員) 小野タツ子
図書委員会	4	泉 純一	佐藤正弘	谷口明美 佐藤セツ子
治験委員会	7	船岡正人	—	吉岡 浩 石田良樹 渡邊圭子 佐藤正弘 柴田昌洋 (外部委員) 小野タツ子
臨床研修管理委員会	22	船岡正人	藤盛修成 伊勢憲人	吉岡 浩 江畑公仁男 小松 明 畑澤淳一 塩屋 芥 根本敏史 和泉千香子 奥山 厚 滝澤 淳 武内郷子 富岡 立 泉 純一 寺田宏達 高橋 誠 岩崎 渉 佐藤正弘 浮嶋優子 黒澤雄悦 木村真貴子(オプ) 西野克寛 (外部委員) 南園智人 杉田多喜男 小野 剛 面川 進 小棚木均 西成 忍

委員会名	人員	委員長	副委員長	委 員				
診療材料検討委員会	14	江畑公仁男	—	畑澤淳一 佐藤悦子 川越 弦	根本敏史 赤川恵理子 阿部光子	佐藤セツ子 藤沢親子 菅原祐司	高橋佳子 小野寺摂子	岩村久子 高田真紀子
病床運営委員会	14	丹羽 誠	藤盛修成	吉岡 浩 藤井洋子 高橋 功	和泉千香子 和賀美由紀 石山博幸	佐藤セツ子 下夕村優子	佐々木佳子 高橋礼子	木村真貴子 高橋共子
医療情報管理委員会	10	藤盛修成	小松 明 高橋 功	佐藤セツ子 木村宏樹	佐々木佳子 千葉崇仁	藤原理吉	佐々木絹子	佐藤正弘
電子カルテ委員会	24	藤盛修成	佐々木佳子 高橋共子	和泉千香子 小田嶋恵美子 高本和子 鈴木久美子 土谷 恵	伊勢憲人 藤沢親子 藤原理吉 高橋 功	赤川恵理子 小野寺摂子 小田嶋尚人 照井圭子	小松ルリ子 松川かおり 原田優子 木村宏樹	末次エリカ 小宅英樹 佐々木絹子 千葉崇仁
D P C 委員会	15	畑澤淳一	藤盛修成 江畑公仁男	丹羽 誠 小宅英樹 千葉崇仁	塩屋 齊 郡山邦夫 土谷 恵	佐々木佳子 高橋 功	藤井洋子 照井圭子	佐々木絹子 木村宏樹
クリニカルパス委員会	21	藤盛修成	下夕村優子	畑澤淳一 奥山 厚 高橋恵子 小宅英樹	伊勢憲人 和泉千香子 藤沢親子 高橋 洋	江畑公仁男 高橋 誠 塚本 梢 原田優子	小松 明 佐藤鋼子 岩見香名子 照井圭子	塩屋 齊 鈴木智都 郡山邦夫
業務改善委員会	15	藤盛修成	—	伊勢憲人 佐々木佳子 高本和子	小田嶋尚人 木村真貴子 佐藤正弘	藤原理吉 石橋由紀子 高橋 功	石田良樹 佐々木絹子 照井圭子	佐藤セツ子 原田優子
地域交流推進委員会	11	吉岡 浩	船岡正人	佐藤セツ子 原田優子	石田良樹 佐藤正弘	藤原理吉 三浦幸恵	小田嶋尚人 浮嶋優子	佐々木絹子
機能評価準備委員会	11	吉岡 浩	藤盛修成	佐藤セツ子 高橋 功	佐々木佳子 浮嶋優子	高本和子 阿部千鶴子	小川 伸 鈴木久美子	佐藤正弘 (オブ)
薬事委員会	24	藤盛修成	—	丹羽 誠 畑澤淳一 武内郷子 泉 純一 高田真紀子	吉岡 浩 塩屋 齊 伊勢憲人 岩崎 渉 阿部光子	船岡正人 根本敏史 滝澤 淳 高橋 誠 照井圭子	江畑公仁男 和泉千香子 寺田宏達 吉岡麻依子	小松 明 奥山 厚 富岡 立 石田良樹
衛生委員会	14	船岡正人	—	丹羽 誠 末次エリカ 小川 伸	塩屋 齊 丹 久美 佐藤正弘	藤原理吉 高橋 洋 糸井 豪	佐藤セツ子 高橋大樹	鈴木久美子 高橋貞広
患者サービス向上委員会	8	佐藤セツ子	—	丹羽 誠 佐藤正弘	江畑公仁男 浮嶋優子	佐々木佳子	細谷 謙	奥州理湖
教育委員会	7	丹羽 誠	藤盛修成	佐藤セツ子	郡山邦夫	佐藤正弘	浮嶋優子	亀谷良文
広報委員会	9	船岡正人	浮嶋優子	小川 伸 黒澤雄悦	細谷 謙 阿部千鶴子	石山博幸	奥州理湖	高橋美幸
個人情報保護推進委員会	6	佐藤正弘	丹羽 誠	佐藤セツ子	高橋 功	浮嶋優子	千葉崇仁	
診療録開示審査会	8	吉岡 浩	丹羽 誠	船岡正人 高橋 功	藤盛修成	江畑公仁男	佐藤セツ子	佐藤正弘
年報編集委員会	10	小松 明	—	山谷加奈 小丹まゆみ	細谷 謙 天羽勝義	渡邊圭子 黒澤雄悦	柿崎拓磨 土谷 恵	高橋優子
医療ガス安全管理委員会	16	江畑公仁男	—	吉岡 浩 小田嶋恵美子 佐々木洋子	寺田宏達 赤川恵理子 柏谷 肇	小松ルリ子 藤沢親子 阿部光子	小田嶋明子 小野寺摂子 伊藤建一	照井洋子 高田真紀子 柿崎更生
医療廃棄物管理委員会	16	丹羽 誠	佐藤正弘	藤原理吉 小田嶋恵美子 小川 伸	石田良樹 赤川恵理子 佐々木絹子	照井洋子 藤沢親子 高本和子	岩村久子 小野寺摂子 伊藤建一	小田嶋明子 高田真紀子
防災対策委員会	28	丹羽 誠	吉岡 浩 船岡正人 佐藤正弘	藤盛修成 藤井洋子 石橋由紀子 原田優子 阿部光子	小田嶋尚人 和賀美由紀 佐々木佳子 三浦幸恵 伊藤建一	藤原理吉 下夕村優子 木村真貴子 高本和子 亀谷良文	石田良樹 高橋礼子 川越 弦 高橋 功 末次エリカ	佐藤セツ子 高橋共子 佐々木絹子 浮嶋優子
省エネ推進委員会	8	丹羽 誠	佐藤正弘	佐藤セツ子 柿崎更生	小田嶋恵美子	照井洋子	藤原理吉	伊藤建一

# 医療安全管理対策委員会

## 1. 概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。委員会を「医療安全管理対策委員会」と名称変更し、構成メンバーを各部署の安全管理責任者（各部署長）へ改正後、すでに3年が経過した。以降、院内の医療事故防止を図るための実質的な組織体制が強化された。会議を重ねる中で構成員の安全意識も高まり、組織の連携と再発防止が円滑にできている。院内のインシデント報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・決定後各部署内に於ける、安全対策の周知徹底が行われている。

## 2. 委員会開催日

平成27年	4月	14日	5月	12日	6月	9日	7月	14日
	8月	11日	9月	10日	10月	13日	11月	10日
	12月	8日						
平成28年	1月	12日	2月	9日	3月	8日	(合計12回)	

## 3. 主な協議事項

各月毎に①インシデント事例紹介・検討 ②院内監査報告 ③ヒヤリハット集計報告がされた。

4月 「外来で、膀胱鏡検査データが誤って他の患者の電子カルテに保存された事例」

\*他・委員会名簿の改訂

\*インシデント報告奨励のための表彰基準」について

5月 「内科受付で、次回来院時指示を誤って他科を引用した事例」

6月 「インスリン指示が正しく患者へ伝わらなかった事例」

\*医師事務作業補助者による代行入力の協力依頼

7月 「未消毒機器が、内視鏡検査に誤って使用された疑いのある事例」

\*各洗浄時、漏水感知を毎回行い、自動的にスタートへ手順の改善

\*損保ジャパン「医療安全セミナー」開催

8月 「緊急入院時、誤って違う患者を搬送しそうになった事例」

\*マニュアル改訂：患者の入院サポート時、外来・病棟双方で患者確認。

(予約入院患者は、リストバンド。緊急入院患者は、ベッドネーム持参)

9月 「検診結果に、誤って異常値（尿糖土）を報告した事例」

\*平成27年10月施行新制度「医療事故調査報告制度」の制度概要説明

\*医療安全研修会（全職員対象）の報告

10月 「職場健診で、アネサキス処置の保険診療適応を見逃した事例」

\*保険診療適応のシグナルを活用する。

11月 「電子カルテの患者情報（血液型・感染情報etc）が、誤って削除された事例」

\*エラー防止対策として電子カルテ「患者情報削除」ボタンを失くす。

12月 「AKHからの病理結果が、誤って他の患者へ報告されていた事例」

\*標本写真・スケッチ画像に患者の属性を明らかとした業務へ要望。AKHセンターと共同で原因分析・再発防止のシステム改善

平成28年

- 1月 「異常時指示（カロナール）を誤って他の患者へ投与した事例」  
\* 異常時指示の実施は、受持ち看護師が行う。
- 2月 「ESTに伴う指示変更で、薬剤が白濁したまま実施された事例」  
\* 混注にて白濁するリスクのある薬剤について医師・看護師へ周知する。  
\* 医療安全研修会（全職員対象）の報告
- 3月 「深夜勤務で、二名の患者にそれぞれ交差して誤った薬剤を実施した事例」  
\* 「ボタン実施」の潜在リスクの周知  
\* 病棟勤務から離れていた職員の再教育（マニュアル）

<文責 高本 和子>

# 医療事故対策委員会

## 1. 概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。更に、10月施行の医療事故報告制度により尚一層当委員会の責務が大きなものとなった。

## 2. 件数

報告6件：レベル3 b以上の事故報告書（過失の有無を問わない）

骨折（2件）転倒関連急性硬膜下血腫による死亡（1件）内視鏡検査後消化管にて外科手術（1件）想定外の再手術（1件）術中出血量3000ml以上（1件）

原因分析・対策を速やかに行い、再発防止に取り組んだ。特に、施設からの救急搬送・入院当日の骨折の事例には、横手市救急本部との情報共有を行い、業務の質（患者搬送）向上について協力を得られた。

構成員へ書面で報告を行ない、委員会メンバー全員が承認確認をした。

## 3. 対応

- （1）医療事故事例の原因分析から再発防止に取り組んだ。
- （2）患者サポート体制：H28年2月18日横手市長・病院事業管理者へ損害賠償請求通知あり対応。
- （3）会議開催数 2回

## 4. 最後に

平成27年度は、日本医療機能評価機構への報告事例 1件。

＜文責 高本 和子＞

# 院内感染対策委員会

## 1. 目的

院内感染対策の重要性は近年特に強く協調されている。適切な院内感染対策は、患者、医療従事者の安全、医療コストの軽減、地域における耐性菌の発生予防に役立つ。市立横手病院（以下「当院」とする）は地域の中核病院として、さまざまな施設から重症患者の受け入れが常に行われており、高度先進医療に伴うコンプロマイズドホストが多く存在するため、必要十分な院内感染対策を行うことが特に要求される。基本理念のもと医療の提供を行い、当院における院内感染対策の基本方針を定め、患者及び全職員、訪問者を医療関連感染から防御し、安全で質の高い医療を提供することを目的とする。

## 2. 活動内容

院内感染防止において、院内感染対策委員会と日常業務を担当する感染対策チームが組織作りとして重要である。感染対策チームが実践的対策、サーベイランス、職員教育、廃棄物処理対策などを行い、日々の活動から院内感染対策における問題点を院内感染対策委員会に提案し、改善活動を行っている。

## 3. 活動要約

### (1) 市立横手病院で実践し委員会に報告を行っているサーベイランス

デバイス関連感染サーベイランス（中心静脈カテーテル、尿道留置カテーテル）、消化器外科手術部位感染サーベイランス、末梢静脈留置カテーテルサーベイランス、手指消毒剤使用量、手指衛生遵守率サーベイランス、針刺し切創・皮膚粘膜曝露サーベイランス、症候群サーベイランス、耐性菌サーベイランス、抗生剤使用量サーベイランスなど

### (2) 全職員を対象とした研修会

- ・効果を実感できる口腔ケアの実践：東京医科歯科大学歯学部教授 下山 和弘 先生  
（開催日：2015年7月17日）
- ・感染症を治す5つのコツ：前橋赤十字病院 総合感染症内科 林 俊誠 先生  
（開催日：2015年12月11日）

### (3) 改善

- ・閉鎖式尿道留置カテーテルの全面導入
- ・手指消毒剤の変更：ジェルタイプからフォームタイプへ変更
- ・ニトリル手袋の導入
- ・ペーパータオルの変更

<文責 小川 伸>

# 栄養管理委員会

## 1. 目的

給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

栄養管理委員会を開催し、栄養業務の運営に関する事項・栄養業務の向上に関する事項・各職域間の円滑な運営に関する事項・施設や設備の改善に関する事項・その他栄養サービスに関する事項等々について協議をする。

## 3. 活動要約

年4回（4月・7月・10月・1月）栄養管理委員会を開催し、議題に沿って討議を行った。

4月22日⇒委員会メンバーについて・年間計画について・食事療養費について

7月22日⇒栄養調整食品の説明

10月22日⇒メイバランス1.0Zパック採用について

1月26日⇒食事箋伝票について・医療監視の結果より

<文責 原田 優子>



# NST委員会

## 1. 目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする

## 2. 活動内容

- ・全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する
- ・抽出した症例に対してNST Core Staffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う
- ・検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する
- ・前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする
- ・栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
- ・その他、栄養療法に関する事柄

## 3. 活動要約

### (1) NST栄養評価・回診（原則毎週月曜日15時～）

4月	6日	13日	20日	27日	
5月	11日	18日	25日		
6月	1日	8日	15日	22日	29日
7月	6日	13日	27日		
8月	3日	10日	17日	24日	31日
9月	7日	14日	28日		
10月	5日	19日	26日		
11月	2日	9日	16日	30日	
12月	7日	14日	21日	28日	
1月	4日	18日	25日		
2月	1日	8日	15日	22日	29日
3月	7日	14日	28日		

### (2) NST歯科回診（原則毎月最終水曜日15：00～）

7月15日	8月26日	9月30日
10月28日	11月25日	12月16日
1月20日	2月24日	3月30日

### (3) NST症例検討会（原則毎月第2水曜日17：30～）

第1回	4月8日	第2回	5月13日	第3回	6月10日
第4回	7月8日	第5回	8月19日	第6回	9月9日
第7回	10月14日	第8回	11月11日	第9回	12月9日
第10回	1月13日	第11回	2月10日	第12回	3月16日

<文責 柴田 昌洋>

# 褥瘡対策委員会

## 1. 目的

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。

## 2. 活動内容

委員会を月1回開催し、次の各号における事項を調査・審議する。

- ・院内における褥瘡予防体制の確立及び褥瘡に関連する感染予防に関すること
- ・院内で発生があった褥瘡事例の対策に関すること
- ・褥瘡の調査に関すること
- ・褥瘡予防・治療のためのマニュアル類の整備に関すること
- ・褥瘡予防・治療に関する情報の収集に関すること
- ・職員を対象とした、褥瘡に関する研修会の実施に関すること
- ・その他、当院の褥瘡発生予防のために必要な事項に関すること

## 3. 活動要約

### (1) 褥瘡対策委員会の開催

4/9、5/14、6/11、7/9、8/6、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/4、3/10

### (2) 褥瘡発生の状況

院内全体の褥瘡発生件数は31件であり、前年度より12件増加したが、褥瘡発生率の年度平均値は0.5%であり前、例年と大差がなかった。発生原因は昨年同様ポジショニングの不良が最も多かったため、今後も重点をおくべき項目である。

### (3) 体圧分散寝具の整備

全体体圧分散マットレスの供給率：平均167%、高機能マットレスの供給率：平均78%

### (4) 研修会実績

- ・4/9に新規採用者研修を実施し参加率は100%
- ・7/27、7/29、7/31に褥瘡対策専任看護師の研修を実施し参加率は84%
- ・9/15に病棟所属の看護補助者研修を実施し参加率は64%
- ・1/14に褥瘡対策とNSTについての研修会を実施し参加者は75名

<文責 佐藤美夏子>

# 緩和ケアチーム委員会

## 1. 目的

### 【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになることを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院としての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

## 2. 活動内容

### 【事業検討事項及び事業】

- ・症状緩和の方法論の勉強・実践・普及を行いスキルアップを目指す
- ・患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために①勉強会及びケースカンファレンス②緩和ケアチーム(PCT)回診③院内勉強会④緩和ケアマニュアルの整備等を行う。また、在宅支援などについて、コメディカルとも話し合うなどチームで調整をはかる。

### 【委員会開催】

毎月第3月曜日に開催

### 【平成27年度目標】

- ・院内緩和ケアの質向上のため、医療従事者に対して緩和ケアに関する学習会の場を提供する。
- ・病棟プライマリーチームと緩和ケアチームの連携を図るためカンファレンスを定着させる。

### 【特記事項】

- (1) 緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- (2) 勉強会の開催：11月10日 「緩和ケアチームの紹介と緩和ケアについて」参加者56名  
3月10日 疼痛緩和に関するWebカンファレンス
- (3) 『痛みの評価シート』の様式を検討し変更した。
- (4) 院外勉強会への参加
  - ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
  - ・6月14日「秋田がんささえ愛」への参加
  - ・横手医師会主催「在宅緩和ケア研修会」への参加
  - ・その他緩和ケアに関する研修会への参加
- (5) 緩和ケアマニュアルの改訂

<文責 高橋 共子>

# 救急センター運営委員会

## 1. 目的

市立横手病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

救急部門の体制の整備に関すること、救急部門の適切な運営に関することを討議、検討を行った。

## 3. 活動要約

平成27年4月13日

- ・受入困難事例について
- ・27年度救急センター運営委員会活動予定について

平成27年5月27日

- ・AED・BLS研修会（52名参加）

平成27年6月24日

- ・エマージェンシー訓練実施

平成27年9月2日

- ・エマージェンシー訓練の報告
- ・その他

平成27年11月9日

- ・救急症例検討会について
- ・その他

平成28年2月2日

- ・救急症例検討会実施（81名参加）

<文責 木村 宏樹>

# 手術室運営委員会

## 1. 目的

市立横手病院における手術室運営を討議、検討し、その効果的な推進を図るため手術室運営会議を設置する。

## 2. 概要

委員会は偶数月に開催する。

## 3. 活動内容

- ・手術及び手術器械、材料に関する事
- ・手術室の事故防止対策に関する事
- ・手術室の感染防止対策に関する事
- ・手術室の人的、経済的運用に関する事

## 4. 活動要約

- ・サンダービート（超音波凝固切開装置）購入
- ・火曜日・木曜日の入室時間は9時30分から申込み可能となった。
- ・吸引器各社サンプル使用した結果、吸引力の問題やトラブルあり、現在使用中のセレス吸引システムを継続使用する。価格交渉もした。
- ・ホギメディカルよりIC TRAER（ガーゼカウントできる器械）評価依頼あり。
- ・クリオドレーンバックサンプルで使用（自然排液を目的とし必要時は弱圧で排液可能）してみた結果採用となる。
- ・9月より婦人科でインターシード採用となる。（保険請求可能なのがフジか症例のみ）
- ・手術件数は昨年より41増加したが、時間外は300時間ほど減ってきている。

## 5. 展望、今後の目標

手術件数は約1,100件台を維持している。全身麻酔件数は全体の60%以上を占めている。マンパワー不足の状態が続いているため、今後も増員を働きかけていく。患者さんが安心・安全に手術が受けられるように、チーム医療を展開していきたい。

<文責 石橋由紀子>

# 糖尿病委員会

## 1. 目的

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

## 2. 活動内容

- ・糖尿病教室開催
- ・病院祭での生活習慣病コーナー設置  
多くの一般市民に糖尿病への当院での取り組みをアピールした。
- ・糖尿病入院患者様に糖尿病教育資料など情報提供
- ・病院スタッフへの糖尿病に関する研修参加案内

## 3. 委員会活動要約

委員会開催：4回

糖尿病教室開催：20回（6月～3月）

参加者 入院患者30名 外来72名 年間参加者102名

講義担当者 奥山医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士 検査技師

秋田県糖尿病協会理事会出席（照井・川越）かまぐらの会代表

病院祭：10月4日 生活習慣病コーナー設置

各コーナーで展示、血糖測定、糖尿病療養指導相談、試食

奥山医師を講師に糖尿病に関する講話、糖尿病相談会

らくらく体操紹介

糖尿病研修会案内：

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会参加案内など

<文責 照井 洋子>

# 輸血療法委員会

## 1. 輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている。

## 2. 活動内容

(第1回) 日時：平成27年4月15日(水) 17:30～

- 議題 1) 使用状況の報告 2) 廃棄報告  
3) 輸血前後感染検査科別収 4) その他

(第2回) 日時：平成27年6月15日(月) 17:30～

- 議題 1) 使用状況の報告 2) 血液内科での輸血後感染症検査について  
3) 輸血後感染症検査の予約外来院について

(第3回) 日時：平成27年8月17日(月) 17:30～

- 議題 1) 使用状況の報告 2) 輸血後感染症検査について  
3) 血液センターより情報提供

(第4回) 日時：平成27年10月19日(月) 17:30～

- 議題 1) 血液製剤使用状況の報告  
2) その他  
①輸血後感染症検査推奨書の取り扱いについて  
②血液センターより情報提供

(第5回) 日時：平成27年12月14日(月) 17:30～

- 議題 1) 血液製剤使用状況の報告  
2) 使用済み血液製剤バッグの保存について  
3) 輸血後感染症検査推奨書の取り扱い  
4) 血液センターからの情報提供  
5) 委員の変更について

(第6回) 日時：平成28年2月15日(月) 17:30～

- 議題 1) 血液製剤使用状況の報告  
2) 使用済み血液製剤バッグの保存について  
3) 輸血後感染症検査推奨書の取り扱い  
4) 血液センターからの情報提供

●平成27年度 血液製剤使用状況

	製 剤 名	合 計	月平均	
実施 単 位 数	照射赤血球濃厚液LR140ml	24	2.00	
	照射赤血球濃厚液LR280ml	1,372	114.33	
	自己血輸血	327	27.25	
		合計 (R)	1,723	143.58
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	300	25.00	
	照射濃厚血小板「日赤」 250ml	0	0	
	照射濃厚血小板「日赤」HLA 200ml	0	0	
	照射濃厚血小板「日赤」HLA 250ml	0	0	
	新鮮凍結血漿-LR 480ml	5	0.42	
	新鮮凍結血漿-LR 120ml	0	0	
	新鮮凍結血漿-LR 240ml	216	18.00	
		合計 (F)	221	18.00
	アルブミン5%250 ml	総数	91	7.85
		単位数	379	31.59
	アルブミン20%50 ml	総数	461	38.42
		単位数	1,537	128.05
		合計 (A)	1,916	159.65
		A/R比 (2.0未満)		1.13
	F/R比 (0.27未満)		0.13	
	自己FFP	136	11.33	
	自己フィブリン糊	42	3.50	
	交差試験本数 (C)	751	62.58	
	輸血実施本数 (T)	717	59.75	
	C/T比		1.05	

●廃棄単位数

	製 剤 名	合 計	月平均
廃 棄 単 位 数	照射赤血球濃厚液LR140ml	0	0.00
	照射赤血球濃厚液LR280ml	18	1.50
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	0	0.00
	新鮮凍結血漿-LR 240ml	8	0.67
	自己血輸血	8	0.67
	自己FFP	4	0.33
	自己フィブリン糊	0	0.00

<文責 小宅 英樹>



# 臨床検査適正化委員会

## 1. 目的

臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とした委員会である。

## 2. 活動内容

年数回開催するものとし検討事項は次の通りである

- ・精度管理に関すること
- ・検査項目に関すること
- ・検査の実施状況に関すること
- ・外部委託に関すること
- ・研究検査に関すること
- ・その他臨床検査全般の運用に関する事項

## 3. 活動要約

委員会開催日及び検討事項

平成27年12月7日（月）

- ①平成27年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
- ②臨床検査に係るJSCCLS共用基準範囲の採用について、医局に提示することに決定。
- ③セット項目アンケート調査報告  
セット項目編成を医局に報告することに決定。検査オーダー病棟欄の見直しの希望あり。
- ④・亜鉛Zn(血中・尿中)：試薬償却次第、外注化に決定。
  - ・H-FABP導入について
  - ・PIVKA-II：検診センターの了承を得た上で、平成28年度より院内測定に決定
  - ・病理結果報告時間に関し、AKHに結果報告までの所要時間の確認と途中経過報告要請をすることに決定。

平成28年3月17日（木）

- ①平成27年度日本医師会コントロールサーベイ結果報告
- ②平成28年度外部委託契約について  
検体検査→SRL, 病理検査→LSIメディエンスに決定
- ③・亜鉛Zn：4月より院内測定を中止し、外注とすることに決定。
  - ・PIVKA-II：4月より院内測定にあたり、検査コード変更となるため、新規依頼をお願いする。
  - ・検査項目の基準範囲変更について：平成28年度より、臨床検査に係るJSCCLS共用基準範囲を採用とする。患者さまへの提示の際のパンフレット配布を各診療科へ依頼する。

<文責 長瀬 智子>

# 化学療法委員会

## 1. 目的

本院の化学療法を実施する体制等の設備を図るとともに、抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発を行い、化学療法の安全な施行の推進を目的とする。

## 2. 活動内容

- ・化学療法の適切かつ安全な施行に関すること
- ・抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発に関すること
- ・関係各診療科及び関係診療施設等との連携調整に関すること
- ・化学療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
- ・化学療法審議会の管理・調整
- ・その他、化学療法に関する事柄

## 3. 活動要約

### ○委員会開催日及び決定事項

平成27年7月27日

- ・免疫抑制、化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン  
HBs抗原(-)であっても、HBc抗体、HBs抗体のスクリーニングを推奨している旨を、検査科から医局勉強会で周知する
- ・化学療法マニュアルの見直し  
(部署の特殊性、備品・資産リスト、ポート穿刺時の洗浄と抜針、前投薬の投与)

平成27年10月20日

- ・抗がん薬取扱い時のニトリルグローブ使用法、抗がん薬使用中の緊急対応  
皮下埋め込み型CVポート、胸ポートの取り扱い
- ・レジメの不採算症例の洗い出し 症例報告と対応策について

### ○今年度承認されたレジメ

胞状奇胎 VP16単独療法、VP16+ACTD併用療法、ACTD単独療法  
胆道癌 S1+GEM併用療法  
前立腺癌 DTX単独療法  
大腸癌 ロンサーフ内服療法  
外陰部癌 5FU軟膏5%協和  
胃癌 サイラムザ単独療法 PTX+サイラムザ併用療法  
非小細胞肺癌 アブラキサン単独療法

<文責 百合川深里>

# 退院支援委員会

## 1. 目的

各病棟の退院調整状況を共有するとともに、効果的で有効な退院調整や支援方法の検討を行うことを目的とする。（退院支援委員会規程第1条）

## 2. 活動内容

目的達成のため、月1回（第3火曜日）に委員会を開催し、①退院調整会議で退院困難となった患者について状況を共有する ②各病棟カンファレンスの状況報告 ③各担当者の専門的な視点からの意見を調整に反映する ④院外の施設との連携を図るため、施設職員との意見交換を行う ⑤退院支援に関する研修会を開催するなどの業務を行った。（規程第3条及び4条）

## 3. 活動要約

平成27年度において委員会を毎月1回、計12回開催した。また、毎週木曜日には機動的な対応を行うため、委員会の退院支援チーム「退院調整会議」を開催（年間47回）して効果的で有効な退院調整や支援方法の検討を行った。

データの的には、年間の在宅復帰率で一般病棟は97.5%、ケア病棟では97.4%、平均在院日数は一般病棟では11.5日、ケア病棟では14.7日、全体では11.8日という実績となった。

課題としては、行政との連携において生活保護受給者や生活困窮者、身寄り等のいない患者の退院支援に関して「地域包括ケア」という地域の輪としてのセーフティネットがうまく機能していない面があったことから定例的な行政との意見交換会の開催の必要性があげられ、今後の病院としての対応の検討を上申していくこととした。

また、退院に向けて、要支援者に関する治療方針等に関する課題が感じられる事案もあり、必要に応じて委員以外の関係者の委員会出席を求めることも検討していくこととした。

院外の福祉・介護施設の職員の方々を対象とした研修・交流会を11月27日に当院会議室において開催し、31施設、76名の方々にご参加いただきました。ご参加いただいた職種は、介護支援専門員31名（41%）、看護師20名（26%）、介護職員23名（30%）、生活相談員1名、施設長1名となりました。

内容としては「初歩的な褥瘡ケアについて」と「尿道留置カテーテル管理の基本」と題して、当院の認定看護師による研修会及び研修内容に関する質疑応答や意見交換を行った。研修会では参加者アンケートも実施し、開催時期や時間、取り上げてほしいテーマ等への意見を次回以降の研修会等へ活かしていくこととする。

<文責 高橋 功>

# 倫理委員会

## 1. 目的

市立横手病院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施についてヘルシンキ宣言、その他医の倫理に関する社会規範の趣旨に沿って審議する。

## 2. 活動内容

第1回委員会（平成27年5月27日）

倫理審査申請1504

課題名 多目的コホート研究における病理組織の収集と腫瘍の分子情報を用いたがんの原因究明に関する研究について

- ・ 上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。
- ・ その他の案件として、「市立横手病院倫理委員会要綱」の改正について審議され承認された。

<文責 浮嶋 優子>

# 図書委員会

## 1. 目的

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

## 2. 図書室概要

(面積) 48.05㎡ 座席数・・・6席

(設備・機器)

コピー&Fax機 (1台)・パソコン (2台)・プリンター (1台)・カラーインクジェットプリンター (1台)

(書架) 移動式書架

(閲覧時間) 24時間閲覧可能

(所蔵資料)

単行書(約1,070冊)・製本雑誌(約2,530冊)・和雑誌(72誌)・洋雑誌(21誌)・学会誌(3誌)

(配架)

単行書(NLMC分類順)・和雑誌(あいうえお順)・洋雑誌(アルファベット順)

(サービス・文献データベース)

医学中央雑誌Web版・メディカルオンラインジャーナル導入

○文献複写サービス(依頼先)

秋田大学附属図書館医学部分館

国立国会図書館・日本医師会図書館

上尾中央総合病院図書室

(個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ)

## 3. 活動内容

○委員会開催日：5/27・12/21・3/15の3回

○図書購入予算の確定と管理

年度始めに各科に予算配分をし、各科受入れ毎に収支簿を作成

○購入図書の受入れと配架作業

院内LANで月1回新着図書の情報提供

○製本作業(年1回)・蔵書点検作業(年1回)

○文献複写の取次ぎ(随時)

○統計

(文献複写依頼数)

日本医師会医学図書館(143件) 国立国会図書館(4件) 秋田大学附属図書館医学部分館(2件)

(データベース利用回数)

医中誌Web (ログイン回数- 503回)

メディカルオンラインジャーナル (ログイン回数- 2,558回)

## 患者図書サービス

### 1. 目的

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

### 2. 概要

(保管場所) 図書室

(所蔵資料) 所蔵資料2,078冊 (内 寄贈図書1,609冊 平成27年度寄贈図書121冊)

(配架) 大分類・中分類・小分類順

### 3. 活動内容

各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し、Faxでの貸出しサービスを行っている。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応じていきたい。

#### ○統計

<患者図書貸出し数> (平成27年4月～平成28年3月)

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	63冊	18人	5.25冊	1.50人
3 A病棟	257冊	53人	21.42冊	4.42人
3 B病棟	147冊	41人	12.25冊	3.42人
3 C病棟	70冊	26人	5.83冊	2.17人
4 C病棟	229冊	59人	19.08冊	4.92人
宿泊ドック	51冊	11人	4.25冊	0.92人
合計	817冊	208人		
月平均	68.08冊	17.33人		

<文責 谷口 明美>

# 治験委員会

## 1. 目的

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

## 2. 活動内容

開催は薬剤に関する臨床試験について依頼があった場合に不定期に開催している。

## 3. 活動要約

平成27年度に審議する案件はありませんでした。

<文責 渡邊 圭子>

# 臨床研修管理委員会

## 1. 目的

医師法第16条の2に規定する臨床研修に関する省令に基づき設置された委員会。  
研修プログラムの作成・調整、研修医の採用・中断・修了時における評価等、臨床研修実施に係る統括管理を行う。

## 2. 活動内容

臨床研修管理委員会の開催  
評価・プログラム委員会の開催  
研修医会議の開催

## 3. 活動要約

### ○臨床研修管理委員会

平成27年9月29日

案件 平成27年度マッチング順位付けについて  
平成27年度マッチング中間公表結果について

平成28年3月8日

案件 平成26年度採用研修医の修了認定について  
平成28・29年度研修プログラムについて  
平成28年度研修日程について  
臨床研修管理規程の改正について

### ○評価・プログラム委員会

平成27年6月4日

案件 研修プログラム及び評価について  
病院独自説明会の開催について  
研修医の午後外来の対応について

平成27年9月18日

案件 マッチングについて  
専門医制度の変更について  
2年次研修医の研修評価について  
組織図について

平成28年3月3日

案件 平成26年度臨床研修医 研修内容の評価  
平成28・29年度研修プログラムについて  
平成28年度研修日程について  
臨床研修管理委員会規程の改正について  
臨床研修指導者の責務について



臨床研修医の評価について  
当院プログラムの変更（当直翌日の勤務）について

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成27年 4月2日、5月8日、6月4日、7月2日、8月6日、9月3日、10月1日、  
11月5日、12月3日  
平成28年 1月7日、2月4日、3月3日

市立横手病院臨床研修プログラム

○研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（産婦人科、精神科、小児科）と選択科を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択科を研修する。選択科を12ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（外科系、整形外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

○臨床研修の目標の概要

1. 一般目標

医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。

2. 行動目標

卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

○臨床研修の到達目標の達成に向けた配慮

2年間の初期臨床研修で、当該プログラムに記載する『臨床研修の目標』の達成が図られるよう、研修実施責任者・プログラム責任者・指導医・研修医を対象とした研修医会議を毎月1回開催し、研修の進捗状況の確認や研修日程の調整、研修に関する意見交換等を行う。

○プログラム責任者

市立横手病院 外科科長 伊勢 憲人

○研修医の指導体制

マンツーマン方式による。

○協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

・研修実施責任者 佐々木道基

・指導医 佐々木道基

横手興生病院（精神科）

- ・研修実施責任者 杉田多喜男
  - ・指導医 杉田 俊生、杉山 智成、金山 浩信
- 秋田赤十字病院（選択科：呼吸器内科）
- ・研修実施責任者 小棚木 均
  - ・指導医 黒川 博一、小高 英達、守田 亮、吉川 晴夫

○臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 南園 智人
- ・指導医 南園 智人

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、澤邊 淳、粕谷 孝光、中西 真一

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

○研修開始時期：2015年4月1日

○研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	内科（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院） 選択科 ・市立横手病院 ・横手保健所 ・赤十字血液センター ・秋田赤十字病院
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月	救急部門（市立横手病院）	
11月	産婦人科（市立横手病院）	
12月	精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）	
1月	小児科（市立横手病院）	
2月		
3月		選択科（市立横手病院・横手保健所）

※救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3ヶ月の研修とする。

※臨床研修協力施設（横手保健所・赤十字血液センター・市立大森病院）における研修期間は2年間で合計3ヶ月以内とする。

<文責 黒澤 雄悦>

# 診療材料検討委員会

## 1. 目的

診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図る。

## 2. 活動内容

診療材料の新規採用の検討。

院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組み。

## 3. 活動要約

- フォーリーカテーテル（トレイキット）BC消毒液付の採用
- ディスポーザブル導尿用カテーテルの採用
- ペーパータオルの使用変更（保水・吸水スピードアップ・素材の柔らかい物へ）
- 安全機能付き静脈留置針「イントロカンセーフティ」の採用
- 入院ケモ患者に対する処置用ニトリルグローブの採用
- エクステンションチューブの使用変更

<文責 菅原 祐司>

# 病床運営委員会

## 1. 目的

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成14年10月病床運営委員会が発足。

## 2. 活動要約

平成27年度は開催なし。

<文責 石山 博幸>

# 医療情報管理委員会

## 1. 目的

電子カルテシステム稼働7年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用およびシステムのリプレイスについて協議する。

## 2. 活動内容

昨年度受診した病院機能評価における指摘事項へ個人情報保護推進委員会と共同で対応した

## 3. 活動要約

昨年度受診した病院機能評価において、院内の情報システムからの情報持ち出しに関する運用の不備が指摘されC評価となった。

そのため、B評価以上の適切な運用となるようにUSBメモリ等による情報システムからの情報持ち出しに関わる規則および運用の変更について協議を行い、これらを改定した。

この改定により病院機能評価において最低限の目標であるB評価となった。

<文責 千葉 崇仁>

# 電子カルテ委員会

## 1. 目的

電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること、オーダリングシステムの内容の検討に関すること、その他カルテについての重要事項に関することについて審議する。

## 3. 活動要約

平成27年9月14日

- ・疼痛コントロール導入時チェックリストについて
- ・退院後初の外来受診患者の看護記録について
- ・ワードパレットについて
- ・科別コメントの識別番号追加について
- ・退職医師の異常時、次回来院時、定期オーダー削除権限について
- ・医師・患者限定薬のオーダー時に警告などの機能について
- ・診療予約状況の医師名表示について
- ・患者情報にある告知状況を記号から意味のある文へ
- ・電子カルテシステムの画面のハードコピーを利用した病院外での発表について
- ・診療予約のコメント表示について
- ・森の家などの外部での電子カルテ利用について
- ・スキャナーした文書データへのタイムスタンプ付与について
- ・空床状況紹介表示について

<文責 木村 宏樹>

# DPC委員会

## 1. 目的

DPCに関する運用、適切なコーディングについて検討する他、自院のデータを分析し、経営改善および医療の質の向上を図る事を目的とする。

## 2. 活動内容

適切なコーディング、在院日数分析を中心に検討を行った。特に在院日数については、看護科、医事課と情報を共有し、適切なベットコントロールについての対策を行った。

## 3. 活動要約

平成27年12月15日

- ・在院日数分析について
- ・ICDコードについて

平成28年3月30日

- ・医療機関別係数について
- ・部位・詳細不明コードについて

<文責 木村 宏樹>

# クリニカルパス委員会

## 1. 目的

院内におけるクリニカルパス作成及び普及を推進・支援し、診療の質及び患者サービスの向上に寄与することを目的とする。

## 2. 活動内容

各部署におけるクリニカルパス作成に対する支援とパスの精度を高めるため、バリエーションの収集と分析・評価をし、リバイジングを行う。

## 3. 活動要約

平成27年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数(件)	退院患者数(人)	パス適用率(%)
内科	0	69	0%
外科	487	843	57.8%
整形外科	47	420	11.2%
産婦人科	450	594	75.8%
小児科	7	399	1.8%
泌尿器科	64	181	35.4%
眼科	74	74	100.0%
消化器内科	688	2,029	33.9%
循環器内科	32	266	12.0%
麻酔科(ペインクリニック)	0	22	0.0%
合計	1,849	4,897	37.8%

平成27年度新規作成パス

- 腰椎椎間板ヘルニア（7日間）（整形外科）
- 頰椎手術（整形外科）
- 固定術手術（整形外科）

<文責 照井 圭子>



# 業務改善委員会

## 1. 目的

病院業務の改善を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

院内に設置された他の委員会の所掌事項に属さない業務の改善、複数の他委員会に係るため、改善できていない事項の調整を行う。

## 3. 活動要約

4月21日 下記項目にて検討

- 紙オムツセット導入について
- 在宅膀胱留置カテーテル使用患者の材料について
- 原価計算検討WG（H25年継続案件）進行状況

<文責 照井 圭子>

# 地域交流推進委員会

## 1. 目的

地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、市立横手病院に対する理解の向上を図ることを目的とし、地域の公民館、いきいきサロン等の主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行う。

## 2. 活動要約

### 出前講座実施状況

月 日	場 所	講 座 名	講 師	参加者
4/6 (月)	南町1区町内会館	誤嚥ってなあに	言語聴覚士 古関 佳人	14
4/9 (木)	新平川会館	生活習慣病と食生活	管理栄養士 原田 優子	30
4/13 (月)	新町町内会館	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	30
4/27 (月)	野協会館	トイレのお悩みありませんか？ 尿失禁の予防と改善について	認定看護師 佐藤美夏子	14
5/8 (金)	横手セントラル ホテル	胃がんにならないために	副院長 藤盛 修成	60
5/11 (月)	悪戸構造改善 センター	喀痰ってなあに その正体と働きについて	臨床検査技師 佐々木絹子	20
5/12 (火)	境町ふるさと館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 藤原 理吉	29
5/14 (木)	黒川落合会館	身体に合った食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	9
5/20 (水)	平鹿町農家高齢者 創作館	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	30
6/16 (火)	戸波会館	夏の感染予防	認定看護師 小川 伸	20
6/17 (水)	関ノ口会館	生活習慣病予防と運動	理学療法士 小田島尚人	15
6/25 (木)	大沢公民館	高血圧、心臓の病気など	診療科長 和泉千香子	50
7/2 (木)	御所野会館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 郡山 邦夫	10

月 日	場 所	講 座 名	講 師	参加者
7/9 (木)	木下会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	25
7/15 (木)	馬場崎町内会館	薬と上手な付き合い方	薬剤師 嶋田 裕子	16
7/27 (月)	根田川集落センター	糖尿病について	臨床検査技師 小丹まゆみ	17
8/6 (木)	松林会館	身体に合った食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	23
8/7 (金)	稗巻牛柳生活総合 センター	夏の感染症と予防について	認定看護師 小川 伸	14
8/24 (月)	昼川児童館	誤嚥ってなあに	言語聴覚士 古関 佳人	15
9/4 (金)	あさくら館	生活習慣病と運動	理学療法士 小田島尚人	15
9/10 (木)	中猪岡会館	身体に合った量の食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	13
9/24 (木)	十二牲会館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 法花堂 学	9
10/14 (水)	駅南町内会館	薬の正しい使い方	薬剤師 小宅 英樹	15
10/19 (月)	四ツ谷会館	健康な皮膚を保つためのスキンケア (希望)	認定看護師 佐藤美夏子	15
10/22 (木)	浅舞公民館	学童期の子どもの病気やけがへの対応について	小児科科長 小松 明	140
11/9 (月)	持田会館	インフルエンザ予防について	認定看護師 小川 伸	18
11/10 (火)	山内公民館	スキンケア・アトピーについて	認定看護師 佐藤美夏子	9
11/12 (木)	根小屋会館	心臓と高血圧について	臨床検査技師 平塚多喜雄	9
11/13 (金)	Y2プラザ	介助方法について	理学療法士 小田島尚人	10
11/18 (水)	安田原下町 町内会館	脳卒中発症後のリハビリ	理学療法士 高橋 貞広	18
11/18 (水)	横手中央公民館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	27
11/20 (金)	真人山荘	自分にあった食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	23

月 日	場 所	講 座 名	講 師	参加者
11/24 (火)	杉沢町内会館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 藤原 理吉	40
12/1 (火)	三本柳会館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	12
12/9 (水)	寺村会館	痰ってなーに その正体と働きについて	臨床検査技師 佐々木絹子	20
12/10 (木)	里見地区公民館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	21
12/17 (木)	下醍醐会館	インフルエンザ予防について	認定看護師 小川 伸	21
1/21 (木)	板井田交流館	健康な皮膚を保つためのスキンケア (希望)	認定看護師 佐藤美夏子	20
1/26 (火)	中里集落センター	脳卒中発症後のリハビリ	リハビリ 高橋 貞広	7
2/3 (水)	安田コミュニティ 会館	インフルエンザ予防について	認定看護師 小川 伸	23
2/18 (木)	寺内集落センター	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	19
2/23 (火)	下根田構造改善 センター	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線科技師 郡山 邦夫	15
2/25 (木)	大沢公民館	胃がんにならないために (希望)	医局 三浦 孝也	48
3/4 (金)	大曲社会保険委員会 横手平鹿支部研修会	インフルエンザ予防について	認定看護師 小川 伸	45
3/8 (火)	砂子田町内会館	正しい薬の使い方について (希望)	薬剤師 石田 良樹	25
3/10 (木)	下和野構造改善 センター	尿ができるまでと尿の一般的な検査 について	臨床検査科技師 長瀬 智子	8
3/17 (木)	境町公民館	身体にあった量の食事を摂っていま すか	管理栄養士 川越 真美	8
3/24 (木)	上真山町内会館	生活習慣病と運動	理学療法士 小田島尚人	5

<文責 浮嶋 優子>

# 病院機能評価準備委員会

## 1. 目的

財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の受審準備を進めるために設置された委員会である。（委員会設置要綱第1条）

## 2. 活動内容

委員会が所管する事項（委員会設置要綱第5条）

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| ① 受審スケジュール作成     | ② 評価項目別責任者の決定       |
| ③ ケアプロセス調査責任者の決定 | ④ 自己評価の点検           |
| ⑤ 各種書類の整備状況の確認   | ⑥ 院内巡回点検の実施         |
| ⑦ 全職員向け説明会の開催    | ⑧ その他病院機能評価受審に必要な事項 |

## 3. 活動要約

平成27年3月19日～20日に「病院機能評価3rdG:Ver1.0」を受審したところであり、主な平成27年度における委員会活動は下記のとおりである。

- ・受審報告依頼：各部署への指摘事項等の報告依頼
- ・受審アンケート回答依頼：各部署の責任者等へのアンケートを実施
- ・受審報告取りまとめ（補足、確認含む 4/30まで）
- ・受審アンケート回答取りまとめ（4/30まで）
- ・第25回委員会：27.5.7開催（今回の受審への委員会は通し番号とした）  
案件：指摘事項報告、アンケート結果の確認及び今後の対応について
- ・中間的な結果報告：27.5.14  
C項目（1.1.5）が1項目有り（個人情報保護に関して）
- ・第26回委員会：27.5.18開催  
案件：C項目の対応策の検討、補充的審査の受審の決定、B項目の改善検討等
- ・補充的審査の申込み：27.5.19
- ・評価がB項目（一定の水準に達している）を次回の評価（中間評価）までにA項目（適切に行われている）に改善することを目標にし、検討・改善することとし、7/30まで  
報告：27.5.22依頼
- ・合同委員会（個人情報保護推進委員会及び医療情報管理委員会）：27.6.2開催  
案件：評価C項目への対応策決定
- ・第27回委員会：27.6.5開催  
案件：合同委員会の対策案の承認、アンケート結果の活用について
- ・補充的審査資料の送付：27.6.10
- ・補充的審査への追加資料の送付依頼：27.6.29  
要件：計画は可も実施状況を確認出来る書類等の送付の要請
- ・追加資料の送付：27.7.10  
実施状況報告書、院内周知文書、個人情報利用許可申請書等
- ・補充的審査方法の決定通知：27.7.23

書面審査によるとの決定通知

- ・ 審査終了及び内示通知：27.8.10

「認定」との内示通知有り

- ・ 審査結果報告書の送付：27.9.1

認定（更新）及び審査結果報告書の送付

- ・ 第28回委員会：27.9.4開催

案件：審査結果の確認、院内周知等の決定。B評価項目の改善及びS評価項目の増加のための対応の継続の確認。中間評価（2年後）のために本委員会の活動の継続の確認等

- ・ 認定病院アンケート及び改善事例紹介シートの提出：27.9.16

以上のように、補充的審査もあったが所期の目的であった「病院機能評価3rdG：Ver1.0」の更新が認定された。約2年近い期間を費やしての更新だったが、この取組みが、今後、より「安心できる良質な医療の提供」につながるようにしていく必要がある。

また、今回の更新より5年間の認定期間の中間時に「中間審査」が設けられており、既に今回受審した「Ver1.0」は「Ver1.1」にバージョンアップしている。引き続き、「患者さん中心に、安心・安全な医療の提供に努める」という基本を堅持していくために活動を継続していく。

<文責 高橋 功>

# 薬事委員会

## 1. 目的

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

年6回委員会を開催し、下記のような事項について審議する。

- ・院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品・院外採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品適正使用、他）
- ・医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減品目の検討、後発品の採用）
- ・委員からの提案された事項についての審議
- ・副作用事例の収集・報告・伝達・対策

## 3. 活動要約

	開催日	検討事項
第1回	H27/5/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・使用実績が少ない製品の見直し</li> <li>・トラマールOD錠の採用について(トラムセット錠との比較検討)</li> <li>・ジェネリック薬品採用検討(3製品採用)</li> </ul>
第2回	H27/7/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・診療科限定医薬品・医師限定医薬品の運用について</li> <li>・当院後発品使用比率、入院使用分数量ベースの報告</li> <li>・ジェネリック薬品採用検討(8製品、16規格採用)</li> </ul>
第3回	H27/9/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・院外処方と院内処方の診療報酬上の違いについて(処方料)</li> <li>・1年以上使用実績のない製品について(1品目中止)</li> <li>・ジェネリック薬品採用検討(5製品採用)</li> </ul>
第4回	H27/11/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・院内製剤のヘパリン生食から、キット製品へ移行の検討(保留)</li> <li>・ジェネリック薬品採用検討(4製品、5規格採用)</li> </ul>
第5回	H28/1/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・ラコールNF配合経腸用半固形剤の使用状況確認</li> <li>・エルネオパ1号1000mLの採用区分の見直し</li> <li>・デュロテップMTパッチの一部規格中止について</li> <li>・ドセタキセル製剤のエタノール非含有製品への切り替えについて</li> <li>・ジェネリック薬品採用検討(3製品採用)</li> </ul>

第6回	H28/3/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について</li> <li>・ アバスチン注、ハーセプチン注の採用区分の見直し</li> <li>・ ウロナーゼ注、メテルギン錠の販売中止に伴う代替品の検討</li> <li>・ 1年以上使用実績のない製品について(4品目中止)</li> <li>・ 禁煙外来で使用していた薬剤について(5品目中止)</li> <li>・ リバロ錠(循環器内科限定薬)について</li> <li>・ ジェネリック薬品採用検討(3製品、5規格採用)</li> </ul>
-----	----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4. 平成27年度採用品目の動向

新規採用医薬品	20品目
院外採用医薬品	11品目
限定採用医薬品	171品目 (延べ数)
使用中止医薬品	52品目
ジェネリック医薬品の採用 (全39品目)	内服薬 28品目 注射薬 7品目 外用薬 1品目

後発医薬品については、昨年に引き続き購入金額の大きさではなく入院で使用数量の多い品目を抽出し経済的メリットの高さを優先して導入する方向で検討した。後発品は一度に多品目採用でなく、数品目ずつ導入する形としている。一度に多品目を導入すると新名称に慣れていないことが原因で取り間違いなど医療安全上のミスが起こりやすくなる事も心配される。もし銘柄変更後に患者さんに副作用がおきた場合でも、原因薬剤の特定もしやすくなると思われる。安全面にも配慮しながら、今後も年間を通して数品目ずつコンスタントに導入する形としていきたいと思う。

今年度は高額な新薬が次々と発売され治療の選択肢も増えてきた。それに伴い治療終了後の残薬管理、期限切れによる破損への対策などよりきめ細かい在庫管理が求められる。院外処方推進するよう院内全体へ働きかけを行っていくことで、処方箋料収入増加や院内在庫の削減などに少しでもつなげることができたのではないかと思う。

＜文責 佐々木洋子＞



# 衛生委員会

## 1. 目的

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために必要な事項を調査審議する。

## 2. 活動内容

回	開催日	内 容
1	4/30	・放射線被ばく線量報告 ・二次検診のフォローアップ状況報告 ・パワハラ研修会開催概要
2	5/28	・放射線被ばく線量報告 ・職員健診時期、時間の見直しについて ・がん検診対象者の見直しについて ・病院機能評価中間評価（B評価）委員会検討項目について ・ストレスチェックの実施について ・パワハラ研修会のアンケート結果
3	6/25	・放射線被ばく線量報告 ・病院機能評価に関する中間的な結果内容における指摘事項への回答について ・メンタルヘルスチェックの実施方法について
4	7/30	・放射線被ばく線量報告 ・職員禁煙対策について ・メンタルヘルスチェックの実施方法について
5	8/27	・職員健診について
6	9/24	・被ばく線量について ・職員健診状況報告
7	10/29	・放射線被ばく線量報告 ・メンタルヘルスチェックについて ・ストレスチェック制度説明会（10/13）の報告 ・作業環境測定結果について
8	11/26	・放射線被ばく線量報告 ・職員検診状況報告 ・ストレスチェック制度説明会（11/20）参加報告
9	12/24	・放射線被ばく線量報告 ・職員健診状況報告 ・禁煙対策について ・電離放射線の健康診断について
10	1/29	・放射線被ばく線量報告 ・感染対策について ・職員二次健診受診状況について ・職員喫煙習慣調査結果 ・ストレスチェックについて
11	2/25	・放射線被ばく線量報告 ・職員二次健診受診状況について ・放射線に被ばくするおそれのある業務につく職員への問診・健診の実施について ・メンタルヘルスチェックの実施状況について ・労働安全衛生法規則第45条の特定業務従事者の健康診断の実施者の追加について ・パワハラの相談窓口について ・職員健診の早朝実施の変更について
12	3/24	・放射線被ばく線量報告 ・職員二次健診受診状況について ・特定業務従事者健診対象者の追加について ・職員健診の早朝実施の変更について

### 3. 活動要約

毎月最終週の木曜日に開催し、職員の健康保持・増進や安全衛生管理について確認・討議を行っている。

職員の二次健診の受診率が、前年の65.21%から今年度は74.66%と10%近く高くなった。未受診者への受診の周知が効果的だった。今後も受診率が向上するよう働きかけていきたい。

職員健診の際に、喫煙習慣調査を実施した。喫煙者は、男性職員は20代が女性職員は30代の喫煙者が多かった。これを踏まえて禁煙対策を推進したい。

平成27年12月からはじまるストレスチェック制度について見識を深めるために研修会へ参加した。研修を活かして円滑に実施できるようすすめていきたい。

<文責 糸井 豪>

# 患者サービス向上委員会

## 1. 目的

選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

## 2. 活動内容

### ○委員会開催日

第1回 平成27年5月13日(水)

- ①年間計画について
- ②平成27年度接遇研修会について

第2回 平成27年7月23日(木)

- ①入院患者アンケートについて(結果)
- ②平成27年度接遇研修会について

第3回 平成27年11月10日(火)

- ①外来患者アンケートについて
- ②平成27年度接遇研修会について

第4回 平成28年2月16日(火)

- ①外来患者アンケートについて(結果)
- ②入院患者アンケートについて

### ○患者満足度アンケート調査

- ・入院患者アンケート調査実施

実施期間 平成27年6月1日～平成27年6月30日まで(1か月間)

- ・外来患者アンケート調査実施

実施期間 平成27年12月14日～平成27年12月18日まで(5日間)

### ○接遇研修(全職員対象)

日時: 1回目 11月30日 16:10～16:40

2回目 11月30日 17:30～18:00

3回目 12月3日 16:30～16:40

4回目 12月3日 17:30～18:00

場所: 4階会議室1

講師: 浮嶋 優子(患者サービス向上委員会)

DVD他

## 3. 活動要約

今年度は、入院患者アンケートの回答欄の一部を変更したことによって無回答が大幅に減少した。当院を評価して頂く部分では、前年と比べて-0.1点だったが回答方法が変わった為それほど大きな減少と捉えなくても良いと考えられる。外来患者アンケートでは、前年と比べて「満足」と回答する人が減少し、「やや満足」と回答する人が多くなっていた。しかし、自由記載欄において接遇に関するお褒めの言葉を多く頂いた為、今後も継続して接遇の向上を図っていききたい。入院・外来アンケートにおいて多くの要望が寄せられたが、少しずつ改善していけるように努める。

接遇研修会では、多くの職員の方に参加してもらえたが医師の参加率が毎回低いのが気になる為、それを改善できるよう来年度の課題にしていききたい。

<文責 奥州 理湖>

# 病院教育委員会

## 1. 目的

院内の職員研修について、病院全体で体系的、効果的に実施することを検討するとともに、学術交流を奨励し、推進するために設置された委員会である。

## 2. 活動内容

平成27年4月23日 以下について検討した

- ・平成26年度職員院内研修実績について
- ・平成26年度職員院外研修実績について
- ・平成27年度職員院内研修計画について
- ・施設基準、加算に関連した研修会等の確認について

## 3. 活動要約

院内研修実績

4月1日	保険診療に関する研修会	医事課
5月21日	パワハラ研修会	衛生委員会
27日	AED・BLS研修会	救急センター運営委員会
7月17日	院内感染対策研修会	感染対策室（大森病院と合同）
8月20日	医療安全対策研修会	医療安全管理室
10月22日	救急救命講習会	救急センター運営委員会
11月30日（12/2）	接遇・個人情報保護研修会	患者サービス向上委員会
12月11日	院内感染対策研修会	感染対策室
1月25日	医療安全シンポジウム	医療安全管理室
2月2日	救急症例検討会	救急センター運営委員会
15日	保険診療に関する研修会	医事課
3月30日	保険診療に関する研修会	医事課

<文責 亀谷 良文>

# 広報委員会

## 1. 目的

当院の医療情報や活動状況について、病院広報誌やホームページ等のメディアを活用し、地域住民及び医療機関等に広く情報提供することを目的とする。

## 2. 活動内容

病院広報誌発行（年4回発行予定）  
病院ホームページの情報更新

## 3. 活動要約

### ○委員会の開催状況及び検討事項

平成27年5月1日（金）

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| ① 広報誌41号発行日について | ② 平成27年度広報の年間発行予定について |
| ③ 広報誌41号の内容について | ④ ホームページについて          |

平成27年8月7日（金）

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ① 広報誌42号発行日について | ② 広報誌42号の内容について |
| ③ ホームページについて    |                 |

平成27年12月2日（水）

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ① 広報誌43号発行日について | ② 広報誌43号の内容について |
| ③ 広報誌44号発行日について | ④ 広報誌44号の内容について |
| ⑤ ホームページについて    |                 |

### ○広報誌の発行状況

平成27年7月 第41号発行	平成27年9月 第42号発行
平成28年1月 第43号発行	平成28年3月 第44号発行

## 4. その他

### (広報誌)

平成22年度	横手市内の市民向け回覧板による回覧を開始
平成23年度	横手市内全戸配布開始（フルカラー印刷）
平成26年度	秋田協同印刷株式会社（秋田市）が管理・運営する電子書籍ポータルサイト『akita ebooks』への広報誌掲載を開始

### (ホームページ)

平成21年度	横手・大森の両病院のホームページをリニューアル
平成23年度	トップページフラッシュ動画化（四季により変化）
平成25年度	臨床研修関連のメールフォーム作成・ホームページ改修

<文責 黒澤 雄悦>

# 個人情報保護推進委員会

## 1. 目的

情報公開と個人情報保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、院内におけるその能率的かつ適正な運営を図り、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

## 2. 活動内容

昨年度受診した病院機能評価における指摘事項へ医療情報管理委員会と共同で対応した。

## 3. 活動要約

昨年度受診した病院機能評価において、院内の情報システムからの情報持ち出しに関する運用の不備が指摘されC評価となった。

そのため、B評価以上の適切な運用となるように医療情報管理委員会へ情報システムからの情報持ち出しに関わる規則および運用の見直しを指示した。

この指示に基づいて医療情報管理委員会において改定された規則および運用について確認を行いこれを承認した。

この改定により病院機能評価において最低限の目標であるB評価となった。

＜文責 千葉 崇仁＞

# 診療録開示審査会

## 1. 目的

診療情報を医療提供者と患者が共有することによって、相互に信頼関係を保ちながら治療効果の向上を図り、より質の高い医療の実現を目指すことを目的とする。（市立横手病院における診療情報提供実施要領 第1条）

## 2. 活動内容

開示申出があった場合、病院長の諮問に応じ、開示・部分開示・不開示等を審議する。（同第8～9条）

## 3. 活動要約

平成27年度における診療録開示の申出は33件有り、市立横手病院における診療情報提供実施要領及び診療録開示事務処理要領に基づき、文書審議のうえ、全件、申出内容を開示している。

なお、開示申出理由は ①交通事故に係る後遺障害認定・保険請求15件、②B型肝炎訴訟資料6件、③労働災害に関する後遺障害認定5件、④訴訟資料（B型肝炎除く）2件、⑤他院受診資料2件、⑥生命保険請求・加入2件、その他1件となっている。

<文責 高橋 功>

# 年報編集委員会

## 1. 目的

市立横手病院の業務の状況を年報として編集することを目的とする。

## 2. 活動内容

年報作成にあたっての基本方針の決定  
年報の構成について検討を行う。  
その他年報の編集に必要とされること。

## 3. 活動要約

### ○委員会の開催状況

平成27年7月6日（月）

- ① 平成26年度年報作業スケジュールについて
- ② 平成26年度年報の内容について

### ○作業記録

原稿締切：平成27年8月7日

校正完了：平成28年3月下旬

納品：平成28年3月31日

郵送：平成28年4月7日

<文責 黒澤 雄悦>



# 医療ガス安全管理委員会

## 1. 目的

市立横手病院における医療ガス（診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

## 2. 活動内容

医療ガス設備の保守点検業務の実施。

医療ガス設備に係わる新增設、部分改造、修理等。

院内の各部門へ医療ガスに関する知識の普及と啓発。

## 3. 活動要約

委員会開催 平成28年3月17日

(1) 平成27年度の医療ガス供給設備保守点検の結果報告。

軽微な不良箇所は点検の中で修繕済み。問題となる大きな不良箇所なしを報告。

(2) 平成27年度のインシデント、アクシデント報告（4件発生）

医療安全管理室でも対策を検討しフィードバックすることとする。

(3) 平成27年度の医療ガス供給設備修繕工事の施工報告。

圧縮空気設備と医療ガス監視設備を更新。

(4) 平成28年度の活動計画（案）

保安講習会の開催を計画する。

業者委託による保守点検の実施時期を例年通り2月とする。

酸素ガス取扱い上の周知文書を配布し各部署への周知を図る

<文責 伊藤 建一>

# 医療廃棄物管理委員会

## 1. 目的

市立横手病院より排出される感染性医療廃棄物を廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき適正に処理することによって院内感染を未然に防止し、あわせて他における環境保全への考慮を目的とする。

## 2. 活動内容

医療廃棄物処理状況の把握

医療廃棄物処理計画の作成

医療廃棄物処理マニュアルの作成

医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

## 3. 活動要約

委員会開催日 平成28年1月26日

- ・医療廃棄物の適正処理がされているか、各部署の巡回点検を実施。  
分別の状況、廃棄方法などを点検。
- ・医療廃棄物の排出量、処理費用の把握。  
ディスポ製品の採用などにより年々増加傾向にある。排出量削減の方策を協議。
- ・排出量削減、適正処理の取り組みを協議。  
医療材料の分別方法を細分化。  
ガウン、エプロンなど防護製品の廃棄時のコンパクト化を実践。  
軟膏チューブ類の廃棄方法を見直し。
- ・手指消毒剤の変更に伴う廃棄コストの削減を提案。

<文責 伊藤 建一>

# 防災対策委員会

## 1. 目的

火災・震災・その他の災害の予防及び人命の安全並びに被害の極限防止を図ることを目的とする。

## 2. 活動内容

消防計画の樹立及び変更に関すること  
消防施設等の改善強化に関すること  
自衛消防の組織及び運用に関すること  
隣接建物との応援協力に関すること  
火災予防及び入院患者の人命安全に関すること  
放射性物資等に対する事故防止対策に関すること  
地震対策に関すること  
その他防火管理上必要な事項

## 3. 活動要約

第1回委員会 平成27年6月11日

協議事項

- ・春季防災訓練の計画（案）について  
火災の想定で避難訓練を実施することを協議
- ・病棟への非常用ストレッチャーの配備について  
従来の担架ではなくエアーストレッチャーの配備を提案
- ・トラッキング火災の予防について  
6月と12月の年2回の頻度でコンセントに堆積した埃を清掃することを確認

第2回委員会 平成27年10月7日

協議事項

- ・春季防災訓練の計画（案）について  
全国で大規模な水害が発生していることを受けて、水害時の対応訓練を実施することを協議。初めての訓練であり検証のうえマニュアルを再整備する。
- ・衛星電話の配備について  
災害時の通信手段確保のため衛星電話を購入し配備することを提案

<文責 伊藤 建一>

# 省エネ推進委員会

## 1. 目的

院内の快適な療養環境を維持しながらエネルギーの使用を効率的に行うことによって省エネルギーを推進し、経費節減と経営改善に資することを目的にする。

## 2. 活動内容

- ・エネルギー使用状況の把握と改善策の検討に関すること
- ・省エネルギー対策の決定と実施に関すること
- ・省エネルギーのための設備の改善に関すること
- ・省エネルギーのための啓蒙活動に関すること
- ・その他省エネルギーに関すること

## 3. 活動要約

第1回委員会 平成27年7月9日

- ・平成26年度に実施した節電対策の実施報告並びにエネルギー使用量の報告。  
前年比-4.4%のエネルギー使用量となった。  
照明のLED化、省エネ家電（冷蔵庫、エアコン）への切り替えを行ったことも減少理由の一つと考えられる。
- ・平成27年度の計画について  
照明のLED化を引き続き進める。
- ・節電対策の実施報告  
各箇所の照明スイッチ、蛇口に「節電」「節水」の掲示を行った。

第2回委員会 平成27年12月14日

- ・平成27年度のエネルギー使用量の中間報告  
4月～11月の実績は全てのエネルギーで昨年度と比較し減少で推移している。  
今年度、冷暖房の運用を見直した効果が出ていると思われる。
- ・冬季の節電対策について協議  
基本的に夏場と同様の省エネ対策を実施することを確認。

<文責 伊藤 建一>

# 看護科の委員会

## 教育委員会

### 1. 目的

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

### 2. 活動内容

毎月教育委員会を開催し、基礎、中堅、管理教育の継続・新人教育・看護教育の枠組み・各種研修会の開催などについて協議する。

### 3. 活動要約

- (1) 新人研修
  - ・病院新規採用職員研修
  - ・看護科新規採用職員研修（看護科理念、標準予防策、看護技術等）
  - ・新人技術チェック
  - ・新人フォローアップ研修（3か月、6か月、11か月）
- (2) 2年目研修
  - ・ケーススタディ発表
- (3) 3年目研修
  - ・手術室見学（手術室看護師は病棟実習）
  - ・挿管、抜管介助実習
- (4) プリセプター研修
  - ・院外研修
  - ・プリセプターシップ研修
- (5) 中堅教育
  - ・小集団活動報告
  - ・副主任研修 「私の看護観」発表
  - ・新人技術チェック
  - ・伝達講習講師
- (6) 定例会において各種研修会の企画・実施を行い議題に沿って協議した。

<文責 木村真貴子>

# 看護研究委員会

## 1. 平成27年度委員会目標

研究計画書の作成の充実

委員構成：看護師11名

## 2. 行 事

(委員会は毎月1回実施)

- \* 5月 看護研究計画書作成研修会
- \* 秋田県看護学会 3 A病棟
- \* 全国自治体病院学会 2 A病棟
- \* 秋田県医療学術交流大会 訪問看護センター
- \* 秋田県看護協会地区支部研究発表会参加 3 B病棟

3月3日 平成27年度 院内看護研究発表会 参加人数：80名

### 【演題】

一群 座長 赤川 恵理子 主任

演題1、急性期病棟のせん妄患者に対する看護師の意識調査

3 A病棟 伊藤 開

演題2、患者が自己調整鎮痛法を使用することによる術後疼痛の変化

3 B病棟 佐々木沙也佳

演題3、局所麻酔手術患者の意識調査 ～術前訪問施行に向けて～

3 C病棟 高橋 愛美

演題4、人工股関節置換術に対して統一した指導を行うための取り組み

～統一した指導から見えてきた事～

4 C病棟 福田 渡

二群 座長 小松 ルリ子 主任

演題1、当院における助産師の妊産褥婦への関わりの検討

2 A病棟 芦澤 沙綾

演題2、内科外来における「継続看護」についての1考察

～退院後初来院の患者への関わりを通じて～

内科外来 佐藤 鋼子

演題3、退院に向けた服薬カンファレンスの取り組み

3 C病棟 高橋 陽子

【総評】 秋田県看護協会 常務理事 福田 幸子 先生

地域に目を向けなければいけないと言われている時代に即した内容だと感じた。少し内容をつめて整理すればいろんなところに出せるテーマだと思った。ぜひ今日発表した人たちを中心に内容を訂正しながらいろんな所に出してもらえればと思う。

テーマは、見たいと思わせなければならない。平凡になっているので工夫が必要と感じた。表題は、視的型と説明型と大きく分けられる。結論が理解しやすい説明をするようなテーマ

を考えてもらいたい。

例えば「全身麻酔患者に対する下肢加温装置による体温管理」は、「全身麻酔が体温に及ぼす影響に対する下肢加温装置の効果」といった説明型にする。すると結論は加温効果があったと出せるので非常によく見える。そのようにしたほうが文章が書きやすい。600字位を目安に書いてほしい。一つは「テーマ」で引きつけ、「はじめに」を読んでこれは面白いと感じさせなければならない。論文を出す時は、「テーマ」を読み「はじめに」を読んでそして「結論」を見て、一貫性があるか見られがちだ。「はじめに」をきちんと書くことを注意しなければならない。

研究テーマが少し優しい。調査する等になっているが、研究で何を明らかにするために調査をしたかが大切だ。調査をするは手段であり、研究の目的は調査から何を得るかだ。必ず何を明らかにするか意図的に出し、目的をきちんと書く。

キーワードが少しずれていると感じた。キーワードをしっかりとわかるように出す。キーワードは、各ページに入るように意図的に書くことにより一貫性があるようになる。

方法は、しっかり書いてもらうことは大切だ。

期間は、データを取っている期間のことをいう。夏にとったデータなのか、冬にとったデータなのかにより非常に違う。再現をするためにはデータを取った期間をきちんと書くことを注意しなければならない。共通していたのが、倫理的配慮が欠けている。一つの病棟だけが書かれてあった。倫理委員会の承認を得ているということをきちんと出さなければならない。個人のプライバシーに配慮した、個人に了承を得たということは皆よく書いているが、倫理委員会の承認を得たことが抜けていた。

### 3. 平成27年度の反省

研究委員として、研究班に寄り添えるようがんばりたい。基本的な研究の進め方や集録のまとめ方を助言できるようになればと思う。研究をすすめる環境を整える必要あり。集録を講評の先生に提出する期日を早めにしたほうがよかった。講評の先生のUSBを前もって紙ベースにしておく必要があった。

<文責 高橋 礼子>

# 看護必要度・記録委員会

## 1. 委員会目的

「看護必要度」に応じた看護サービスの提供と適切な評価を目指す

委員構成

看護師13名

## 2. 平成27年度 看護支援委員会目標

- (1) 「看護必要度」院内研修を行い、評価者のスキルアップに努める。
- (2) 「看護必要度」に関する看護カルテ入力 of 充実  
10月から当該患者の評価の根拠を示す看護記録になるようにする。  
入力時間の設定等
- (3) 毎月の記録監査に加え看護必要度記録監査を行い、評価していく。

## 3. 平成27年度 反省

病棟看護師全員へ看護必要度院内研修を行い周知を図った。

毎月の監査後、各病棟へフィードバックしてきたがまだ十分ではなく、来年度はフィードバックの方法を検討し、スタッフひとりひとりのスキルアップをめざしていった。

看護必要度B項目の水準を上げるため、記録を充実させて行く必要があり、次年度の課題とする。

<文責 高橋 共子>



# 看護計画委員会

## 1. 委員会目的

看護計画に基づいた看護ケアが実践され、質の高い看護をめざす

委員構成：看護師12名

## 2. 平成27年度 委員会目標

- ・受持ち看護師が看護計画に責任を持ち、計画に基づいた看護を提供できる
- ・患者用看護計画のパソコンソフトの情報を収集し、将来的な活用に備える

## 3. 目標の反省

- (1) 看護計画立案はできているが、日々のケアの中で計画に従った看護展開するまでには至っていない。将来的には看護記録のActive Problem Listを活用し、優先的に実施すべき看護計画がリアルに見える形にしていきたい。
- (2) 看護計画リストの見直しや修正ができた。また、不要なものを削除し整理することができた。次年度引き続き、患者用看護計画作成時に、不要な計画削除をしていく予定。

<文責 藤井 洋子>

# 固定チームナーシング委員会

## 1. 目的

固定チームナーシングにおける各自の役割が理解できていない現状にあり、固定チームを引っ張っていく活動をする

## 2. 活動内容

- ・議題①～⑤の内容について伝達講習をしながら、それぞれの内容について検討していく
  - ①チームのあり方（4C） リーダーのあり方（3B）
  - ②共同業務の見直し（2A）
  - ③申し送りの運用（3A）
  - ④各自の役割の理解を進める方法（3C）
  - ⑤OPE室と外来の日々のリーダーの動き方（OPE室・外来）
- ・固定チームのあり方・定義について確認した上で、当院のあり方を考えていく
- ・委員が固定チームのあり方について勉強して病棟に持ち帰り、メンバーを導いていけるようにする
- ・各項目について、10～15分くらいでまとめたものを発表。発表を元に内容を検討していく  
議題以外に各病棟で欲しい情報があれば、その都度取り上げていく
- ・日勤の受け持ち看護師がわかるように表示プレート作成

## 3. 活動要約

見えた現状の評価と課題

- ・チーム会・リーダー会： 運営ができています
- ・共同業務： 共同業務マニュアルの変更は今後の課題  
→マニュアル見直しは定期的に行う。  
※定期的な技術チェック、教育計画も今後必要
- ・申し送り・カンファレンス：  
看護科の方向性が決まっていないため現状を把握しどういう方向で申し送りからカンファレンスに移行するか検討が必要。  
(カンファレンス基準：主任会に依頼)
- ・各自役割の理解をすすめる方法：  
固定チームナーシングの定義・役割について業務シートがあるので持っていない人に配布、各自で見直しを行いチーム会で説明する。
- ・OPE室と外来の日々のリーダーの動き方：  
今年度固定チームが軌道していない。来年度実際に運用していく方向。
- ・日々の担当看護師の表示プレート作成、モデル病棟で試してみる。
- ・2/17 各部署 小集団活動の報告会

来年度の目標：今年度の課題をもとに、文章化して固定チームフォルダに残す。

<文責 下夕村優子>

# 師 長 会

## 1. 目的

- ・看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑を図る
- ・病院運営に関する諸問題について看護科の意見をまとめる

## 2. 活動内容

- ・看護科の諸問題を協議し決議する
- ・病院経営への提案及び答弁
- ・主任教育・リーダー教育
- ・人事・各委員会に関すること
- ・部署会議・委員会・医療安全からの報告

## 3. 活動要約

委員構成：総看護師長 1 名、副総看護師長 1 名

看護師長 9 名（うち医療安全副室長 1 名、感染対策副室長 1 名）

会議：月 1 回（第 3 月曜日）

### 【平成27年度目標】

- ・目標管理とリンクした看護科教育システムの構築に着手する
- ・看護科全体として経費削減に向けた取り組みをする

### 【1年間の動き】

6 月 オムツセット開始

8 月 看護補助者25：1加算 3C病棟

2月17日 小集団活動報告会 8題

3月3日 看護研究発表会 7題

### 【まとめ】

1年を通してみると、あまり大きな出来事もなかったが、看護補助者を増員して、地域包括ケア病棟を充実できたのはよかった。年度目標については、教育システム構築に着手はできず、来年度にそのまま2年持越しとなった。経費削減に向けての取り組みについては、看護科の目標に掲げたのが功を奏し、部署、個人、主任会などそれぞれが目標を達成できたと評価している。

<文責 佐藤セツ子>

# 師長主任会

## 1. 目的

看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。

## 2. 活動内容

業務、看護科の諸問題を取り入れた意見交換の場

抄読会（最新の医療、看護、トピックス的なできごとなどに対すること）

（前回の当番が次回の発表者 持ち時間一人2～3分）

## 3. 活動要約

（1）会議開催日時 1日／毎月（休祭日の場合は翌日）

16：30～17：30

（2）委員構成 総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長9名

管理主任6名 教育主任12名

（3）内容・抄読会

4月 27年度の目標・体制について

病院経営について（医事課長）

5月 看護補助者教育年間プログラム

抄読会：「新聞記事より～高齢者向け施設の現状～」

「新聞記事より～人工透析使わぬ選択も～」

6月 平成26年度診療報酬改定 薬剤科からの説明

持参薬管理について説明（薬剤科課長）

抄読会：「患者の知らない医療の真実～文芸春秋特集から」

「世界一美しい日本の言葉」

「秋田滅菌研究会参加からのはなし」

7月 電動ベッド入れ替えについて（26年度購入分）

抄読会：「PREVENTING HOSPITAL INFECTIONS Real-World Problems  
Realistic Solutions」

「ナースのためのアサーション」

8月 後発薬品と安全管理について（薬剤課長・医療安全）

患者満足度調査報告

抄読会：「DiNQL事業」について

「身に付けたいファシリテーション能力」について

9月 安全機能付き留置針の説明

抄読会：「終末期医療相談強化へむけて」

「職場で深刻化される新型うつ病」

10月 看護科会議スケジュール表の活用

抄読会：「外来受診患者からのクレームへの初動対応」

「ルールがわかれば変わる 看護師の交代勤務」

- 11月 卒後2年目看護師ケーススタディ発表会
- 12月 保健所監査準備  
抄読会：「認知症を併存するがん患者への対応」  
「日常生活が維持できるようにサポート」  
「コーチングについて」
- 2月 平成28年度診療報酬改定 重症度、医療・看護必要度説明会参加報告  
抄読会：「トクホを買うのはやめなさい」  
「夜中の電話」  
「訪問看護紹介」
- 3月 健康管理センター機能評価受診準備  
抄読会：「業務改善」について  
「自己実現～プロフェッショナルの条件」  
～いかに成果をあげ、成長するのか～  
「最新の腰痛治療」  
「残業させないチームの仕事術」  
「菜根譚」について

#### 4. まとめ

平成27年度は、排泄ケアの質向上と看護業務改善を目的とし紙オムツセット導入を実施した。看護師長・主任会が中心となり4月から準備を始め、6月使用開始となった。

使用開始後も、運営状況の確認や使用状況、問題点などについての検討・改善を行った。

＜文責 佐々木佳子＞

# 副主任会

## 1. 目的

- ・年度初めに年間目標を立て、それに応じて1年間で目標を達成する
- ・看護業務に関する諸問題を討議し、看護業務の円滑を測る

## 2. 活動内容

- ・業務改善に関する事
- ・看護手順に関する事
- ・師長会への提案及び答申

## 3. 活動要約

### (1) 委員構成

看護科副主任 38名

### (2) 会議

月1回（原則第3水曜日）

### 【平成27年度目標】

- ・看護科検査マニュアル及び看護科ケアマニュアルの整備
- ・新人看護師と看護補助者への伝達講習の開催

### 【1年間の動き】

- 4月 ・平成27年度の活動についての検討
- 5月 ・看護補助者研修プログラム「移乗・移送」「食事介助」開催についての検討
- 6月 ・看護科検査マニュアル及び看護科ケアマニュアル確認、改訂の内容と担当部署の確認
- 7月 ・看護補助者研修プログラム準備の進行状況確認
  - ・看護科検査マニュアルに記載されている消毒薬名の再確認
  - ・新人研修「エンゼルケア」開催
- 8月 ・看護科マニュアルの進行状況と、不明な点、不足なマニュアルの検討
- 9月 ・看護補助者研修「介護方法を知って腰痛予防」（移送・移乗）  
リハビリとの共同開催
  - ・抗がん薬曝露対策の検討と外来ニトリルグローブ使用マニュアル及び病棟でのニトリルグローブ使用申請についての報告
- 10月 ・勉強会「抗がん薬曝露による健康上のリスクについて」
  - ・各部署での伝達講習の実施
- 11月 ・勉強会「抗がん薬曝露の経路について」
  - ・前回の伝達講習の検討と各部署での伝達講習の実施
  - ・看護補助者研修「嚥下について」（食事介助）リハビリと共同開催
- 12月 ・勉強会「抗がん薬の投与管理・PPEについて」

- ・伝達講習後の反応と実施方法の検討と各部署での伝達講習の実施
- 1月 ・勉強会「排泄物の取り扱い・スピル対策について」
- ・伝達講習での質問事項、実施方法の反省と各部署での伝達講習の実施
- 2月 ・看護科検査マニュアル及び看護科ケアマニュアル確認、改訂作業の最終確認
- ・伝達講習のあり方についての検討
- 3月 ・アンケート「抗がん剤の取り扱いに関する調査」の実施
- ・来年度の抗がん薬における職業性曝露対策勉強会についての検討
- ・新人研修「化学療法におけるポート管理」の実施

### 【まとめ】

平成26年に副主任会が立ち上げられ2年目の年であった。

初年度の継続だけではなく、自主的な活動をめざして抗がん薬の職業性曝露に着目した。病棟でのニトリルグローブ使用に向けての勉強会、伝達講習を行い抗がん薬の職業性曝露に対する認識の向上のため活動を行った。

<文責 佐藤由美子>

# 看護補助者会

## 1. 目的

- ・看護補助者業務に関する諸問題を討議し、業務の円滑を図る
- ・看護補助者・業務員の業務について学習する

## 2. 活動内容

- ・看護補助者業務の諸問題を協議し、総看護師長に提案、答申する
- ・研修会に積極的に参加し、今後に役立て、スキルアップを図る

## 3. 活動要約

### 【平成27年度目標】

病棟間のコミュニケーションを図り、スムーズに業務を進める

### 【平成27年度の反省】

各部署間で患者さんも転棟の際、お互いの情報を連絡しあい、情報共有もでき良かった。目標はだいたい達成できたと思う。

### 【まとめ】

看護補助者会としてのまとまりは年を重ねる毎によくなっている。自分達の目標をきちんと出し、それを達成すべく頑張っている。何か問題点が起きた時は、総リーダー、サブリーダーに連絡するだけで、補助者間の意見をまとめて動いてくれるようになり、看護師との連携もスムーズに行っている。

年間計画された研修会にも多くの参加があり、レベルが上がってきている。自分達、自らも希望した研修会もあり、自己研鑽している。

来年度も積極的に自分達の意見が言えるように、頑張っていく予定である。

### 平成27年度研修内容

開催日	内 容	講 師
5/15	標準予防策	感染認定看護師
5/19. 21. 23	オムツのあて方	(株)花王 児玉弘子先生
6/15～19	個人防具の取扱い、手指衛生の正しい方法をマスターする	感染認定看護師
7/3	当院の医療安全について	医療安全管理者
7/10	病院の廃棄物の取扱いから最終処分まで	感染認定看護師 総務課
7/17	効果が実感できる口腔ケアの実際 (全体研修)	東京医科歯科大学 下山和弘先生
8/10	病院のリネンの取扱いそして院外の再処理まで	感染認定看護師 総務課
8/20	医療安全研修会 (全員研修)	上都賀総合病院 副院長・看護部長 齋藤友利子先生



開催日	内 容	講 師
9/2	介護方法を知って腰痛対策	理学療法士
9/15	褥瘡対策のいろいろ	皮膚・排泄ケア認定看護師
10/15	安全なベッド環境・離床センサー	(株) パラマウント社
10/20	環境清掃のポイント	感染認定看護師 総務課
11/5	食事介助講座	言語聴覚士 看護師
11/30. 12/2	接遇研修 クレーム対応 個人情報保護	総務課長
12/11	感染症を治す5つのコツ (全員研修)	前橋赤十字病院 林 俊誠先生
1/25. 28	医療安全シンポジウム (全員研修)	病棟、医事課、薬剤科、総務課 OP室
3/30	平成28年度診療報酬改定について	医事課

<文責 佐藤セツ子>

## 學術研究業績



# 医局勉強会

平成27年4月～平成28年3月

## 【目的】

質の高い医療を提供するため医師・コメディカルの育成を目指す

## 【開催日時】

毎月第2・第4火曜日（8月は休み）8時～8時30分

## 【開催内容】

平成27年4月	乳癌治療について・・・・・・・・・・	泉 純一（放射線科）
平成27年4月	川崎病の初期治療・・・・・・・・・・	小松 明（小児科）
平成27年5月	心機能とは・・・・・・・・・・	高木 遥子（循環器内科）
平成27年5月	輸血副作用について・・・・・・・・・・	畑沢 淳一（産婦人科）
平成27年6月	緩和ケア療法の新しいオピオイドについて・・・・・・・・	石田 良樹（薬剤科）
平成27年6月	膝癌術後孤立性肺転移の2例・・・・・・・・	高橋 香奈（外科）
平成27年7月	膿瘍形成性虫垂炎に対するinterval appendectomy ・・・・・・・・	吉岡麻依子（外科）
平成27年7月	頭痛診療のヒヤリハット・・・・・・・・	塩屋 斉（脳神経内科）
平成27年9月	抗癌剤漏出の対処法と当院での発生状況・・・・・・・・	嶋田 裕子（薬剤科）
平成27年10月	異物誤飲・消化管異物・・・・・・・・	伊藤 周一（消化器内科）
平成27年10月	急性腹症診療ガイドライン・・・・・・・・	佐藤 公彦（外科）
平成27年11月	ヘリコバクターピロリ菌・・・・・・・・	吉田 達哉（消化器内科）
平成27年11月	みんな苦手な精神的な“せん妄”予防と対策・・・・・・・・	丹羽 誠（外科）
平成27年12月	腱板断裂に対する治療指針・・・・・・・・	大内賢太郎（整形外科）
平成27年12月	免疫抑制.化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン ・・・・・・・・	武内 郷子（消化器内科）
平成28年1月	前立腺の疫学・・・・・・・・	高橋 誠（泌尿器科）
平成28年1月	睡眠時無呼吸症候群（SAS）・・・・・・・・	根本 敏史（循環器内科）
平成28年2月	人工股関節全置換術・・・・・・・・	富岡 立（整形外科）
平成28年2月	ダミアン神父とハンセン病・・・・・・・・	滝澤 淳（産婦人科）
平成28年3月	ペインクリニック外来を受診した三叉神経痛患者の分析 ・・・・・・・・	寺田 宏達（麻酔科）
平成28年3月	インフルエンザ・・・・・・・・	渡邊 圭子（薬剤科）

<文責 谷口 明美>

## 平成27年 学術発表

No.	月 日	学 会 名	開催地	演 題	発 表 者	
1	H27. 7. 30	第56回日本人間ドック学会学術大会	横浜市	当院二日ドック血清蛋白分画検査でM蛋白が疑われた症例の検討	医 局	船岡 正人
2	H27. 4. 16	第44回日本脊椎脊髄病学会	福岡市	脊椎インストゥルメンテーション手術における術前からのテリパラチド投与の効果	医 局	江畑公仁男
3	H27. 7. 25	日本ペインクリニック学会第49回大会	大阪市	腰椎椎間板ヘルニアによるS1神経根症に対して後仙骨孔からカテーテルを挿入し硬膜外洗浄を行った1例	医 局	寺田 宏達
4	H27. 11. 6	日本蘇生学会第34回大会	秋田市	異型適合血輸血の3症例		
5	H27. 5. 22	日本超音波医学会第88回学術大会	東京都港区	M-modeによる腹部嚢胞性腫瘍内の対流現象に関する検討	医 局	中島 裕子
6	H27. 5. 23		東京都港区	肝良性腫瘍の輸出血管に関する検討		
7	H27. 5. 23		東京都港区	造影超音波での肝腫瘍後方エコー増強例の検討		
8	H27. 10. 18	日本超音波医学会第50回東北地方会学術集会	青森市	造影US時におけるくも状エコー (range-ambiguity artifact) を除去する工夫		
9	H27. 11. 13	第43回日本頭痛学会総会	東京都新宿区	患者も医者も助かっても膜下出血、助けられなかったも膜下出血	医 局	塩屋 斉
10	H27. 10. 31	第53回日本癌治療学会学術大会	京都市	当院における切除可能進行胃癌に対する術前化学療法短期成績		
11	H27. 11. 28	第77回日本臨床外科学会	福岡市	多臓器癌術後フォローアップ中に悪性化が疑われた膵IPMNの2例	医 局	伊勢 憲人
12	H27. 12. 11	第28回日本内視鏡外科学会総会	大阪市	腹腔鏡下胃全摘術におけるVロックを用いた共通孔閉鎖		
13	H27. 11. 27	第77回日本臨床外科学会	福岡市	上部消化管造影検査後に大腸穿孔をきたした2例	医 局	岩崎 渉
14	H27. 12. 12	第28回日本内視鏡外科学会総会	大阪市	腹腔鏡下幽門側胃切除術施行時のBMI、内臓脂肪面積の関係		
15	H27. 2. 28	第45回日本人工関節学会	福岡市	人工股関節置換術患者の日常生活動作獲得率は？	医 局	富岡 立
16	H27. 11. 20	第50回日本脊髄障害医学会	東京都港区	頸部化膿性脊髄炎を併発した原発性腸腰筋膿瘍の1例	医 局	大内賢太郎
17	H27. 10. 18	日本超音波医学会第50回東北地方会学術集会	青森市	肝ポルフィリア症 (chronic hepatic porphyria:CHP) と思われた1例	医 局	伊藤 周一
18	H27. 2. 20	第30回日本環境感染学会総会・学術集会	神戸市	結腸手術のSSIサーベイランス第2報	感染対策室	小川 伸
19	H27. 10. 8	全国自治体病院学会	函館市	インフルエンザ対策の取り組み		
20	H27. 9. 27	固定チームナーシング研究会第11回東北大会	盛岡市	知識と技術の統一を目指した小集団活動	看護科	遠藤ちづる
21	H27. 10. 8	全国自治体病院学会	函館市	尿道留置カテーテルの早期抜去に向けたカンファレンスの実践と検討	看護科	藤井 千晶
22	H27. 8. 15	第7回J感染制御ネットワークフォーラム	仙台市	中心静脈カテーテルラインのベストプラクティス	看護科	伊藤 開
23	H27. 11. 15	日本臨床検査技師会 北日本支部感染制御部門	福島市	病院感染対策における細菌検査室の役割	臨床検査科	佐々木絹子
24	H27. 10. 18	日本超音波医学会 第50回東北地方会学術集会	青森市	Superb microvascular imaging (SMI) が診断に有用であった門脈腫瘍栓の1例	臨床検査科	小丹まゆみ
25	H27. 9. 12	第7回東北CT技術研究会	秋田市	臨床に必要な画質と適正化への取り組み (小児領域)		
26	H27. 11. 21	第31回日本診療放射線技師学術大会 (JCRT)	京都市	線量評価とDRLの活用 (透視領域)	診療放射線科	法花堂 学
27	H27. 11. 1	第5回東北放射線医療技術学術大会	山形市	放射線管理士に求められる活動とは—医療被ばく低減認定について—		

# 職員等互助会



## 職員等互助会

### 概要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

### 役員氏名

会長	藤盛 修成
副会長	郡山 邦夫
幹事	高橋 功、平塚多喜雄、原田 優子、小田嶋恵美子、 丹 厚子、後藤美佐子
監事	佐藤セツ子、浮嶋 優子
事務	亀谷 良文

### 27年度に実施した主な病院行事等

- 平成27年4月24日 職員歓迎会 よこてシャイニーパレス 参加者108名  
実行委員長 滝沢 淳  
実行委員 村上 千恵、石川 順基、北小路由紀、長瀬 智子、原田 優子  
吉水 桃子、伊藤 開、佐々木樹里、菊谷ゆかり、佐藤 智佳  
佐々木史子、小田嶋明子、柴田 昌洋、千葉 崇仁
- 平成27年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者53名  
実行委員長 伊藤 周一  
実行委員 細谷 謙、小田嶋鷹哉、小宅 英樹、長瀬 智子、天羽 勝義  
村田 菜緒、加賀 朋子、高橋 大樹、山田 沙織、江畑 祐佳  
高橋 佳子、佐藤 優亘、柿崎 更生、佐藤ひろみ、照井希世子  
柿崎志穂子
- 平成27年9月12日、17日、25日～27日、10月7日、10日、17日、  
10月28日～29日、10月31日～11月1日  
研修旅行 仙台市、仙北市、盛岡市、横浜市・鎌倉市、札幌市 参加者110名  
実行委員長 富岡 立  
実行委員 郡山 邦夫、古関 佳人、柿崎 幸、千田美岐子、高橋 麗  
田中 由江、佐藤 郁美、高橋エリ子、小野寺摂子、高橋はるみ  
柿崎 拓磨、中村勇美子、菅原 祐司、伊藤 誉幸、佐々木和貴子  
加藤 広美



○平成27年12月18日 大忘年会 横手セントラル 参加者201名

実行委員長 三浦 孝也

実行委員 藤原 理吉、加賀 直之、武石 知希、藤原 愛、藤原 由香  
末次エリカ、菅原なつき、佐野 友香、小田島千鶴子  
高橋はるみ、藤沢マリ子、小田嶋明子、糸井 豪、阿部千鶴子  
高橋 美幸、三浦由紀子

○平成27年12月23日 白衣のクリスマスコンサート 一般70名、職員60名

実行委員長 小野 怜子

実行委員 柿崎 千尋、高橋 茂実、近江真梨子、柴田 一美、天羽 勝義  
山田百合子、阿部絵里香、藤井 綾、武田フミエ、梅川 瑠衣  
長井美憂希、大友 絢香、長澤 克彦、小椋美紀子、後藤恵理子  
長谷川澄子

○平成28年3月13日 送別会 よこてシャイニーパレス 参加者103名

実行委員長 岩崎 渉

実行委員 高橋 愛美、後藤沙央里、新山由香子、千田美岐子、川越 真美  
下夕村早苗、煙山由紀子、藤井 綾、山石 陽子、山寺 穂波  
安藤 宏子、中村奈保子、伊藤 建一、高橋 清、瀬田川春香  
照井 奏

○サークル補助等 5件

○慶弔給付 結婚祝金 9件、弔慰金 15件、退職報償金 11件

<文責 亀谷 良文>

# 同好会活動



# 野 球 部

## 平成27年度 野球部活動報告

今年度の野球部の活動は、例年よりも天気が良く、練習を多く行う事ができた。公式戦である県南病院対抗野球大会に出場し、7対6で市立大森病院に敗れた。最終回は代打、代走等積極的な選手交代により1点差まで追い詰め、チーム一丸となって精一杯力を出し切れたと思う。惜しくも負けてしまったが、来年につながるよい試合だったと思う。

新入部員も加わり、徐々に調子もなくなってきた。来年は、大会で優勝を目指して頑張っていきたいと思う。

### ○ 主な活動内容

日付	内容	場所
5月2日	練習	大鳥公園
5月31日	練習	大鳥公園
6月6日	練習	大鳥公園
6月13日	病院対抗野球大会 横手病院対大森病院 結果・・・7対6で敗退	雄和野球広場
10月31日	病院交流野球大会（球納め） 横手病院対大森病院 結果・・・23対4で勝利	大森球場

<文責 加賀 直之>

## バレーボール部

### 【活動】

平成27年 5月13日	さかえ館で練習	平成27年 5月20日	さかえ館で練習
平成27年 5月27日	さかえ館で練習	平成27年 6月 3日	さかえ館で練習
平成27年 6月10日	さかえ館で練習	平成27年 6月17日	さかえ館で練習
平成27年 6月24日	さかえ館で練習	平成27年 7月 1日	さかえ館で練習
平成27年 7月 8日	さかえ館で練習	平成27年 7月15日	さかえ館で練習
平成27年 7月22日	さかえ館で練習	平成27年 7月29日	さかえ館で練習
平成27年 8月 5日	さかえ館で練習	平成27年 8月19日	さかえ館で練習
平成27年 8月26日	さかえ館で練習	平成27年 9月 3日	さかえ館で練習
平成27年 9月10日	さかえ館で練習	平成27年 9月17日	さかえ館で練習
平成27年 9月24日	さかえ館で練習		
平成27年 9月26日	第36回秋田県病院対抗バレーボール大会出場 会場：県営トレーニングセンター		

### 【第36回秋田県病院対抗バレーボール大会出場メンバー】

1. 石川順基	リハビリテーション科	2. 古関佳人	リハビリテーション科
3. 加賀直之	リハビリテーション科	4. 小田嶋鷹哉	リハビリテーション科
5. 後藤沙央里	リハビリテーション科	6. 佐藤睦子	看護科
7. 高橋まゆみ	看護科	8. 加賀朋子	看護科
9. 佐藤宏樹	看護科	10. 三浦静香	看護科
11. 青池満雄	医事課	12. 石塚紫	医事課
13. 小松田はつみ	医事課		

### 【第36回秋田県病院対抗バレーボール大会結果】

#### <予選リーグ>

- 1 試合目 JCHO秋田病院と対戦し、セットカウント2 - 0で勝利
  - 2 試合目 本荘第一病院と対戦し、セットカウント2 - 1で惜敗
- 1勝1敗で予選リーグ敗退。

<文責 阿部千鶴子>

## 卓球部

われわれ市立横手病院卓球部「YHTC」は平成24年に発足し、横手体育館の小体育館で、リフレッシュ、ダイエット、フレンドシップ等を目的に、週一回、2時間程度の練習を行っております。平成25年からは己の実力の自覚と反省をしながら年に2回行われる秋田県職場対抗卓球大会に参加しております。卓球経験者のみならず、スポーツでいい汗をかきたいと思っているかたの参加をお待ちしております。

第94回秋田県職場対抗卓球大会 平成27年4月29日 秋田県立体育館

第94回秋田県職場対抗卓球大会は、平成27年4月29日秋田市の県立体育館で行われ、過去4大会の成績を基に分けた1～10部に県内49事業所から80チームが出場し、熱戦を繰り広げました。1部～10部までが4チームずつA・Bの2ブロックにわかれてリーグ戦を行った後、両ブロックの同順位チームで各部の順位決定戦を行いました。

市立横手病院チームは6部に出場し、8チーム中5位の成績でした。

参加メンバー：藤盛 修成、伊藤 周一、佐々木 諒、高橋 明久

試合結果：

6部リーグ：Aブロック 3位通過！

市立横手病院 0 - 3 五城目役場A

市立横手病院 3 - 1 大館市役所B

市立横手病院 1 - 3 キャタピラー東北

6部 位6位決定戦

市立横手病院 3 - 2 プラスチックホンダ 5位！

第95回秋田県職場対抗卓球大会 平成27年12月6日 秋田県立体育館

第95回秋田県職場対抗卓球大会は、平成27年12月6日秋田市の県立体育館で行われ、過去4大会の成績を基に分けた1～13部に県内56事業所から99チームが出場し、熱戦を繰り広げました。1部～11部までが4チームずつA・Bの2ブロックにわかれてリーグ戦を行った後、両ブロックの同順位チームで各部の順位決定戦を行いました。

市立横手病院チームは6部に出場し、8チーム中8位の成績でした。

参加メンバー：藤盛 修成、伊藤 周一、佐々木 諒、高橋 明久

試合結果：

6部リーグ：Aブロック 4位通過！

市立横手病院 0 - 3 日本製紙A

市立横手病院 1 - 3 J A秋田おばこA

市立横手病院 0 - 3 東北電力秋田B

6部 7位8位決定戦

市立横手病院A 2 - 3 大館桂工業(株)B 8位！

<文責 藤盛 修成>

## 編 集 後 記

今年から年報構成変更・刷新に伴い、記載項目が統一されることとなった。基本方針、特色・概要、業務内容、単年実績、展望・今後の目標、研究活動・症例報告・・・と続く。

コンピューターの扱いが苦手な私としてはエクセルの表をワードに張り付けるだけでも大仕事である。築地→豊洲のように完全に新天地を求めなくても、使えるものは使い、修理するところは修理し、建て替え、増築は臨機応変で、とはいかないものなのか??

<年報編集委員長 小松 明>

### 平成27年度 市立横手病院年報

平成29年 3月24日 発行

編 集 年報編集委員会及び事務局総務課

秋田県横手市根岸町 5番31号

TEL 0182-32-5001

FAX 0182-32-1782